

ヤ因テ上告ノ趣旨ハ相立タス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

第五百七十八號

○判文(強姦ノ件) 明治十五年十一月十四日上告
明治十六年五月十五日申渡

大坂府和泉國堺區中ノ町西四丁

七十六番地平民

山田庄平

明治十五年五月廿五年二ヶ月

強姦被告事件ニ付明治十五年五月九日堺輕罪裁判所豫審ニ於テ證憑充分ナラサルニ付免訴
ノ上放免ストノ言渡シニ對シ檢事補野中宗貞ハ同會議局ヘ故障ヲ爲シタルニ會議局ニ於テ
ハ豫審言渡シヲ認可シタルニヨリ上告セリ其要領ハ被害者泉田「ハル」ノ陳述醫師清川勉林
松壽ノ鑑定書且「ハル」ノ實母「トメ」ニ對シ被告カ「ハル」ノ養生ヲ囑托シ娼妓飯島「ツサユ」
ニ其治法ヲ相談セシ等ノ點ニ於テ證憑充分ナルニ免訴ノ上放免ノ言渡シヲ爲シタルハ不當
ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手八山田庄平ハ明治十五年三月五日乃至八日ノ堺區少林寺町西四丁頃野「ハル」方龍神橋
通姓名不知貸席業阿波文ト云フ者方ニ止宿シテ他出セサルニヨリ被害者ニ出逢ヒタルコトナ
シ故ニ被害者「ハル」ニ交接ノ暇無キ「明瞭ナリト答辨ス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以判決スル左ノ如シ

主告ノ要旨ハ第一被害者泉田「ハル」カ陳述第二「ハル」ノ實母「トメ」ニ對シ治療ヲ囑托シ第
三娼妓飯島「ツサユ」ニ該治方ヲ聞習シ第四醫師ノ鑑定此四個ヲ以テ強姦ノ証憑充分ナリト云
ト雖果而被告カ強姦ヲ爲シタルコトヲ確證下爲スヲ得ス何シトナレハ原書類ヲ閱スルコトハ
「ハル」カ強姦サレタルハ明治十五年三月七日頃ナリト云ヒ其日時ヲ確定セタ又「ハル」ノ父
保三郎カ告訴シタルハ明治十五年五月一日ニシテ已ニ數十日ヲ經過セシ後ニ係レリ又醫師
ノ「ハル」ヲ鑑定シタルヲ見ルニ微毒傳染アリト雖被告ハカ陰部ヲ鑑定ニ於テハ昔日微毒ニ
觸レタルモ已ニ全愈シテ當時傳染スヘキ徵候ヲ有セスト云ヘリ之即チ原裁判所豫審ニ於テ
證憑充分ナラサルニ付放免スト言渡シタル事實ニシテ同會議局カ該言渡シヲ認可セシ所以
ノモノ也畢竟證憑ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ職權ニシテ他ノ之ヲ侵ス能ハサレハ
上告ノ趣旨相立ストス

第五百七十九號

○判文(脅迫ノ件) 明治十五年十二月十二日上告
明治十六年五月十五日申渡

宮城縣平民陸前國柴田郡舟岡村
二百十番地菊地善治借舎常治養
子農 澁谷善五郎

明治十五年八月
二十年九月

同縣平民同國同郡關場村庄吉三
男農

薄木源四郎
明治十五年八月

十九年四月

山形縣平民羽前國南村山郡三日

町常七男監甲職

高橋市藏
明治十五年八月

十六年二月

宮城縣平民陸前國柴田郡足立村

深吉弟農

佐藤莊三郎
明治十五年八月

二十年七月

右善五郎外三名カ脅迫被告事件ニ付明治十五年八月二十一日大河原治安裁判所ニ開キタル
仙臺輕罪裁判所ニ於テ被告共カ所爲ハ脅迫罪ト認ムヘキ廉ナシ只傲慢無禮ニ止ルモノト判
定シ各無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代理警部内田義明ニ於テ上告ヲ爲シ
タリ因テ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ要旨ハ被告カ小島清治ヲ脅迫セシ所爲各證據ニ依リ明白ナルニ濫リ之ヲ無罪ト判
決シタルハ不當ナリト云フニアリ夫諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ承審官ノ職權ニ

シテ其事實ノ判定ト探證トニ於テハ他ヨリ之ヲ非難シ得可カラサルハ勿論本件上告ノ旨趣
ハ治罪法第四百十條各項以外ニ係ルヲ以テ上告ヲ爲スノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四
百廿七條ニ法リ該上告ハ棄却スルモノ也

第五百八十號

○判文(証券印稅犯則ノ件) 明治十五年十一月九日上告
明治十六年五月十六日申渡

長崎縣肥前國小城郡多久原村士
族

中西本信
明治十五年七月

四十六年

同縣同國同郡同村士族

柴田小太郎
明治十五年七月

四十九年

同縣同國同郡同村士族

木村茂造
年齡不詳

右本信外二名カ被告事件ニ付明治十五年七月六日佐賀輕罪裁判所於テ被告本信ハ明治十四
年四月二日金高千貳百五十圓ノ約定證書ニ印紙ヲ貼用セズシテ小松久藏ハ差入小太郎茂造
ハ之カ保證人ニ相立タルモノトシ本信ハ証券印稅規則第四則第二條ニ照シ賦稅高二十倍ノ

罰金二十五圓ニ處シ小太郎茂造ハ同則第九條ニ依リ各罰金三圓ニ處スル旨言渡シタル裁判
 三對シ被告三名カ上告ヲ爲シタル要旨ハ本件ノ證書タルヤ其名義ハ炭山讓渡證書タルモ其
 實炭山借區券狀内輪讓渡證書ニシテ證券印稅規則中之カ明文ナク若シ之ヲ該則ニ問擬セシ
 トセハ右題名炭山讓渡證書トアルニ依リ同則第二則第一條第一類ヲ適用スヘキモ不ナルニ
 原裁判ノ茲ニ出カルハ旁不法ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補黒川秀波於テモ該證書ハ同
 規則第二則第一類ニ該ルモノト認ムルニ付原裁判ハ不當ナル旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報
 告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 證券印稅規則第二則第一類ニ所謂讓與證書トハ地所建家ノ讓與證書ヲ指スモノニシテ本件
 ノ如キ該證書面ニ記載アル金額ノ授受ヨリ生スル約定証文云々非ス故ニ原裁判所於
 テ該證書面ノ名義如何ヲ問ハス該規則第二則第一條第二類金錢約定証文トアルニ照シ處斷
 セシハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ到底相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條外規則ニ
 從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第五百八十壹號

○判文(囚徒逃走及心竊盜ノ件)明治十五年十一月十六日上告
 明治十六年五月十六日申渡

石川縣加賀國石川郡下柏野村六

十一番地平民安太郎弟日雇稼當

ハ若實ニ竊盜ノ件ニシテ、
 今懲役人由リ、
 油谷、與、三、一、松、

明治十五年七月
 二十一年一月

囚徒逃走及心竊盜被告事件ニ付明治十五年七月三十一日金澤輕罪裁判所カ刑法第四百十二
 條同第三百六十六條同第三百六十九條同第三百七十六條同第四百條ニ依リ竊盜罪ヲ重上判シ
 重禁錮二年ニ處シ監視一年ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告起リ其要領ハ逃走罪ノ如
 クハ始メヨリ官之ヲ覺知スルモノナレバ自首ノ例外タル言ヲ俟タサルモ竊盜罪ハ就縛ノ際
 探偵人ニ向テ自首シ置キタルニ減等ノ處分ニ至ラサルハ不當ナリト云ヒ且先ニ懲役十年ノ
 刑ニ處セラレタルモノナレハ再犯ニ該ルヘキモノニテ其加フヘキヲ加ヘ其減スヘキヲ減セ
 ラルハコソ允當ナルニ原裁判言渡ハ茲ニ及ハサルハ不法ナリト云フコアリ
 對手人檢事別府景通ハ上告人與三松ハ自首減等ヲ與ヘラレサルハ不當ナリト云フ雖モ逮
 捕ヲ受サル已前自身ヲ首出セシモノニアラス既ニ逮捕セラレ罪狀供述シタルモノニテ自首
 ニアラサルヤ明ナリ故ニ原裁判ハ不當ニアラサル旨答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 犯罪自首タルヤ官及ヒ事主等ニ未タ何等ノ嫌疑ヲモ生セサル前出首スルヲ以テ自首ノ本義
 ニ適當スヘキモノナルモ本按與三松ノ事實ノ如キ他罪ニ因リ追捕就縛ノ後竊盜罪アルヲテ
 供述セシモノニテ刑法第八十五條ノ精神ニ適セサルナリ其他再犯加重ノ處分ナキト云フト
 雖モ舊法ニ於テ受ケタル罪ヲ以テ新法上之ヲ再犯ナリト云フヲ得ルハ刑法第三條ニ法律
 ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホストヲ得ストアリテ明斷タリ因テ上告ノ趣旨相立タサルナリ
 右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第五百八十二號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月十六日申渡

東京府芝區二本榎元町五番地平

民野口茂之方同居平民袴製造職

池田清吉

明治十五年七月
二十四年七月

竊盜被告事件ニ付明治十五年七月二十七日東京輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條同第三百七十五條同第三百七十二條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ仍ホ第三百七十六條ニ照シ監視六月ニ付ス
言渡タル裁判ニ對シ檢事補豊島久臣ハ上告セリ其要領ハ被告清吉ノ所爲タル其當時捕押ヘタル川名吉助相川喜三郎山下久藏ノ申立其他ノ情況ニ據ルニ犯罪ヲ遂ケタルコト明瞭ナル
ニ刑法第三百七十二條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フコアリ

對手ハ池田清吉ハ答辨セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
原裁判言渡ニ(兩換渡世川名吉助居宅窓下ニ有之銅貨貳圓ヲ竊取シ遁走ノ際即時取押ヘラレ云々)トアリテ其決意ノ目的ヲ遂ケ一旦占有セシモノナシハ既遂ノ竊盜罪ナルコト未
遂犯ナリトシ減等ノ處分ニ及ビシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ
依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

池田清吉

原裁判言渡ニ掲タル事實ノ理由及ヒ證據トニ據リ竊盜ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナリ即チ此
ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重
禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上

二年以下ノ監視ニ付ストアルコト該ル

因テ池田清吉ヲ重禁錮三月十五日ニ處シ監視六月ニ付スル者也

第五百八十三號

○判文(懲役囚減等ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月十六日申渡

埼玉縣武藏國兒玉郡新里村平民

農業

常木福次郎

明治十五年三月
二十八年七月

懲役十年五十日ノ服役中懲役場失火ノ際消防方盡カスルニ因リ明治十年三月廿三日舊熊谷
裁判所前橋支廳ハ改定律例第三百六條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七年五十日申付ルト言
渡シ既ニ確定ノ後明治十五年十一月十四日附大審院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニ因リ非常
上告ヲ爲シタル其要領ニ曰福太郎ハ竊ニ懲役十年五十日ノ刑ニ處セラレ服役中懲役場出火
ノ際盡力セシヲ以テ改定律例第三百六條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七年ニ處スヘキモノ
ナルコト舊熊谷裁判所前橋支廳ハ懲役七年五十日ト言渡タルハ不當ノ擬律ニシテ相當ノ刑ヨ

明治十五年五月
三十五年一ヶ月

德島縣阿波國名東郡西新町平民
雜業

片山喜四郎

明治十五年五月
二十九年四月

證書騙取被告事件ニ付明治十五年五月十七日洲本治安裁判所ニ於テ神戸輕罪裁判所カ無罪
 放免ス言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部近藤猛ハ上告セリ其要領ハ被告人共ノ所爲タル詐
 欺ノ手段ニ成立テタルハ証憑ニ照シ見ルニ足レルモナルニ原裁判所ハ被告人共カ騙取ノ
 念慮ナキモノトシ又假リニ騙取タルモノトスルモ丁卯十二月晦日以前ノ取引ニ係レハ効
 ナキ証書ナリトシ無罪放免言渡タルハ不法ナリト云フニアリ
 對手人高田永吉片山喜四郎ハ原裁判ヲシテ至當ノ裁判ト思料スル旨答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 原裁判言渡ニハ被告カ騙取スルノ念慮ヲサリシハ庄八ハ對テ親屬ノ立會ヲ要シタルト正
 實ニ之ヲ授受シタルトニ於テ判然タリ況ヤ庄八ハ長平田朋太郎ノ説論ヲ受ル節モ更ニ騙
 取セラレタルヲ法申立サル云々旨トシ理由ヲ付シ無罪ト判定セシモノニ對シ其事實ニ違ヒ
 アリト論難スト雖モ事實認定ハ承審官ノ特權ニシテ他ヨリ之ニ侵入シ得可カラサレハ上告
 ノ理由ト爲ス夫得ズ其他慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル取引ナルヤ否之點ニ至テハ
 原裁判所モ假使ニ騙取シタルモノトスルモ云々トテ之ノ比喩ヲ示シタルマテニテ主トシテ付

シ、理由ニモアラヌ又本案ノ必要點ニモアラサレハ別ニ辨明セズ因テ上告ノ趣旨無効ナリ
 第五百八十六號

若ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也
 明治十五年十一月十五日
 明治十六年五月十六日
 愛知縣尾張國名古屋區池田町百

四十七番屋敷士族青木正治長男
 無職業

青木
 松次郎
 明治十五年七月
 十二年十月

監視規則違背及ヒ竊盜未遂被告事件ニ付明治十五年六月十八日名古屋輕罪裁判所カ刑法第
 三百六十六條同第三百七十五條同第一百二十二條同第九十二條同第八十條同第三百七十六條ニ
 依リ重禁錮一月十五日ニ處シ監視六月ヲ附加シ且監視票ヲ下付タル爲メ人民扣所ニ扣サセ
 置タルニ斷リナク扣所ヨリ立去リタルモ刑法附則第二十七條ノ監視規則ニ違背セシモノト
 爲メテ得スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補青木素ハ上告セリ其要領ハ被告ハ主刑滿期ニ付警
 察署ニ於テ監視票ヲ下付スル爲メ同署人民扣所ニ扣サセ置キタルニ無斷其扣所ヲ立去リ
 タルモ監視規則違背シタルモノト爲メテ得スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補青木素ハ上告セリ
 云々

對手人青木松次郎ハ檢察官上告ニ對シ申立レコトナシト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽クニ原裁判所カ刑法附則第二十七條ノ明文ニ適セサルヲ以テ其罪ノ問フヘキナシト處斷セシハ擬律錯誤ニアラズ別ニ不當ト認メヘキ廉アルニ因リ附帶トシ上告ヲ爲スト申述セリ其要領ハ杉浦廣作カ腰ニ差シ居リタル矢立ヲ拔取タルニ直チニ同人ニ取返サレ爲メニ竊盜ヲ遂ケサリシコトハ云々トシ刑法第十二條未遂犯罪ヲ以テ之ヲ處斷シタル蓋シ裁判官ハ一旦取得タルモ復之ヲ取返サレタルヲ以テ之ヲ未遂犯トナスモハ其未遂ノ區域茫洋トシ津涯ナキニ至ラン本案事實ノ如キハ未遂犯ニアラサルニ原裁判所ガ論決玆ニ出テサル擬律錯誤ナリト云フニアリ因テ之ヲ審案スルニ刑法第一百五十五條監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時云々トアリテ其規則即チ刑法附則第二章監視ノ部ヲ見ルモ被告松次郎カ事實ノ如キ之ヲ檢束スルノ法文アルコトナシ然ラハ則チ原裁判所カ罪ナシト判定セシハ允當ニシテ上告ノ趣旨無効ナリトス
 附帶上告ノ理由ニ付原裁判所カ認メタル事實ヲ見ルニ明治十五年六月五日名古屋區本町筋ニ於テ同區三輪町平民杉浦廣作カ腰ニ差シ居タル矢立ヲ拔取リタルニ直チニ同人ニ取返サレ云々トアリテ一旦取リ得タルモノナレハ其目的ノ遠因ハ達シ得ヘカアラサルモ既ニ竊取シテ其目的ノ近因ヲ遂ケタルモノナレハ未遂犯ナリト言フヲ得ス然ルチ原裁判所ハ之ヲ未遂犯トシ減等ノ處分ニ及ヒタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百三十一條ニ依リ竊盜罪ニ係ル一部分ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

青木松次郎

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ証憑トコ據リ竊盜ノ罪ヲ犯シ再犯ニシテ犯時齡十三年十月ナレト明白ナリ即チ此事實ヲ罰スル法律ハ
 刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取スルモノハ竊盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シテ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付ストルニ該ル而シテ再犯ニ係ルチハ以テ刑法第九十三條ニ依リ本刑ニ等イ加ヘ三月十五日以上五年以下トナル犯時十三歲以上十六歲ニ滿タサルモ是非辯別アリテ再犯シタルモ以テ認メ同第八十條末項ニ依リ三等減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮トナシ
 因テ青木松次郎判重禁錮二月ニ處シ監視六月ヲ附加シ差押差タル矢立ハ所有主杉浦廣作ニ還付スル者也
 第五百八十七號

○判文(借用物消費ノ件)明治十五年十二月五日上告
 明治十六年五月十六日申渡
 富山縣越中國下新川郡釋迦堂村
 石持源七郎
 明治十五年七月
 借用物消費被告事件ニ付明治十五年七月八日富山縣輕罪裁判所ニ於テ處犯刑法實施前ニ在ルヲ以同第三條第三項ニ照シ新舊法ヲ比照シ舊法ニ於テハ賊盜律詐欺取財條ニ因リ竊盜ニ準

終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ルノ場合ハ治罪法第三百四十六條ニ規定スル處ニシテ
本案ノ如キ被告人ノ處分ニ對シ其當否ヲ論難ス可キ權利ナキ者トス故ニ原裁判所會議局カ
豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ相當ニシテ本件ハ原告ノ成立セラル者トス

第五百八十九號

明治十五年十一月八日上告
○判文(姦淫ノ件) 明治十五年五月十六日申渡

右ノ理由ヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從之ヲ棄却スル者也
埼玉縣武藏國榛澤郡萱場村平民

本 宇 吉
明治十五年一月

右坂本宇吉ハ明治十五年一月十九日熊谷輕罪裁判所ニ於テ姦淫ノ被告事件ニ付新舊民法
比照シ其ノ輕キ刑法第三百五十三條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處ス下言渡シタル裁判ニ對シ上
告セリ其要旨ハ第一原裁判所ニ於テ被告人ト告訴人内田良作等十二回ニ對審法モ爲サズ
外告訴人等ノ片言ヲ採用シ第二會テ被告人ハ姦通ノ所爲未見タリト以テ陳述ヲ爲サズ古田
田井中「カク」カ口供ヲ以テ姦罪ノ証言ニ爲シ第三果テ被告人ハ姦通セシト假定ス
ルモ事後本夫内田良作ニ於テ被告人ノ辨解ヲ納得シタルハ即チ既ニ縱容セシ者ナリテ以テ
姦罪ハ法律上無効ナルニ尙其告訴ヲ受理シ有罪ノ裁判ヲ爲シタルハ皆是レ不當ノ處分ナリ
ト云ニ在リ原裁判所檢事補關義幹ハ原裁判ハ適當ナリト旨趣ヲ答辯シ本院檢事池上三郎
ハ上告ニ對スル意見ヲ述ヘ曰治罪法第四百十三條ニ基キ附帶ノ上告ヲ爲シ原裁判言渡書ニ

犯罪ノ場所及ビ年月日時其他犯罪ノ模様等ヲ明記セザリシハ事實ノ理由ヲ付セサル者ト認
ム又古田「マヌ」田井中「カク」カ口供等ハ正當ノ法式ヲ履行シテ陳述シタル
証言ニテ然ルニ之レヲ証言トシテ裁判ノ材料ニ供シタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ原裁
判ハ破毀ヲ求ムト論述セリ依テ判決スル左ノ如シ
第一審判ノ手續上必ズシモ被告人ト告訴人等ト對審セシメサルヲ得ズト規程アルニアラ
サレバ其對審セズシテ告訴人等ノ陳述ヲ採用スルモ以テ不當ノ處分ト爲ス夫得テ第二証人
其他ノ申立ヲ採擇取捨スルハ固ヨリ証憑判定中ノ一部ニ於テ事實裁判官ノ權内ニ屬スルヲ
以テ其レヲシテ果シテ證人タルニ取違ナキ者ノ陳述ナラシメハ假令古田「マヌ」等カ現ニ犯
狀ヲ目撃シタリトノ申立ナキモ其申立ル所ヲ採リ衆証ノ一ニ供スルニ於テ敢テ不當ト爲ス
ヲ得ズ第二証書類ヲ閱スルニ曾テ本夫内田良作ニ於テ其姦交法縱容シタリト認ムヘキ証
述アルヲ見ス因テ縱容姦ノ論告ハ相立タス之レヲ要スルニ被告人上告ノ旨趣ハ皆以テ原裁
判破毀ノ原由ト爲スニ足ラサル者トス

附帶上告ニ付原裁判言渡書ヲ見ルニ其ノ擬律ノ處ニ至リ新舊ノ法ヲ比照シタリ然ハ其ノ犯
時ノ年月日ノ如キハ該被告事實ニ關シ殊ニ緊要ノ條件ナラズ之レヲ舉示セサルノミナラス
其認定セシ犯罪ノ模様ヲ明示セサルハ即チ事實ノ理由ヲ付セサル者トス又古田「マヌ」田
井中「カク」カ陳述ハ公判前檢察官ノ訊問ニ對シテ爲シタル申立迄ニシテ宣誓等ノ正式ヲ履
行セタル証人ノ陳述ニ非ルハ訴訟書類ヲ見テ判然タリ然ルニ原裁判言渡ニ於テ直チニ之レ
ヲ証言ナリトシテ舉示シタルハ越權ノ處分ナルヲ免ルニ乃チ附帶上告ノ旨趣ハ治罪法第四

百十條第九項及第十二項ニ適當ニ原由アルヲ以テ同法第四百廿八條ニ從テ原裁判官渡邊
破毀シ被告事件ヲ前橋輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也
其第五百九十號

○判文(私文書偽造ノ件) 明治十五年十一月十四日上告
明治十六年五月十七日申渡

被告等ハ私文書ヲ偽造シテ他人ニ寄附シテ其ノ利益ヲ謀ルルノ旨ニシテ、
同縣同國同郡石森村平民

明治十五年七月
三十二年九月
同縣同國同郡石森村平民

渡邊 庄吉

私文書偽造被告事件ニ付明治十五年七月二日御嵩治安裁判所ニ開シ岐阜輕罪裁判所ニ於テ
刑法第三百十條第三項同第三百十二條ニ依テ被告兩名各各自ニ重禁錮一月ニ處テ罰金二圓ヲ
附加シ仍ホ刑法第三百十三條ニ依リ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官カ上
告ヲ爲メテ趣旨ハ被告等カ所爲ハ証書ニ偽造シ金員ヲ詐取セントシタルモノナレハ偽造
罪下詐欺取財ノ未遂犯ヲ以テ論シ數罪俱發例ニ照シ處斷スヘキモ以テ然ルニ原裁判官茲
ニ出テ以テ單ニ偽造ノ罪ニ問テタルハ擬律ノ錯誤アリ云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見
ヲ聞キ以テ判決ニ於テ左列如シ

上告ノ理由ニ就キ原判文ヲ檢閱スルニ其言渡ノ理由ニ爲ス處ノ事實ハ偽造罪ノ未遂犯ヲ構
造スルニ至リ詐欺取財執行ノ着手ト爲スニ足ラザレバ原裁判所カ被告等カ所爲ヲ偽造ノ一罪
ニ問フタルハ適當ナリト雖モ被告等ノ變造ニ係ル受取証書タル財産上ニ直接ノ關係ナ有
義務ノ釋放ヲ以テ其目的ト爲スモノナレハ貸借買賣ニ關スル証書ノ如キト同ニ論定シ刑
法第三百十條第一項ニ依リ處斷スヘキモノナルニ原裁判官茲ニ出テスシテ同條第二項ニ依
リ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト判定ス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判官全部ヲ
破毀シ本院ニ於テ更ニ左ノ裁判ヲ言渡スモノ也

渡邊 庄吉
奧村 常吉

原裁判所ノ認定ト各証憑ニ據リ被告等カ罪證明白ナリトス因テ刑法第二百十條第一項ヲ
適用シ同法第二百十一條第百十二條ニ依リ二等ヲ減シ二月以上三年以下ノ重禁錮二圓以
上二十圓以下ノ罰金ヲ以テ本刑ト爲シ其範圍内ニ於テ重禁錮四月ニ處テ罰金四圓ヲ附加
シ仍ホ刑法第二百十二條ニ依リ監視六月ニ付ス

第五百九十二號
○判文(賭房給與ノ件) 明治十五年十一月廿二日上告
明治十六年五月十七日申渡

愛媛縣讚岐國大內郡三本松村平
梅 田

梅 田
三八七

明治十五年六月三十日高松輕罪裁判所ニ於テ右「サネ」カ賭房給與犯ノ被告事件ヲ審理シ所
爲全ク黙止シタルモノニシテ賭房ヲ給與セシモノニテ罪トモテ治罪法第三
百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補大井信本ハ上告セリ其要旨
ハ被告ハ其宅ニ於テ他ノ兩名ノ者カ賭博スルヲ見テ之ヲ制止シタルモ遂ニ制ス可カラカ
ルモノトシテ之レヲ黙止シタルハ即チ黙許シタルニテ是レ其賭博ヲ爲スヲ許諾シタルモ
ノト云ハサルヲ得テ依テ刑法第二百六十二條賭房ヲ給與云々ハ適用ス可ク治罪法第
ニ無罪トシタルハ不法ノ裁判ナリト云フ茲モ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決左ノ如
シ思ハレテ判事ノ職責ニ對シテハ賭博ノ刑罰ニ對シテハ其刑罰ノ輕重ニ依リテ
原裁判言渡書ヲ見ルニ博奕致居ルヲ以テ種々相斷已ニ汝ハ其傍ニ在テ小兒ヲ乳ヲ飲マセ居
タル處云々トアリテ更ニ其賭博スル事ヲ許諾シタル所爲アルカシ故ニ原裁判官ニ於テ全ク
黙止シタルモノニシテ賭房ヲ給與セシモノニテ罪トモテ治罪法第二百六十二條賭房ヲ給與
シタルハ相當ノ裁判ナリトス且ツ該黙止ナル語ヲ黙許ト其義ヲ同フセサルハ固ヨリ言ヲ俟
タサレハ之レヲ以テ即チ許諾シタルモノト爲スヲ得ズ
右ノ理由ニマテ上告ノ旨趣到底相立タサルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之レヲ棄却
スルモノ也
第五百九十三號
○判文(無届不參件) 明治十六年五月三日止告
明治十六年五月十七日申渡

宮崎縣日向國兒湯郡南高鍋村六
十六番戶士族
手文
年
檢事田中義忠カ再審ヲ訴フル要領云右文一
郎カ明治十六年三月五日宮崎治安裁判所ノ呼出
ヲ受ケ不參セシヲ以テ同三月十五日同裁判所ニ於テ明治十年第五號布告ニ依リ科料金五十
錢ヲ言渡シ既ニ確定後當時擔任官吏ノ錯誤ニ因リ其當時呼出狀ヲ發セザルヲ覺學シタル
ニ付テハ文一郎ニ對シ科料金ヲ言渡スヘキモノニテ之ヲ因テ證據書類ヲ相添ヘ至當ノ判決
ヲ仰クト云フコアリ
大審院檢事長渡邊驥ニ於テハ檢事田中義忠ヨリ再審ヲ訴フル趣意ハ治罪法第四百三十九條
第五項ノ原由アルモノト思料スルヲ以テ相當ノ判決アラントテ企望スルノ意見書ヲ送致セ
リ
茲ニ刑事局全員會議ノ上判決スル左ノ如シ
原裁判所當該官吏ノ手續書ヲ見ルニ「小官ノ呼出帳簿記載方粗漏ナルヨリ黒木治吉事件ニ
付テハ別段呼出ヲ發セサル旨申出云々」中略實際呼出ヲ受ケサレ限リハ無届不參ニハ相成
ラサルヲ覺知シ云々」トアルヲ以テ見レハ其錯誤ニ係ルヤ明了ナルヲ以テ治罪法第四百三
十九條第五ニ適當スル原因アル訴訟ナリトス因テ治罪法第四百四十五條ニ依リ原裁判ヲ破
毀シ適當ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ鹿兒島輕罪裁判所宮崎支廳ヘ移ス者也

第五百九十三號

○判文(詐欺取財事件) 明治十五年十一月十一日上告
明治十六年五月十七日申渡

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡易居町

百八十二番地井上ニ方同居熊

本縣平民

細 鄉 彌 七

明治十五年六月

三十四歲

詐欺取財ニ被告事件ニ付明治十五年六月二十六日鹿兒島輕罪裁判所ニ於テ被告人カ所為ヲ
審判シ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮三月罰金五圓ニ處シ仍ホ監視七月
ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告細鄉彌七ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人カ告訴人ヨ
リ金七圓ヲ受取タレハ時計搜索ニ付入費ニ充ル爲メニシテ時計ヲ取戻シ遺ス可クシ謫リ金
圓ヲ受授シタルニ非テ故ニ該金ヲ返濟處分ハ民事ニ屬ス可キ者ニシテ刑法ノ制裁ヲ受ク可
キ謂レナシト反覆論辯セリ
對手ハ檢事補北村精二郎カ答辨要旨ハ被告人ハ於テ事實ヲ列舉シテ原裁判ヲ破毀シ以テ
ト雖モ其論告書中時計ノ事ニ付テハ仄カニ傳聞シタル事モ有之云々トノ事實ハ頗ラ描造シ
タル架空ノ說ニ過キス何トナレハ被告人カ豫審廷及ヒ公判廷ニ於テ爲シタル口供申斯ノ如
キ論辨ナクハナリ依テ原裁判ハ不法ノ廉ナシト大審院檢事池上三郎ニ於テモ答辨ノ旨趣
ト意見ヲ同シ且本件上告ハ治罪法第四百十條ニ定メタル場合ニキニ因リ速ニ棄却ノ言渡シ

アル可ト陳述セリ依テ判決スルヲ左ノ如ク
原裁判言渡書ニ因リ被告事件ヲ監査スルニ被告人ハ於テ金七圓ヲ紛失シ時計ヲ取還サ
ル旨小村ヨシヲ以テ田代新ハ申入タルハ証人カ陳述及ヒ金七圓ヲ受領証言據テ事
實ヲ認定シ刑ノ適用ヲ爲シタル者ナリ而シテ被告人カ上告ノ旨趣ハ單ニ其事實ヲ點ニ反對
シ原裁判ヲ論難スルニ止ル者ナレハ治罪法第四百十條ノ成規ニ適セザル者トス依テ治罪法
第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第五百九十四號

○判文(賭博事件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月十七日申渡

廣島縣安藝國廣島區の場町居住

平民

和 田 原 半 右 衛 門 兼 狀

明治十五年七月

五十二年三月月

明治十五年七月十三日廣島輕罪裁判所ニ於テ右半右衛門ハ金錢ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル
者ト認定シ刑法第二百六十一條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加スト言渡シタル裁
判ニ對シ半右衛門ハ上告ヲ爲シタリ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如ク
一件書類ヲ見ルニ上告人ハ明治十五年七月十三日上告申立ヲ爲シ同月十七日附テ以テ上告
趣意明細書ト題シタル書面ヲ差出シタレ其本文ニハ上告人カ要點明細捧呈可仕筈ノ處
既ニ本日滿限ナレハ理由書載スルニ違ナシ依テ尙ホ追テ事實上申可仕候云々トシテ

以上告趣意書ヲ定期内ニ差出スノ違法キコト申告シタル旨過キテ其定期五日前ニ遂ニ
 之ヲ差出サ、既シ者ナレバ即チ治罪法第三十條ノ規則ニ基キ上訴ノ權ヲ失ハル者トス然
 レ其後明治十五年七月廿一日附テ以上告趣意明細書ト題シタル書面ヲ差出シ不服ノ條
 件ヲ開陳シタルヲ以テ猶上告ノ手續ヲ繼續シタル者トスルモ其要旨タル上告人ハ賭博ヲ爲
 シタル者ニ依テ然ルニ賭博罪ノ處斷セラレタルハ事實相違ニ裁判ヲ以テ云々過キテ是原
 裁判官カ其証憑ニ據リ判定シタル事實ニ對シ徒々言不服ヲ唱フル者ニ付以テ上告ノ理由ト
 爲スヲ得サル者トス

右ノ理由ニシテ本案上告ハ到底相立タサルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却ス
 ル者也

第五百九十五號

○判文(私印偽造ノ件)明治十五年十月三十日上告
 明治十六年五月十七日申渡

京都府丹波國船井郡片原村平民

右仲右衛門カ被告事件ニ付明治十五年五月十六日園部輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十三年
 中搵見卯平ノ私印ヲ偽造シテ使用シタルモ以テ之ヲ刑法第三百八條ニ照シ重禁錮六月ニ處シ
 罰金五圓ヲ附加シ且ツ同法第二百十二條ニ從ヒ六月ノ監視ニ付ス但シ請取証書及外五通ノ

書類同法第四十三條第二項ニ依リ沒收ストルノ言渡ニ對シ右仲右衛門ハ上告爲タル要旨ハ
 搵見卯平ノ印章ヲ偽造シテ使用シタル覺ナキニ原裁判所カ證人等ノ片言ヲ採リ有罪ノ渡言
 ナ爲シタルハ不法ナリト云フニ過キテ對手人檢事補堀口順逸答辨ノ要領ハ原裁判至當ニシ
 テ上告ノ理由ナキモノト云フニ在リ大審院檢事加納久宜ハ原裁判不法ナリトノ意見ヲ述ヘ
 附帶上告ヲ爲シタル其重要ハ被告カ犯罪新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照スヘキモノ
 ナルニ單ニ刑法第二百八條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリ且被告ハ明治十三年六月二十八日
 付ノ請取書其他數通ノ證書偽造ノ罪ヲ犯シタル者ナレハ其權利義務ニ關スルト否ト又其行
 使ノ既遂未遂ヲ判別シ相當ノ處分爲スヘキニ之ヲ不問ニ附シタルハ事實ノ理由ヲ缺キタル
 不法ノ裁判ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ因テ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本按上告ノ主要ハ事實裁判官ノ特權内ナル判定上ニ對シ探證ノ當否如何ヲ論難スルモ到底
 上告ノ理由ナキモノトス然レモ被告カ私印偽造使用ノ所爲ハ明治十三年六月二十三日即チ
 新法實施前ニアルヲ以テ刑法第三條ニ基キ新舊ノ法ヲ比照スヘキモノナルニ單ニ刑法第二
 百八條及ヒ第二百十二條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリトス且被告ハ明治十三年六月二十八
 日付ノ請取書其他數通ノ證書等ヲ偽造セシモノナレハ其權利義務ニ關スルヤ否將其行使ノ
 既遂未遂ヲ判定シ適當ノ處斷爲スヘキモノナルニ之ヲ不問ニ付シタルハ事實ノ理由ヲ缺キ
 タル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ京都
 輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第五百九十六號

○判文(無漏遷參ノ件) 明治十五年八月廿九日上告
明治十六年五月十七日申渡

鳥根縣石見國那賀郡新町平民

高橋重作

明治十五年四月
二十三年八月

明治十五年四月十九日濱田治安裁判所ニ於テ右高橋重作ハ明治十五年四月十九日午前九時出頭シ召喚ヲ受ケ無漏遷參シタルモノトシ明治十年第五號布告及ヒ明治十四年第七十三號布告ニ依リ科料七拾錢ニ處スト言渡シタルヲ不當トシ被告ニ於テ上告ヲ爲ス以テ要領ハ被告カ所有ノ時計ト裁判所ノ時計ト各其示ス所ノ時ヲ異スルヲ以テ其時計ノ眞誤如何ヲ審究シ而テ後チ處斷スヘキモノトシ又明治十四年第七十三號布告第七條ニ違背シ治安裁判所ニ於テ直チニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ

抑モ本件ノ如キハ明治十年第五號ノ布告ニ基キ特別ノ處分ヲ爲スヲ得ヘキモノナレハ明治十四年第七十三號布告第七條以テ管理スヘキモノニアラサルヤ論ヲ俟ゾ又二個ノ時計カ示ス所ノ時ニ差異アルモ原裁判所カ其應ノ時計ヲ以テ眞正ノ時刻ヲ示スモノト認メテ處斷シタル以上之ニ對シ其當否ヲ論スルハ事實ノ點ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ト爲ス夫得ス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第五百九十七號

○判文(謀殺ノ件) 明治十六年四月十一日上告
明治十六年五月十七日申渡

東京府武藏國東多摩郡雜色村三
百六十三番地平民藤兵衛養子林
藏事

佐藤 吉五郎
明治十六年二月
三十年九月

謀殺被告事件ニ付明治十六年二月十六日東京重罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十二條ニ從ヒ死刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ明治十五年九月二十七日ニ被害者ニ對シ未殺意ノ決シタルハ果テ被害者ヲ毆殺シタル即チ明治十五年九月二十八日迄繼續シタルヤ又殺意ノ決心ハ右二十八日ニ於テ被害者ヲ強テ借金ノ催促ヲ爲ス於テハ擧ク毆殺セシトシ意ナルモ亦之ヲ豫メ殺事ヲ謀ルモノト云フヘキヤ將タ右等ハ已ニ過去ノ思想ニ屬シ被告カ被害者ニ對シ借金延期談判ノ後ニ於テ被告更ニ殺意ヲ生シタルモノト爲スヤ此等緊要ノ點ニ付テハ其理由ヲ付セス而被告果テ殺害ノ決心アラハ其殺害ニ充分ナル器械ヲ持チ出スヘキニ一ツハ松薪ヲ以テシ又必ス其不意ヲ襲フヘキニ却テ途中借金ノ延期ヲ談シ尙被害者ヲ毆殺シタリト云フ松薪ハ果テ被告カ持出シタルトシ證據無シ抑新宿警察署ノ調書ハ最モ不完備ノモノナラス全体ヲ通考セズシテ被告ニ對シ不利益ノ一部ヲ以テ裁判セラレタルハ探証法ノ理ニ背キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人東京控訴裁判所檢事長岡本豊章ハ別ニ答辨ヲ爲サズト云ヘリ

大審院於テ專任判事伴正臣ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ノ意見上告代官人高橋一勝ノ

陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ趣旨ハ前日殺意ノ決定ハ後日借金延期ノ談判迄繼續セシモノニ非ス一旦消滅シテ更
 ニ發生セシモノナレハ之ヲ謀殺ト爲スチ得スト云フニ在リト雖明治十五年九月二十八
 日被害者カ被告ノ家ニ來リタルキ今夜ハ幡ヶ谷村不動會ナル趣ヲ稱シ同行シテ人跡無キ原
 野ニ誘ヒ我ヨリ發言シテ借金延期ノ談判ニ及ヒタル次第ヲ見レハ前日ノ殺意ハ已ニ消滅シ
 後日更ニ發生シテ其殺事ヲ止ムチ得ルニ施シタルト云ヘルハ單リ被告ノ片言ニ止マリ信
 チ措クノ確證無シ若シ果シテ被告ノ言ノ如クナラハ彼レ先ツ其催促ヲ爲シ或ハ強暴ノ談ニ
 及フニ至ツテ之ヲ外方ニ伴フ等初テ殺害ノ意ヲ起スヘキ順序ナルコト彼レ未タ強談ニモ及ハ
 カルニ先立チ松薪ヲ懷コシテ不動會ニ行クト欺キ人跡ナキ原野ニ誘ヒ我ヨリ發言シテ借金
 延期ノ談判ニ及ヒ竟ニ殺死シタル顛末ハ豈事ヲ穩便ニ處スルモ彼レノ舉動ニ對シ止ムチ得
 カルニ出シモノト言フチ得ヘケシヤ是即重罪裁判所ノ言渡ニ彼レ明日來リ強テ催促セハ他
 所ニ誘引シテ毆殺セント思慮ヲ極メタルニ其翌日即明治十五年九月二十八日午後六時過果
 シテ桑吉來レリ此ニ於テ云々松薪一本ヲ取り出シテ懷中ニ云々桑吉ヲ欺キ誘ヒ遂ニ人家隔
 絕セル字云々ノ地ニ至リ殘金延期ノ談判ヨリ口論ニ及ヒ該松薪ヲ以桑吉ノ上顎其他十三ヶ
 所ニ傷ヲ負ハセ遂ニ殺死セシメタリ云々トアリテ前日ノ殺意ハ繼續シテ後日ニ及ヒ結果セ
 ル理由ハ右判文ニ於テ明確ナルニ拘ハラス被告ハ裁判官カ探證ノ適否ヲ論難スレモ竟畢事
 實ノ判定ハ裁判官ノ權内ニ在ツテ他ヨリ之ヲ侵スヘカラス何トナレハ治罪法第四百十六
 條第二項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑

ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハ也依テ東京重罪裁判所ノ裁判ハ不當ニアラサルニ付上告ノ
 趣旨相立タズトス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也
 第五百九十八號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十一月十五日上告
 明治十六年五月十七日申渡

鳥根縣石見國邑智郡日和村平民
 彦作女綿挽職

吉岡

明治十五年七月
 十五年一ヶ月

竊盜被告事件ニ付明治十五年七月二日濱田輕罪裁判所カ犯罪ニ因リ得タル紺紵單物一枚ハ
 沒収スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補松木堅葉ハ上告セリ其要領ハ被告「カメ」カ盜
 取リタル木綿々入一枚ヲ以テ紺紵單衣一枚ト交換シタルモノニテ被害者ニ還付スヘキニ原
 裁判所カ之ヲ沒収シタルハ越權ノ處分ナリト云フニアリ
 對手ハ吉岡「カメ」ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ審按スルニ
 原裁判言渡ニ犯罪ニ因テ得タル物品ハ沒収ストノ旨アリ刑法第四十三條ニ依ルト掲載セサ
 ルモ此ノ法律ニ依據セシモノタルヤ見ルニ足レリ其第三項ニ犯罪ニ因テ得タル物件トハ贖
 金ヲ以テ得タル貨幣物件賭博又ハ應禁物賣買ニ因テ得タル金錢等ヲ謂フモノニシテ盜罪ノ

贓物ニ於ケル所有主ナキ時ニシテ没収スルコト得ヘキモ本案ノ如キ其物品ハ犯人ノ之ヲ交換シタルモ其交換セシ物品ノ現存スル限リハ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ追シテ被害者ニ還付スヘキモノナルニ原裁判所カ刑法第四十三條第三項ニ依リ没収セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判ノ没収ニ係ル一部分ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

吉岡カメ

前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第四十八條末項ニ依リ紺紵單物一枚ハ被害者嘉戸利三郎ニ還付スル者也

第五百九十九號

○判文(柴木盜伐ノ件) 明治十五年十一月廿三日 申渡

新瀉縣越後國南魚沼郡大崎村平民太

物營業

田中六平

明治十五年八月三十日

柴木盜伐被告事件ニ付明治十五年八月八日長岡輕罪裁判所カ刑法第三百七十二條同第三百七十三條同第三百七十六條ニ依リ同第八十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ二十五日ノ重禁錮ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ當該官ノ證人トセラレタル中島惠治外六名ノ内中島政評ハ告訴人中島俊治ノ長男ナリ中島俊三ハ告訴人ノ親

屬秋山甚吉ハ秋山源治ノ分家ニテ目今告訴人ノ雇人ト同視スヘキモノナリ山田荒吉ハ告訴人ノ首謀ニテ各不充分ナル證人ナレハ更ニ四名ノ證人喚問ヲ請求スルモ採用セラレス不充分ノ證人ヲ以テ裁決セラレタルハ不法ナリト云ヒ又明治十五年四月十六日實地見分ノ際山田荒吉ハ告訴人ノ案内ヲ爲シニ自分其境界ヲ論シタルニ或ハ之ヲ境界ト云ヒ又ハ彼レヲ境界ト云ヒ其目的未定ノモノナシテ他人ノ所有地内ナル柴木ヲ採シタルモノトシ處斷セラレタルハ不法ナリト云ヒ而シテ上告退伸書ヲ以テ仍ホ前意ヲ擴張セリ

對手人檢事補小原朝忠ニ於テハ一々之ヲ辯駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事島居斷三ノ報告ニ因リ上告代官人今村長善ハ上告趣旨ヲ擴張辨明シ立會檢事池上三郎ハ原檢察官答辯ヲ贊成シ原裁判ノ至當ナリトシ意見ヲ陳述セリ因テ判決スル左ノ如シ

治罪法第八十一條ニ證人タルヲ許サ、ル者ヲ示シタル第一項ニ民事原告人第二項ニ民事原告人及ヒ被告人ノ親屬又其第四項ニ民事原告人及ヒ被告人ノ雇人トアリ本案告訴人ハ告訴セシマテニテ未シ民事原告人タルノ資格ヲ有セシモノタルニ非レハ證人ト爲スニ適法ノ者ニシテ不適法ナリトノ上告ハ相立タヌ又請求セシ證人ヲ喚問セラレサリト云フト雖モ治罪法第三百五十七條ニ裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ云々トアリテ果テ事實判官カ漸ナル證人ヲ必要ナリトセサル時ハ之ヲ喚問セサル敢テ違法ト云フヲ得ス其

他經界不分明ニシテ他人ノ所有地ニ柴木ヲ採シタルニ得ザルモノナリト云フモ雙方立會實地見分ノ上證言セルモノナリトシテ採證ノ特權ハ事實判官ニアルヲ以テ他ヨリ侵入

論難スルヲ得ヘカヲサルハ揭テ治罪法第四百六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリ因テ上告ノ趣旨是亦相立タサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十一月十日 上告
明治十六年二月十七日 申渡

福岡縣筑後國山門郡尾野村平民

川野 安太郎

明治十五年六月
十九年十一月

竊盜被告事件ニ付明治十五年六月二十二日福岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第三
百七十六條第八十一條第八十五條ニ依リ第三百六十六條ノ本刑ニ通シテ二等ヲ減シ重禁錮
二月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮一月十五日ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡シタ
ル裁判ニ對シ檢事代理警部補吉住諺也ハ之ヲ不當アリトシ上告セル要領ハ被告カ柳川警察
署へ首出セルハ已ニ被害者カ被告ノ家ニ就キ贓品ヲ發見シ詰問ヲ加ヘタル後ハ係レハ自首
ノ効ナキモノコト減等ヲ與フヘキ限リニ非ス云フニ在リ
對手人川野安太郎カ差出セル答辨書ニハ異議ヲ申立テス
大審院檢事長渡邊驥ハ附帶上告ヲ爲テ曰被告安太郎カ竊取シタル杉丸太ハ被告人ノ居室ニ
存在セルニ付刑法第四十八條ニ依リ之ヲ被害者ニ還付スヘキモノ也然ルチ原裁判ニ於テ該

品還付ノ言渡シヲ爲サハルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ因テ治罪法第四百卅一條ニ從ヒ原裁判ヲ
破毀シ相當ノ處分ヲアレンコト企望スト
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以判決スル左ノ如シ
原書類ヲ見ルニ被害者森一茂カ申立書ニ該杉木ハ川野安太郎方ニ所持スルチ見請候ニ付相
尋不見ントスル内同人ハ失踪致シタリ右ニ付同人トハ未タ面會ハセサレモ該木ハ私所有ノ
品ニ相違無之云々トアリ而該書面ハ明治十五年六月十九日付ニシテ被告安太郎カ自首ハ明
治十五年六月十四日ナリ然ハ則承審官カ認メテ未發自首ナリトシ減等ヲ與ヘタルハ相當ナ
リト雖モ大審院檢事長附帶上告ノ如ク其贓物ハ被告ノ手ニ存在セルチ以テ事主ニ還付スヘ
キチ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百三十一條ニ從
ヒ此三部ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

川野 安太郎

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第四十八條ニ從ヒ竊取セル杉木ハ被害者ニ還付スルモノ也

第六百壹號

○判文(私文書偽造ノ件) 明治十五年十二月七日上告
明治十六年五月十七日 申渡

高知縣土佐國土佐郡朝倉町

平民雜業

安 岡 寅造

明治十五年六月
三十六年八月

右兩名カ被告事件ニ付明治十五年六月二十二日高知輕罪裁判所ニ於テ被告等ハ請取證書ヲ偽造行使シ吉村文治ナル者ノ金二百圓ヲ詐取セントシテ未タ遂ケサルノ所爲アルモノトシ刑法第二百十條同第三百九十七條同第三百九十七條同第一百十二條ニ照シ同第一百條第三項ニ依リ證書偽造ノ罪決重トナシ同第二百十條ニ照シ各重禁錮六月罰金十圓ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ依リ監視六月ヲ附ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ被告兩名ハ各上告ヲ爲シタリ此ニ實造カ趣意書ノ要領ハ證人深尾成事ト野村時定ノ對質其他ノ事實ニ依リ檢察官カ公訴權ヲ拋棄スルニモ拘ハラズ證人等ノ陳述ヲ輕信セラレ斯ク冤罪ニ陷ルタリ又追辨明書ノ要旨ハ試ニ本件ヲ以テ證書ヲ偽造行使シタルモノトスルモ擬律ノ錯誤及ヒ越權ノ處分アルモノト云ハサルヲ得ヌ何トナレバ本件ノ如キ之ヲ行使スルモ未タ其目的ヲ遂ケサルモノトシ在テハ刑法第三百十條及ヒ同第三百十一條ヲ適用セサル可ガラス又公訴ヲ受ケタル事件中辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件ハ假令ヒ訴ヲ受ケサモ治罪法第二百七十六條ニ依リテ相當ノ裁判ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナレモ治罪法第二百一十一條ヲ閱ズルニハ檢察官公訴權ヲ拋棄スルニ於テハ本案ニ付相當ノ裁判ヲ爲スルニハ理由是觀之ハ檢察官カ公訴權ヲ拋棄シタル場合ニ在テハ本案ノ外ニ及ホスヲ得サルモノ、如シ然ルニ最初證書偽造ノ公訴ヲ受ケ而シテ檢察官カ該公訴權ヲ拋棄シタル後ニ於テ刑法第三百九十七條ヲ適用シタルハ

則本案ノ外其訴ヲ受サル事件ヲ裁判シタルモノナリト云フニアリ此ニ又被告昇策カ趣意書ノ要旨ハ該請取證書ハ證人乾秋虎ノ手前ニテ認メ捺印セシモノナリ又印刷師谷一心齋カ右請取書ノ印影ハ曾テ自分カ依頼セシ印形ナリトノ保證書ハ同人ノ自筆ニアラス名下ノ印影モ共ニ相違セリ又民事裁判ノ執行中内金三十圓ヲ拂入レナカラ裁判所ニ届出サルハ該金皆濟ノ上願下ケ致スヘキ約定ナル故ニ手數ヲ除キタルノ便宜ニ出タルナリ云々縷陳スルニアリ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告人兩名カ事實上ニ就キ陳供スル處ノモノハ原裁判所ノ判定ニ對シ探證ノ當否ヲ論難スルモノニ止リ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ又上告人實造ハ偽造證書ヲ行使シタルモノトスルモ未タ其目的ヲ遂ケサレハ刑法第二百十一條ヲ適用スヘキ未遂犯罪ナリト云フト雖モ其目的即チ被害者ノ金二百圓ヲ詐取セシトシタルハ刑法第三百九十條ノ詐欺取財ナリ然レモ其金ヲ取リ得サルカ故ニ原裁判所ハ同第三百九十七條ノ未遂犯罪ヲ以テ論シタルニアリ又其請取書ヲ偽造行使シタルハ同第三百十一條ヲ適用スヘキ未遂犯罪ニハアラス何ゾトナレハ原書類ヲ閱スレハ前キニ民事裁判ノ曲者トナリ該執行ヲ怠リ明治十五年一月二十五日抵當品難賣ノ揭示ヲ受ケ二月二日被害者即チ當時ノ原告ニ落札シ同六日ニ至リ明治十五年一月二十二日二十八日付兩度ニ返済セシ偽造ノ請取書ヲ民事執行係ニ提供シ原告カ權利ノ効ナカラシメントシ同年三月二十日ニ於テ告訴セラレタル所爲ニ於テ行使ノ既遂犯タルハ明瞭ナリ故ニ原裁判所カ同第三百十一條ヲ適用セサルハ相當ニシテ之ヲ擬律以テ錯誤ト云フコトヲ得ヌ

又刑法第二百十條ノ證書偽造ヲ以テ公訴アリタルニ同第三百九十條ノ詐欺取財ヲ適用シタルハ其訴ヲ受ケサル事件ヲ裁判爲シタリト云フト雖已ニ前段ニ辯明セシ如ク其初メ被害者ノ金二百圓ヲ詐取セントノ故意ニ出テ後遂ニ該請取書ヲ偽造シタルニアレハ原裁判所ハ刑法第三百九十條ノ詐欺取財ニ因リ同第三百九十七條ノ未遂犯罪ヲ以テ論シ又三百九十條ノ末項ニ云フ「因テ官私ノ文書ヲ偽造シ云々偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ論ス」トアルコ依リ則同第二百十條ニ照シ證書偽造行使既遂ノ處斷ヲ爲シタルハ在ツテ固ヨリ二罪俱發ニ係ルモノナレハ同第二百九十條ヲ適用シタルハ相當ニシテ其訴ヲ受ケサル事件ノ裁判ニアラサルモ亦以テ明瞭ナレハ之ヲ越權ノ處分ナリト云フコト得ス

右ノ理由ナルコ依リ該上告ハ總テ相立タス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

高知縣土佐國土佐郡朝倉町平民
雜業

安岡

寅造

明治十五年六月

三十六年八月

同縣同郡菜園場町平民雜業

坂本

昇策

明治十五年六月

四十二年八月

右兩名カ被告事件ニ付明治十五年六月廿二日高知輕罪裁判所ニ於テ被告等ハ請取證書ヲ偽造行使シ吉村文次ナル者ノ金二百圓ヲ詐取セントノ未ダ遂ケサルノ所爲アル者トシ刑法第二百十條同第三百九十條同第三百九十七條及ヒ同第一百十二條ニ照シ同第一百條第三項ニ依リ證書偽造ノ罪ヲ重トナシ同第二百十條ニ照シ各重禁錮六月罰金十圓ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ依リ監視六月ヲ附ストノ裁判言渡テ不當ナリトシ同裁判所檢事補相原市之丞カ上告爲シタル要領ハ第一證人乾秋虎ノ申立ハ片言ニシテ證明スルニ足ラズ又時子ト書シタル文字ノ相違云々ハ被告坂本昇策ノ執筆シタル證據ナシト第三谷一心齋カ彫刻ナシタリト云フ該請取證書ノ印影ト文次カ實印トヲ鑑定セシメタル三人ノ鑑定共ニ同一ナリ是レ却テ被告ハ實印ヲアラサシテ告訴人文次カ實印ナルコト明カナリ第三被告ハ金三十圓ト百七十圓ト二度ニ返却シタルコトハ證人深尾成事ノ申供ニ依テ亦明カナリ其内金三十圓ノ拂ヒ入レテ民事裁判所ヘ届ケサル點ニ至ツテハ不日總金額ヲ返却スルノ約アルモノナラハ之ヲ届出サルモ不都合ナケレハ亦以テ罪證トスルコト足サル旨云々續述セリ玆ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ審按スルニ今ヤ上告人ハ證人乾秋虎ノ云フ處ハ片言ニシテ探ルニ足ラズ又證書ノ印影ト被害者カ實印トハ鑑定ハ三名共ニ同一ノ印影ナリト供スレハ之ヲ偽印ト見ルヘキナシ又證人ノ内深尾成事ノ申供ニ依レハ被告カ返金セシコトハ明瞭ナリ云々論告スト雖モ各證人ノ陳述將テ鑑定人ノ申立ニ於テ之ヲ採擇スルハ治罪法第四百十六條ノ二項ニ明示セル如ク該承審官ノ判定ニ任スル處ノモノナレハ其探證ノ當否如何ハ他ノ得テ論難スヘキ處ニアラズ且原書類ヲ見ルモ之ヲ破毀スヘキ原由ナキモノトス然ラハ則

之ヲ覆審ヲ求ムルモ止リ同法第四百十條ノ各項外涉リ上告以原由ナキモノトス因テ
同法第四百二十七條ニ依リ上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第六百三號

○判文(篠竹盜伐ノ件) 明治十五年十一月十七日 上告
明治十六年五月十九日 申渡

茨城縣常陸國那珂郡村松村平民
農業

大

內 末吉

明治十五年四月
二十一年五月

官有地篠小竹盜伐被告事件ニ付明治十五年四月十二日水戸輕罪裁判所カ刑法第三百七十三
條同第三百七十六條同第八十五條同第八十六條ニ依リ拘留七日ニ處シ監視六月ニ付スト裁
判言渡シ既ニ確定ニ及ビ後大審院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニ因リ非常上告ヲ爲シタリ
其要領ハ監視ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ附加スヘキモノニテ假令輕減シテ拘留
ノ刑ニ處スルモト雖モ之ニ附加スヘキモノニテ然ルヲ原裁判所ハ末吉ヲ拘留七日ニ處
シ監視六月ヲ附加シタリ既ニ裁判確定後ニ係ルヲ以テ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求メト云フニ
在リ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スル者云々トアリテ禁錮以
刑法第三百七十六條ニ此節ニ記載タル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者云々トアリテ禁錮以
上ノ刑ニ附加スヘキモ拘留ノ刑ニ附加スヘキヲ示シタルニ付テ今末吉カ犯

罪ハ其輕罪ニ係ルモ輕減ニ因リ拘留ノ刑ニ處シタルモノナレハ其拘留ノ刑ハ輕罪ニアラザレハ
レハ監視ヲ附加スヘキモノニ非サルニ原裁判所カ拘留七日ニ監視六月ヲ附加シタルハ相當
ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡タル擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百三十五條ニ依リ大內
末吉ニ言渡タル拘留七日監視六月トアル其監視ノ一部分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也
第六百三號

○判文(博奕ノ件) 明治十五年十一月廿二日 上告
明治十六年五月十九日 申渡

愛媛縣讚岐國山田郡庵治村平民

山田

太三郎

明治十五年七月
六十二年

同縣同國同郡同村平民

兵

庫吉

明治十五年七月
五十七年

賭場開張被告事件ニ付明治十五年七月七日高松輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依
リ各重禁錮二月十日ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シテ原裁判ニ對シ檢事谷新助ハ之ヲ不
當ナリト上告セル要領ハ被告ハ豫メ賭場ヲ開キ博徒ヲ招集セルモノニシテ偶然入衆ノ集
合シ以博戲ヲ爲ス者ノ比ニ非サレハ刑法第二百六十條ニ該當セルモノニ付原裁判ハ不當ナ
リト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以判決スル左ノ如シ
被告ノ處爲ハ豫メ其賭場ヲ張り博具ヲ備ヘ所謂親分トナリテ博戯ヲ爲シ利ヲ圖リタルモノ
ナレハ偶々集合主客ノ別無クシテ博奕ヲ行フ者ノ比ニ非サルニ付之ヲ刑法第二百六十條ニ
間擬シ處斷スヘキヲ原裁判ノ爰ニ出スシテ前掲ノ刑ニ處シタルハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁
判ニ付之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

山田 太三郎
兵 庫 兵 吉

犯罪ノ事實證據ハ原判文ニ載セテ明確ナリトス依テ刑法第二百六十條賭場ヲ開張シテ利
ヲ圖リ又ハ博徒ヲ集結シタル者ハ三月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ
罰金ヲ附加ストアルニ該當スルヲ以各六月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加スルモノ也
但犯罪ニ用ヒタル器具財物ハ沒收ス

第六百四號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年七月十九日上告
明治十六年五月十九日申渡

福岡縣筑後國山門郡上ノ庄町平

民

與 田 藤吉

明治十五年四月
三十一年

毆打創傷事件ニ付明治十五年四月十七日唐津治安裁判所ニ開ク佐賀輕罪裁判所於テ刑法第

三百二條第二項同第四十三條ニ依リ重禁錮一月十五日ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル荷棒壹個
ハ沒收スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ原檢察官カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ所爲ハ刑法第
三百二條ノ第三項第三項ニ問擬シ數罪俱發例ニ照シ處斷スヘキモノナルニ原裁判所カ單ニ
同條第二項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判
決スル左ノ如シ

被告ニ於テ被害者ヨリ毆打シテ二週間ノ疾病ニ至ラシメタル而已ナラス尙「サタ」ナル
者ハ暴害ヲ加ヘ疾病休業ニ至ラスト雖ハ微傷ヲ負ハセタル事實ハ原裁判官ノ認定スル所ナ
リ其所爲ハ即テ刑法第三百二條第二項第三項ニ問擬シ二罪俱ニ發スルヲ以テ一ノ重キニ從
ヒ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判所茲ニ出テスシテ單ニ二週間疾病ニ至ラシメタルノ一
罪ヲ以テ論シ其微傷ヲ負ハセタル罪ヲ不問ニ措キタルハ擬律ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十
條第十項ニ適セル上告ノ原由アルモノト判定ス因テ同法第四百二十九條ニ基キ原裁判言渡
ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ左ノ裁判ヲ言渡スモノ也

與 田 藤吉

前顯ノ理由ナルヲ以テ刑法第三百二條第二項第三項ヲ適用シ同法第百條ノ數罪俱發例ニ
照シ其重キ第三項ニ依リ一年以上以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮一月十五日ニ處ス
但犯罪ノ用ニ供シタル荷棒一個ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收ス

第六百五號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十二月廿一日上告
明治十六年五月十九日申渡

福岡縣筑前國宗像郡山田村平民

農業

南

彌吉

明治十五年七月
三十年四月生

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年七月二十三日福岡縣裁判所カ証憑不充分ナリトシ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補井上計之介ハ上告セリ其要領ハ彌吉カ被告事實ハ証人谷口次七カ認メタルト醫師花田良造カ診斷書等ニ明了ナルニ其事實ヲ推究セス輒ク無罪ト判決セシハ不當ナリト云フニ在リ

對手人南彌吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由ハ事實判官カ各証憑ニ照シ其罪ヲ認ムヘキニ充分ナラスト認定シ無罪ト言渡タル其事實認定ニ對スル採証ノ不當ヲ非難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ採証調書證據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實判官ノ特任スル權内ノ處分ナレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百六號

○判文(証券印紙犯則ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月十九日申渡

新潟縣越後國北蒲原郡上赤谷村

平民農業

清

野彌十郎

明治十五年七月
二十八年十二月生

証券印紙再貼用被告事件ニ付明治十五年七月廿二日新發田輕罪裁判所カ刑法第九十九條ニ依リ罰金二圓ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補町田主一郎ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ被告彌十郎ハ刑法第九十九條ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナレハ本條ノ罰金ヲ科シタル上仍ホ刑法第二百一條ノ監視ヲ付スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人清野彌十郎ハ原裁判允當ニシテ檢察官上告ハ其當ヲ得サルモノト趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

監視ハ其主刑体刑ニ該ルヘキモノニ附加スヘキハ法ノ原理タリ而シテ刑法第二百一條監視云々ノ法文ハ此節ニ記載シタル体刑ニ該ルモノニ對シ附加スヘキヲ定メタルモノニテ罰金ノ刑ニ附加スヘキヲ示シタルニアラサレハ上告ノ趣旨相立ハサルナリ

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百七號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年九月廿七日上告
明治十六年五月十九日申渡

新潟縣越後國中魚沼郡十日町村

平民

飯塚 峯吉

明治十五年四月二十九日

竊取被告事件ニ付明治十五年四月二十六日長岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十七條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ爲スソ要領ニ被告夫妻ト共ニ妻ノ祖母タル根津「キシ」方ニ於テ竊盜ヲ犯シタリトテ刑法第三百七十七條ノ場合ニ適從セル者ニアラズ被告ハ刑法第三百六十七條第三百六十八條第三百六十九條及ヒ第三百七十六條ニ依リ處斷スヘキ者ナリ然ルニ原裁判所カ刑法第三百七十七條ヲ適用シ無罪ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリト云フコ在リ因テ本院檢察事ノ意見ヲ聞キ以テ之ヲ審案スルコ

刑法第三百七十七條ニ列記セル親屬ハ同法第一百四十四條親屬例中ノ第一項第二項及第二項中ノ同居ノ兄弟姉妹ノミヲ指スモノニシテ其第七項ニ示ス所ノ配偶者ノ祖父母父母ヲ包括セサルナリ故ニ被告夫妻ト共ニ妻ノ祖母方ニ於テ財物ヲ竊取シタル所爲ハ刑法第三百七十七條ノ第二項ニ依リ其罪ヲ問フヘキモノトス然ルニ原裁判所茲ニ出テスシテ同條第一項ニ依リ親屬間ノ竊取ニ係ルヲ理由ト爲シ無罪ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト判定ス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ左ノ裁判ヲ言渡スモノ也

飯塚 峯吉

被告夫妻ト共ニ妻ノ祖母タル根津「キシ」方ニ於テ竊盜ヲ犯シタル事實ハ原裁判官ノ認定スル所ナリ其所爲ハ刑法第三百七十七條第二項ノ明文ニ依リ竊盜ヲ以テ論スヘキモノナ

ルヲ以テ同法第三百六十六條(一人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス)トアルニ該ル同法第三百六十九條(二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ)トアルモ親屬ト共ニ犯スヲ以テ共犯者ト爲シ其刑ヲ加重スルノ限ニアラス因テ二月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ付ス

但シ贓物十一品ハ事主ニ還付ス

第六百八號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十一月三十日 上告
 明治十六年五月十九日 申渡

富山縣越中國礪波郡横堀村六十
 一番地平民

西部 丞 右衛門

明治十五年七月四日

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年七月二十二日金澤輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百一一條初項ニ依リ重禁錮一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ渡邊某ヲ毆打負傷セシトハ誣告ニシテ醫案モ亦偽造ニ係レリ而被害者ノ負傷ハ馬蹄ニ觸レタルカ又ハ自ツカラ顛倒セシニ因ルカ量リ知ルヘカラス然ルヲ被告ナシテ此犯罪者ト爲シタルハ事實ニ反違セル不當ノ裁判ナリト云ヒ而止告退申書ヲ以既ニ被害者ハ明治十五年五月二十二日ソ頃ハ耕耘ノ業ニ就ケリト保証スル者アリト云ヒ第一ヨリ第四迄ノ証憑ヲ舉テ前意ヲ擴張セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル如左
上告ノ趣旨ハ原判官カ探証ノ適否ヲ論難シテ事實ニ侵入ストイフモ抑各証憑ノ取捨採擇ハ
裁判官ノ職權ニシテ他ヨリ之ヲ非難シ得ルモノニ非ズ又追申書ニ掲クル第一號乃至第四號
被害者カ耕耘ノ業ニ就ク云々ノ陳述等ハ未ダ曾テ事實裁判官ノ判定ヲ經由セザル新出ノ證
憑アレハ本院ニ於テ別ニ辨明ヲ與フルノ限リニ非ズ依テ上告ノ旨意總テ相立ストス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ
第六百九號

○判文(虛偽負債増加ノ件) 明治十五年九月十八日上告
明治十六年五月廿一日申渡

岡山縣備前國岡山區萬町平民煙

草商

阿部

傳造

明治十五年四月
四十四年十二月生

大坂府和泉國界區宿屋町東三丁

目平民無職業當今岡山縣岡山區

磨屋町寄留

横田

竹

明治十五年四月
三十四年十二月生

虛偽ノ負債増加被告事件ニ付明治十五年四月廿六日岡山輕罪裁判所豫審終結ノ言渡ニ對シ

故障ヲ爲シ仍ホ會議局ニ於テ故障ノ申立ヲ棄却ストルノ判決ニ服セス各上告セリ傳造カ申立
ル要領ハ告訴人岡崎和三郎カ告訴ノ二點ノ内被告傳造ニ授與シタル乙第三號證ノ確約書ハ
詐欺騙取シタリト告訴シタルハ原裁判所カ處分セサルハ不服ナリト云ヒ而シテ傳造カ虛偽
ノ負債増加シタル所爲ノニテ以テ改定律例第二百四十六條不應爲重キニ該ルベキ者トセ
ラレタルモ治罪法第九條第四項ニ依リ公訴權ハ消滅スルモノナレハ免訴ノ言渡アルヘキモ
ノナリト云フニアリ竹七ニ於テハ正犯タル傳造カ所爲ハ治罪法第九條第四項ニ依リ公訴權
ノ消滅ニ歸スル止ハ從タル竹七ニ於テ無罪ニ歸スヘキニ刑法第三條ニ依リ不應爲輕キニ該
ルモノトシ公判ニ移サレタルハ不當ナリト云フニアリ
對手入檢事補樺島鎮八ニ於テハ一々之ヲ辨駁シ原判決至當ナリト趣旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
治罪法第九條第四項ニ犯罪ノ後ヲ頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止トアリテ至ク廢止ニ屬
スル時ノ謂ニテ被告傳造竹七ノ罪ノ如キハ原判文ニ揭示シタル如ク新舊法共ニ掲載スル私
書偽造並ニ家資分散ノ際虛偽ノ負債増加シタルモノニテ新舊法ノ比照ニ因リ其輕キ舊法
ニ當該シ其刑ノ廢止ニ屬シタルモノニアラサルナリ其他告訴人ヲ刑ニ處セラレサルハ不當
ナリト云フモ謂レナキ申分ナレハ之ニ一々辨明ヲ與ヘス因テ上告ノ趣旨相立タス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百十號

○判文(賭房給與ノ件) 明治十五年六月四日上告
明治十六年五月廿一日申渡

福島縣岩代國耶麻郡高堂太村平
民菊池仲松妻

池

明治十五年四月
二十五年三月

賭房給與被告事件豫審終結言渡ニ對スル原檢察官ノ故障ヲ認可スト言渡シタル若松輕罪裁
判所會議局ノ判決ヲ不當ト爲シ被告「ミツ」カ上告ヲ爲スノ要旨ハ明治十五年一月廿三日夜
福島吉次外三名ニ賭具ハ勿論房屋ヲモ貸與ヘタル覺之レナキニ會議局ニ於テ被告カ所爲ハ
刑法第二百六十一條ニ該ルヘキ輕罪ナリトシ若松輕罪裁判所ヘ移スノ判決ヲ下シタルハ不
法ノ裁判ナリト云フニ在リ

原檢察官ハ被告カ犯罪ノ證據明確ナルヲ以テ會議局ノ判決ハ頗ル其當ヲ得タルモノナル旨
答辨セリ因テ本院檢察ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ

被告カ上告ノ理由トスル所ハ原裁判所ノ會議局カ認定シタルノ事實ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱
ヘ之カ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲ス決得ス何トナレハ各種ノ證據ヲ審查シ
テ事實ヲ認定スルハ事實裁判官ノ特權ニ屬シ其當否如何ニ至テハ越權等不法ノ廉アルコト
ラサレハ本院ニ於テ之ヲ鑒査スルヲ得サレハナリ因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ
棄却スルモノ也

第六百十二號

○判文(度量衡規則違反ノ件) 明治十五年十月廿四日上告
明治十六年五月廿一日申渡

秋田縣羽後國平鹿郡今宿村九十

九番地平民

柏原兵治

明治十五年四月
二十八年六月

度量衡規則違反事件ニ付明治十五年四月二十六日大曲治安裁判所ニ開ク秋田輕罪裁判所ニ
於テ被告ハ長方形ノ箱ヲ以テ鹽ヲ販賣スト雖五厘價ノ目安ニ用ヒシマテニテ升數ヲ量リシ
ニアラサレハ明治九年第十七號公布度量衡規則ニ違背セサルモノトシ無罪ト言渡シタルヲ
原檢察官カ不當ト爲シ上告ヲ爲スノ要領ハ原裁判所ニ於テ被告カ販賣ニ供シタル無檢印ノ
樽三箇ノ内一箇ハ五厘價ノ目安ニ用ヒタルノミナルヲ以テ其罪ヲ問ハサルハ至當ナリト雖
モ他ノ一箇ニ對シテハ犯罪ノ證據明白ナルニモ拘ハラス被告人ノ供述ヲ採用シテ其罪ヲ不
問ニ措キタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

茲ニ本院檢察ノ意見ヲ聞キ以テ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件訴訟書類ヲ檢閲スルニ其升數二箇ノ内一箇ハ販賣ノ用ニ供スト雖モ升數ヲ量ル爲ニ非
サレハ罪ノ問フヘキナク又一箇ハ之ヲ販賣ノ用ニ供シタルトノ確証アルヲ見ス到底上告ノ
趣旨ハ證據取捨ノ當否ヲ論スルニ止ルモノナレハ上告ノ原由ト爲スヲ得ス何トナレハ各種
ノ證據ヲ取捨シテ罪ノ有無ヲ斷スルハ原裁判官ノ特權ニシテ越權等不法ノ廉アルニ非サレ
ハ本院ニ於テ其當否ヲ鑒査スルヲ得サルハ法律ノ然ラシムル所ナレハナリ因テ治罪法第四
百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

○判文(竊盜ノ件) 明治十六年四月廿七日上告
明治十六年五月廿一日申渡

秋田縣羽後國平鹿郡淺舞村平民

農

眞田

權太郎

明治十五年十一月十四年七月

明治十五年十一月四日大曲治安裁判所ニ開キタル秋田輕罪裁判所ニ於テ右眞田權太郎カ竊盜被告事件ヲ審判シ刑法第三百七十二條刑法第三百七十六條ニ依リ仍ホ刑法第八十條刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ三等ヲ減シ七日ノ拘留ニ處シ監視六月ヲ附加ストシ裁判言渡ヲ爲シタリ大審院檢事長渡邊驥ハ其裁判ニ對シ非常上告ヲ爲シタリ其要旨ハ拘留七日即チ違警罪ノ刑ニ監視ヲ附加シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコト付治罪法第四百三十五條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ適法ノ判決アラシムト云フニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
刑法第三百七十六條ニ記載シタル輕罪ノ刑ニ處スル者云々トアリテ被告權太郎カ本刑ハ輕罪ナリト雖モ減輕シテ拘留ノ刑ニ處シタルモノナレハ監視ノ刑ハ附加スルヲ得サルモノトス然ルニ原裁判所カ之ヲ附加シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十五條第二項及同第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡中監視六月ヲ附加シタル部分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也

○判文(田地詐取ノ件) 明治十五年十一月十日申渡
明治十六年五月廿一日申渡

愛媛縣伊豫國上浮穴郡久萬町村

居住平民民事原告人

林太郎

年齡不分

右林太郎ハ根元刑事ノ告訴人ニシテ被告人坪谷爲吉カ田地詐取ノ事件タル松山輕罪裁判所豫審裁判官ニ於テ被告犯罪ノ証憑充分ナラストシ免訴ストノ言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シタル處明治十五年六月廿八日同裁判所會議局ニ於テ右豫審言渡ハ專ラ公訴ニ對スルモノニシテ毫モ私訴ニ關シ越權アルヲ見サレハ民事原告人ノ故障申立ヲ棄却ストノ言渡ヲ不法ナリトシ上告爲シタリ其要旨ハ右爲吉カ犯罪ノ証憑充分ナルニモ拘ハラサル耳ナラズ治罪法第四百條ノ規則ニ從ヒ公訴ニ附帶シ私訴ヲ爲シタル者ナレハ該故障ノ如キハ公訴ニ對スル故障ナルモ私訴ヲ含蓄セシムハ論ヲ俟ス然ルニ同會議局ニ於テ右故障ノ申立ヲ棄却セラタルハ不當ナリト云フニ過キス茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本件上告ノ旨趣ハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス如何トナレハ民事原告人カ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキ場合ハ同法第二百四十六條第二項ニ明揭アルアリテ私訴ニ付越權ノ處分アルニ非サレハ故障ヲ爲スヲ得ヘカラサル者ナリ然ルニ上告人カ原裁判所會議局ニ爲シタル故障ノ趣意ハ豫審裁判官ノ越權ヲ原由トナ

スニ非ズシテ公訴被告カ犯罪ノ証憑有無ヲ論難シ即チ公訴部内ニ侵入シタルニ因リ同會議局ニ於テ之ヲ棄却セシハ素ヨリ至當シ判決ホレハナリ仍テ同法第四百二十七條ニ法リ本件上告ヲ棄却スル者也

第六百十四號

○判文〔証券印稅犯則〕明治十五年十一月廿一日上告
明治十六年五月廿一日申渡

德島縣阿波國名東郡上助任村平

民

河野

利五郎

明治十五年五月
五十七歲

右利五郎ハ明治十五年五月廿九日德島輕罪裁判所ニ於テ証券印稅犯則ノ被告事件ニ付同規則第四則第十五條明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ減稅高五十九錢三厘ニ係ル十倍ノ罰金五圓九十三錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ上告セリ其要旨ハ本按證書ハ金高貳拾圓ト記載シテ甘利重藏ヘ渡シタル者ナルニ其金額六百五拾圓ト成リアルハ重藏カ奸策ニ出テタリ故ニ勸解掛リ官ヨリ該證書ノ詐偽ナルコトヲ告發シタルモノナルニ原裁判所ニ於テ詐偽ノ審訊ヲ盡サス單ニ六百五十圓ノ印稅犯則ノ裁判ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
訴訟書類ニ就キ德島治安裁判所ノ裁判官カ告發書ヲ見ルニ固ヨリ証券印稅犯則者ト認メ告發シタル者ニシテ証券詐偽等ノ條件ニ係ラサルコト判然タルノミナラズ檢察官カ提起シタル

公訴モ亦該犯則事件タルハ公判始末書ニ據テ分明ナリ然則原裁判所ニ於テ其ノ被告事件タル印稅犯則ノ所爲ヲ審理シ其脫稅タル事實ヲ認定シテ該罰金ヲ言渡シタルハ至當シ裁判ナルヲ以テ上告ノ旨趣ハ其ノ理ナキ者トス依テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第六百十五號

○判文〔賭博ノ件〕明治十五年十一月廿二日上告
明治十六年五月廿一日申渡

靜岡縣遠江國長土郡西ヶ崎村平

民農業

尾上

忠藏

明治十五年八月
三十九年十月

右尾上忠藏カ賭博被告事件ニ對シ明治十五年八月十五日濱松輕罪裁判所ニ於テ証據充分ナラサルヲ以テ無罪ト判定シ放免ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリトシ同裁判所檢事補海老江克己ハ上告ヲナシタリ其要旨ハ被告ハ現ニ賭博ヲ爲シ其場ヨリ逃走シタルハ警察官ノ交付書巡查捕縛手續書共犯人ノ陳述被告任意ノ白狀等ニ依テ証憑明瞭ナルニ裁判官ハ此衆證ヲ放擲シ特ニ捕獲手續書中ニ各氏名ヲ登記セス又共犯ノ口供ニ西ヶ崎村茂平ト稱呼シ忠藏トナキニ因リ其氏名ノ異ナルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト如シ

原裁判言渡書ニ當時ノ捕縛手續書ニ因ルニ捕吏臨場ノ際被告人尾上忠藏ヲ現ニ認メタル証據充分ナラサルヲ以テ云々トアリテ原裁判所ガ被告人ヲ無罪ト判定セシムルハ其氏名ノ差異アルヲ以テスルニ非スシテ其賭博現場ニ於テ被告人ヲ認メタルノ証據充分ナラサルヲ以テスルハナリ已ニ現場ニ於テ認メタルニ非サル以上ハ假令賭博犯罪ノ證據明白ナルモ現ニ博奕ヲ爲シタル者ト云フコトヲ得スシテ即チ刑法第三百六十二條ヲ適用スヘキ者ニ非サルナリ故ニ被告人ニ對シ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第六百十六號

○判文(官林盜伐ノ件) 明治十五年十一月十日 上告
 明治十六年五月廿一日 申渡

青森縣陸奥國北津輕郡宮野澤村
 七十四番地平民

吉田長四郎
 明治十五年六月三十四年

官林盜伐被告事件ニ付明治十五年六月廿九日五所川原治安裁判所ニ開ク弘前輕罪裁判所ニ於テ處犯第一項ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ舊法ニ於テハ賊盜律常人盜ニ準シテ論シ贓金貳拾圓以上懲役九十日新法ニ在ッテハ刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ重禁錮二月以上一年以下新法ノ輕キニ從ヒ第二項ハ新法實施後ニ係ルヲ以テ刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ重禁錮二月以上一年以下監視六月以上三年以下

下ノ範圍内ニ於テ重禁錮三月監視八月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事代理警部大堀武ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ被告ノ處犯三項ニ涉リ第一項ハ刑法實施以前ニ在ッテ未發自首ニ係レハ舊法ノ輕キニ從ヒ全免ヲ與フヘキモノニ付第二項即刑法實施後ノ罪ノミヲ以テ猶自首ノ減輕ヲ加ヘ處斷スヘシ第二項ノ舊法ニ於ルモ盜田野穀麥ノ條ニ依ルヲ相當トス然ルニ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ不當ナリト云フニ在リ

對手人吉田長四郎ハ五所川原警察署ヨリ巡查一名山林局ヨリ官吏一名中里村分署ノ巡查一名都合三名宮ノ澤村戸長役場ニ居合同所ニ於テ犯罪ヲ自首シタリト答辨ス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ之ヲ審察スルニ被告ノ處犯ハ二項ニ及ブモノニシテ第一項ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法ニ於テハ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金貳拾圓以上懲役八十日未發自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ免罪スヘシ新法ニ於テハ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ自首スルヲ以テ同第八十五條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ同第三條第二項ニ照シ新舊法ヲ比照シ舊法ノ輕キニ從フヘキモノトス第二項ハ新法實施後ニ係ルヲ以テ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ一月以上一年以下ノ重禁錮未發自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルニ該當シ二罪俱發ナルヲ以テ刑法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

吉田長四郎
 四二三

被告處犯ノ事實ハ原裁判言渡書ニ明瞭ナリ而第一項ハ新法實施以前ニ在ルヲ以刑法第三
 條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ
 論シ贓金貳拾圓以上懲役八十日事未ク發覺セサル前自首スルヲ以犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ
 免ス新法ニ在ツテハ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ未發自首古
 ルヲ以刑法第八十五條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ舊法ノ輕キニ從フモノトス第三項ハ新法實
 施後ニ係ルヲ以刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ二罪俱發ナルヲ以テ一ノ重キニ從
 ヒ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處事未ク發覺セサル前自首スルヲ以テ同第八十五條
 ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ廿二日以上九月以下ノ範圍内ニ於テ一月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同第
 三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スルモノ也

第六百十七號

明治十五年十一月十四日上告
 明治十六年五月廿一日申渡

○判文(詐欺取財ノ件) 宮城縣陸前國玉造郡鳴子村七十
 三番地平民當時根室縣根室國根

三番地平民當時根室縣根室國根
 室郡梅ヶ枝町一丁目五番地寄留
 遊 佐 金 六
 明治十五年五月
 三十八年九月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年五月三十一日舊開拓使根室支廳刑法課斷刑係於テ所犯
 新法實施以前ニ在ルヲ以舊法ニ於テハ賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ贓金十六

圓余懲役七十日新法ニ於テハ刑法第三百九十五條第三百九十條第三百九十四條ニ依リ第三
 條第三項ニ照シ新法ノ輕キニ從ヒ重禁錮三月ノ處ス但明治十四年第八十一號公布ニ依リ
 附加刑ニ適用セスト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ田澤清吉ノ告訴狀ハ詐言多ク
 証人三郷至嗣ノ陳述ハ疑ヒアリ吉田平作ノ申立ハ實ナルモ齟齬アリ佐藤金太郎ノ申立ハ其
 意ヲ盡サハルモ其言實ニシテ却テ被告ノ利益アル證左ナリ畢竟金十六圓余ハ已ニ貸借ニ相
 成リタル上ハ犯罪ノ廉無之ト云フニ在リ

對手ハ檢察官警部師岡毅ハ被告ノ陳述ハ本案ハ固ヨリ貸借ニ成立チタル趣ナレモ其証左無
 之所謂捉影ノ如キ陳言ナリ連之ヲ辨駁シ原裁判ハ至當ナリト云ヘリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以審按スルニ
 上告ノ要旨ハ証人等カ陳述ノ可否ヲ擧テ論告シ判官カ探証法ノ適否ニ及フモノナリト雖証
 憑ノ取捨採擇ハ判官ノ權内ニ在テ他ニ於テ之ヲ侵スナ得サレハ上告ノ原由トナスナ得ス何
 シトナレハ治罪法第四百十六條第三項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述
 鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ネトアレバナリ然而原裁判ニ於テ被告ノ
 所爲ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法ニ問ヒ賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ贓
 金十六圓以上懲役七十日ト爲シ前ニ掲ケル新法條項ニ比較シ新法ノ輕キニ從ヒ重禁錮三月
 ニ處シタルニ抑被告ノ犯罪ヲ舊法ニ問フニハ雜犯律費用受寄財産條死ト詐言スル者ハ竊
 盜ニ二等ヲ減シ云々トアルニヨリ贓金十圓以上懲役五十日ニ該ルモノトス之ヲ刑法第三條
 第二項ニ照シ舊法ノ輕キニ從ヒ處斷スヘキニ原裁判ハ茲ニ出テ其擬律ニ錯誤ニ係ル

不當ノ裁判ニ付治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判ス左ノ如シ
 被告犯罪ノ事實ハ原判文ニ掲ケテ明確ナリ而其所犯新法實施以前ニ在ルヲ以舊法ニ於テ公
 雜犯律費用受寄財産條中死失ト詐言スル者ハ竊盜ニ三等ヲ減シ云々トアルニ依リ其贓金十
 圓以上懲役五十日ニ該ル新法ニ於テハ刑法第三百九十五條第三百九十條第三百九十四條ニ
 該當スルヲ以第三條第三項ニ照シ舊法ノ輕キニ從ヒ懲役五十日ニ處テルモ也
 第六百十八號
 ○判文(器物棄毀ノ件) 明治十五年十一月廿二日上告
 明治十六年五月廿一日申渡
 茨城縣常陸國那珂郡門部村平民

高立橋 新橋十郎
 明治十五年七月
 二十七年

家屋及ヒ物品ヲ毀壞セシ被告事件ニ付明治十五年七月廿七日水戸輕罪裁判所刑罰法第四百
 二十二條ニ依リ罰金七圓ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事高澤重道ハ上告セテ其要領ハ被
 告新十郎ノ所爲ハ其障子ヲ毀棄シタルハ刑法第四百三十三條ニ該シ其柱ヲ毀損シタルハ同
 第四百三十七條ニ問擬スヘキニ單ニ刑法第四百三十一條ニ問ヒタルハ擬律錯誤ニ裁判ナ
 リト云フニアリ

對手ハ高橋新十郎ニ之ニ答辨セヌ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
 上告ノ要旨ハ被告新十郎カ障子ヲ毀棄シタルハ刑法第四百三十一條ニ該シ其柱ヲ毀損シタ
 ルハ同第四百三十七條ニ問擬スヘキモノナリト論告スルト雖モ障子覆シ如キハ其家屋ノ一部
 分ニ附屬スル物品ニテ刑法第四百三十一條ニ人ノ器物云々トアル器物ナリト云ヒ難シ然ラ
 ば則家屋ノ柱ヲ毀損セシ罪ト同一罪ナルニ原裁判所ハ器物毀棄ノ一罪ナリトシ處斷セシハ
 擬律錯誤ノ裁判ナリト下判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ裁判スル
 左ノ如シ

原裁判所ノ認メタル事實ノ理由及ヒ證據トシ據ル人ノ家屋ヲ毀損シタル罪ヲ犯シタルハ
 明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ
 刑法第四百三十七條人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ
 處シ三圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルアルニ該ル
 因テ高橋新十郎ヲ重禁錮二月ニ處シ罰金二圓ヲ附加スル者ナリ
 第六百十九號
 ○判文(証書毀棄嫌疑ノ件) 明治十五年十二月十二日上告
 明治十六年五月廿一日申渡
 埼玉縣武藏國北足立郡大谷村平
 民多左衛門長女

明治十五年六月

三十四年

右「サ」カ被告事件ニ付明治十五年六月廿日浦和輕罪裁判所於テ被告ハ明治十五年四月廿四日浦和始審裁判所人民扣所ニ在テ豐島兼治カ所持セシ金三十五圓記載ノ借用證書ヲ引裂キタルモ元來該證書タルヤ既ニ其義務ヲ盡了シタル三十圓記載證書ノ書換ニシテ現ニ權利義務ヲ保存セサル廢紙同様ノ者ナレハ之ヲ毀棄スルモ刑法ノ問フ處ニ非ストナシ無罪ヲ言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事岡田豊カ上告ヲ爲シタル要旨ハ抑該證書タルヤ三十圓記載ノ金借證書ト其成立原由ヲ異ニシ決シテ其書換ノ者ニ非ス其證據ハ各證人ノ陳述ニ照シテ明瞭ナルノミナラス其書換タル反證ナキニ因テ知ル可キナリ故ニ右三十圓記載證書ノ義務ヲ盡了セシ連爲メニ他ノ證書ニ係ル義務ヲ消滅スヘキ理由ナク又假ニ書換テ證書ナリトシテ論スルモ被害者ハ之ヲ以テ順次上等ノ裁判所ニ訴出スル權利ヲ有スルモノナレハ到底權利義務ニ關セサル一片ノ廢紙ト謂フヲ得ヘカラス然ルニ原裁判所於テ該證書ハ廢紙同様ノ者ナリト認定セシハ不當ナリト云フニアリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

諸般ノ證據ヲ取捨採擇スルノ權ハ特リ承審官ニ任從シタルハ治罪法第四百六條第三項治明揭シアリテ其證據取捨及ヒ事實ノ判定ニ對シテ他ヨリ之ヲ非難シ得可カラサルハ治罪ノ原則ナリ本按被告事件ニ於ケル原裁判官カ被告ノ陳述長島八左衛門ノ證言其他ノ徵憑ニ依リ該證書ハ既ニ權利義務ヲ保存セサル一片ノ廢紙ナリト認定セシモノナレハ其事實ニ對シ

テハ素ヨリ罪ヲ成立シテ何キ所爲ニ非サルハ勿論ニシテ之ニ無罪ト言渡シタルハ適當ナリトス其他原裁判官渡書中治罪法ニ背戻セシ點一モアルコトアラサレハ原裁判官破毀スヘキノ理由之ナキモノトス因テ同法第四百廿七條ノ規則ニ法リ本案上告之ヲ棄却スルモノナリ

第六百廿號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十二月十一日上告
 明治十六年五月廿二日申渡

兵庫縣淡路國三原郡倭文村平民

矢野多藏

明治十五年六月

六十四年

同縣同國津名郡洲本幸町平民小

右被告兩名ハ對シ明治十五年五月三十日洲本治安裁判所開キタル神戸輕罪裁判所ニ於テ被告矢野多藏ハ高田雄平ノ教唆ニ從ヒ證書偽造詐欺取財ノ所爲アルモ事未タ發覺セズル前ニ於テ自首スルヲ以テ刑法第二百十條同第二百十三條同第二百九十條同第八十五條等ニ照シ偽造之本條ニ因リ一等ヲ減シ重禁錮ニシテ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス又被告高田雄平ハ矢野多藏ヲ教唆シ證書偽造詐欺取財ノ所爲ニ於テ不實ニ自首シタルモ

刑法第二百十條同第二百十二條同第二百九十九條ニ依テ偽造ノ本條ニ照シ重禁錮二年
 ニ處シ三十圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付テ裁判言渡ヲ不當ナリトシ被告兩名ハ
 各生告申立ヲ爲シタリ此ニ上告人多藏カ趣意書ノ要領ハ該言渡書中ニ明治十一年二月中堀
 井由太郎所有ノ田地壹反七畝十三步ヲ代價百三十貳圓則舊藩札十六貫五百目ニテ買取ノ約
 ヲ爲シ内貳貫五百目相渡シタル受取證書ヲ取置キタル後雙方示談ノ上右約定ヲ破談シ嘗テ
 渡シアル貳貫五百目ハ藤井三十郎ヨリ返戻ヲ受ケ無効ノ證書類ヲ其儘手元ニ殘リ在ルヲ以
 テ明治十五年一月九日堀井由太郎ヨリ取戻シ勸解出願セラレトアレバ未ダ示談ノ上破談
 シタルコトナリ又貳貫五百目ヲ藤井三十郎ヨリ返戻ヲ受ケシコトナシ故ニ證書取戻シノ勸解出
 願セラレ初席出願ノ節貳貫五百目ノ手附金ト兼テ受取アル約定證ト引替可相渡存意ナル處
 雄平ニ誘導セラレ勸解不調ノ未尙出訴スルノ勸メニ應シ委任狀ハ與ヘタレハ後悔悟シ未タ
 發覺前自首シタルニアレハ聊カ罪ヲ問ハルヘキ理由ナシ又之ヲ證書偽造ニ問ハルハモ刑法
 第二百十條ノ第二項餘ノ文書ニ問ハレ同第一百十二條ノ未遂罪ニ照サレ又同第八十五條ト八
 十七條トニ通シテ自首減等セラルヘキ輕罪ナルニ今斯ノ處斷ヲ受ケタルハ不服ナリト云フ
 コアリ又上告人雄平カ趣意書ノ要領ハ多藏カ致唆セシコトナリ又受取書ノ與テ切斷セシコトナ
 シ又金貳十圓ハ熟談濟方ノ謝金ニ贈ラレタルモノニテ押取コトハアラズ又裁判言渡書中「貳
 十圓ヲ押隱シ過誤ノ体ニ申餉リ自首セシ云々」トアレバ豫審ノ初メニ自首爲シタルハ押隱
 シタルニアラズ云々論述ハ此ニ依リ同裁判所檢事代理警部近藤猛ハ原裁判相當ナリト答
 辨ヲ爲シタリ茲ニ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

生告人多藏ハ示談ノ上破談シタルコトナリ又金子ノ返戻モ受クルコトナシ供付原書類ヲ
 驗査スルニ明治十五年二月八日付ノ自首書ニ「前 右買取約定ハ既ニ破約ナシ、買取渡証券ハ
 依然私手許ニ殘カアリ云々」トアリ又豫審調書中「前 略夫云々地所賣渡スコト止ルト申テ
 内金貳十圓相渡アツテ金子三十郎ヨリ返戻シテ賣買約束ヲ止メ云々」ト自供シタルコトアラズ
 又証書偽造ニ問ハルハモ餘ノ文書ニ該ル未遂犯罪ナリト云フニ雖モ上告人カ証書ノ如キハ
 刑法第二百十條和項ハ適當犯ニシテ同條ノ二項ヲ以テ論スヘキモノニアラス何トナレハ金
 錢受取證書ハ權利義務ニ關スルモノニシテ賣買貸借ノ證書同一ノ効チ有ルモノナレハナ
 リ又該自首書中「前 略願ニ慾心ヲ發シ任其意別紙證據物ノ如ク高田雄平ハ右事件委託セリト
 アツテ被害者ト法廷ニ於テ權利ヲ相爭ヒタルノ所爲ハ證書行使シ既遂タルコト明瞭ナリ故
 ニ原裁判所カ刑法第三百九十九條ノ詐欺取財ト同第二百十條トニ照シ重キニ從ヒ同條ノ行使
 既遂ヲ以テ論シ同第八十五條ニ依リ自首減等ノ處斷爲シタルニアレハ之ヲ以テ不當ナリ
 ト云フコト得テ上告人雄平ハ事實上ニ付論述スル所アリト雖モ徒ク事實裁判官ノ判定ニ對
 シ不服ヲ唱フルモノニ過キルハ上告ノ原由ト爲スコト得ズ
 右ノ理由ナルニ依リ該上告ハ都テ相立ス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモ
 ノ也

第六百廿一號

○判文(擅ニ醫業ヲ爲セシ件) 明治十五年十一月廿一日上告
 明治十六年五月廿一日申渡

山梨縣甲斐國西山梨郡紺屋町十

五番地平民醫業志村隆仙長男

志

村 隆 齋

明治十五年七月

二十七年五月

右隆齋カ被告事件ニ付明治十五年七月十九日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告ハ官許ヲ得ズシテ醫業ヲ爲シタルモノト認定シ刑法第二百五十條ニ依リ罰金十五圓ニ處ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ被告隆齋カ上告爲シタル要領ハ同國北巨摩郡小牧村駒井「カヤ」ナル者ノ病ニ罹リタルヲ往診シ藥劑ヲ與ヘタルコアリトシ趣ナレト決シテ擅ニ診斷治療セシコトナク只僅ニ鑑札ヲ有スル醫師即チ實父隆仙ノ先診ニ次テ代脈ヲ爲セシ者ニ過キサレハ之ヲ證明セシト其召喚ヲ請ヒタレト採用セテ却テ巡查井手謙次ナル者ノ隆仙ニ診斷ヲ請フタルト云フテ以テ之ヲ自分ニ誣ヒラレタルハ不當ナリト云フニアリ同裁判所檢事補澁谷孝世カ答辯ノ要旨ハ其告發人タリシ巡查矢島五郎左衛門ハ同僚井手謙次カ疾病ニ罹リシ時被告ノ診斷ニ依リ藥劑ヲ受ケタルコトヲ證明シ而シテ本職モ同人ノ喚問ヲ請求スルコト因リ裁判長ハ井手謙次ヲ訊問シ被告隆齋ヲ指示シ汝カ見タルコトアリヤト問ヘハ藥劑ヲ與ヘタル志村隆仙ト稱シタルモノナリト申供セリ夫レ如斯被告カ父ノ名ヲ假リ私ニ醫業ヲ爲シタル顯著ナリ唯矢島五郎左衛門ノ告發狀ニ駒井「カヤ」ノ名ヲ登記アルコト實トシ被告カ罪ヲ覆フノ具トセントスルモ告發狀中私ニ醫業ヲ爲シタル趣意ヲ擴張シ駒井「カヤ」其他誰彼ノ別ナシト云フノ文意ニテ「カヤ」一ハ止マラサルナリ已ニ公庭ニ於テ謙次ヲ治療セシ證明ト謙次カ現ニ受ケタル證言ト因リ該犯ヲ治スルハ充分ノ證憑ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立

會檢事ノ意見ヲ聽キ原書類ヲ檢閱スルハ原檢察官カ答辯書ノ如ク業已ニ證人井手謙次ノ申供ニ依ツテ罪狀ノ明白ナルコトモ拘ハラヌ事實ノ判定ニ對シ徒タニ之ヲ論難スルモノニ過キサレハ上告ノ原因ト爲スコト得ヌ因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第六百廿三號

明治十六年四月二日上告
 明治十六年五月廿二日申渡

福島縣岩代國大沼郡高田村平民

佐

治 幸 平

明治十六年二月二十一年三月

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十九日福島輕罪裁判所若松支廳會議局ニ於テ被告佐治幸平カ豫審終結言渡ニ對スル故障ノ申立ヲ審理シ被告幸平ハ村民等カ喜多方警察署ニ喧鬧シタル暴擧ニ加ハラサルトノ反證ナク却テ暴ニ豫審廷ニ於テ爲シタル調書及ヒ共犯人等ノ陳述其他證據物件等ニ依リ犯罪ノ證據充分ナリトス且豫審廷ニ於テ證人ヲ請求シタリトシ本案訴訟書類ヲ檢閱スルニ其請求ヲナシタル廉ナシ被告カ今日ノ陳述ハ口頭ニ止マリ証左ナキヲ以テ請求シタルモノトハ見認カタシ故ニ豫審掛カ證人訊問ノ手續ヲナサハリシハ違法ニアラスシテ豫審掛カ被告ハ刑法第二百二十七條ニ該ルモノトシ福島重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタルハ適當ノ處分ナルヲ以テ其言渡ヲ認可スルトノ判決ヲ爲シタル處被告幸平ニ於テ右判決ヲ不當ナリトシ上告スルノ要旨ハ被告ニ於テハ喜多方ノ暴擧ハ中禪寺

ノ集會ニ於テ杉山重義カ演說教唆シタルニ起因セル者ニシテ道路開鑿訴訟事件トハ毫モ相
 關涉セズ而シテ被告ハ該訴訟事件ニハ干與シタルモ暴擧ノ事ニ於テハ毫モ之ニ干與セシコ
 ナシ若シ被告チンテ暴動ノ教唆者ナリトモ何ノ地ニ於テ人民ヲ教唆シ其暴擧ノ心ヲ起サ
 シタルトノ適證ナカルヘカラス然ルニ豫審裁判官ハ毫モ關係ナキ證憑ヲ採リ喜多方ノ暴
 擧ハ道路開鑿出訴事件ニ起因シタルモノニシテ被告ハ該暴擧ノ教唆者ナリト認定シタルハ
 不當ノ判決ナルニ依リ五個ノ點ヲ舉ケ以テ故障ヲナシタル處會議局ニ於テハ被告カ故障申
 立ノ要點ニ對シ判決ヲ與ヘスシテ却テ請求外ナル證人ノコトニ付判決ヲナシ且ツ豫審終結ノ
 言渡ヲ認可シタルハ則チ治罪法第四百十條第七項第九項ニ明載アル破毀ノ原由アル不法ノ
 判決ナリト云フニ在リ福島輕罪裁判所若松支應檢事補加藤秀男ハ原判決ハ毫モ法律ニ背犯
 シタル所ナキ旨答辨セリ本院檢事堀田正忠ニ於テハ上告ノ要旨ハ承審官カ事實上ノ判決ニ
 不服ヲ鳴ラスト請求外ナル證人ノ事ニ判決ヲ下シタルヲ不當トナルノ二點ニ過キテ蓋シ事
 實ヲ認定スルハ事實裁判官ノ特任スル處ニシテ本院ノ管理外ニアレハ此點ニ對スル上告ハ
 固ヨリ受理ス可カラサルハ論ヲ俟タスト雖モ原裁判所會議局カ被告ノ故障外ナル證人ノコ
 ト判決シタルハ職權ヲ踰越シタル不當ノ處置ナレハ該點ニ對スル被告ノ上告ハ治罪法第四
 百十條第七ニ定メタル適法ノ原由アルモノニ付治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判
 所破毀シ更ニ相當ノ裁判所ニ移スノ言渡アラシコトヲ希望スル旨陳述セリ依テ判決スルコト左
 ノ如シ
 凡ソ事實ノ認定證據ヲ採擇ハ承審官ノ特任スル所ナリト雖モ其裁定シタル事實ノ理由ト證

憑トハ正確ニ之ヲ明示セサルハカラス然ルニ今豫審終結言渡書ヲ閱スルニ該暴擧タルヤ其
 暴擧ノ日ニ暴發シタルニアラス原因アリテ發シタルヤ明瞭タリ加フルニ被告等カ當初村民
 ヲ教唆煽動シタル効果モ亦少シトモ而シテ其事實ハ第一總理組頭等ノ役員ヲ設テ太鼓板木
 ヲ以テ人民ヲ集合セシメ各村ニ合圖ノ約ヲナシ以テ其氣脈ヲ通シタル等ノ外尙ホ自由萬歲
 壓制亡滅等ノ幟及ヒ現場ニ於テ差押タル棍棒箠笠礫石等ノ證據物件其他共犯人ノ陳供被告
 カ前後ノ舉動ニ據リテ犯罪ノ證憑充分ナルモノト認定ストアルト雖モ爰ニ原裁判所ノ書類
 ニ徵スルニ被告幸平カ道路開鑿事件ノ訴訟ニハ關與シタルコト見ルヘキモ喜多方暴擧ヲ教
 唆シタル點ノ見ルヘキ無キハ勿論又右暴擧ハ果シテ訴訟事件ニ起因シタルモノト推論シ得
 ヘキモノニアラストス何トナレハ訴訟ト暴動トハ固ヨリ其事因チ同ウセサルモノナレハ也
 而シ又其所謂証憑ナル者ニ至テハ之チ一件書類ニ徵スルニ太鼓板木ヲ以テ人民ヲ集合セシ
 メ各村ニ合圖ノ約ヲ爲シタル等ノコト相見ヘス其總理以下ノ役員ヲ設ケタルコトアルハ見ルヘ
 キモ是全ク訴訟事件ニ管スルノ役員ナリトス而シテ又自由云々等ノ幟及現場ニ於テ云々証
 據物件ヲアルモ果シテ被告ニ於テ喜多方暴動ニ際シ右等ノ物件ヲ準備又ハ使用シタルトノ
 証憑毫モ之ナシ且其他共犯人ノ陳供トハ其誰人ヲ指シタルナルヤ將如何ナル陳供ナルヤ是
 亦一件書類中絶テ見ルヘキナシ況シヤ被告カ舉動ニ管シテハ被告ハ右暴擧ノ以前即チ明治
 十五年十二月廿六日ニ於テ警察署ニ拘留セラレタルモノナルニ於テオヤ由是觀之豫審掛カ
 本按被告事件ノ判定ハ其事實ニ齟齬アリテ即チ擬律ノ錯誤アルモノトナラシ然ルチ會議局ハ被
 告ニ於テ右暴擧ニ加ハラサルコトヲ反証ナシトシ又唯共犯人ノ陳述云々ト説キ去リ其有罪

ルノ確証ヲ明示セシ偏ヘシ豫審終結ノ言渡ヲ適當ナリト認可シ及ヒ被告幸平ニ於テ會テ請
求ヲ爲サリシ證人ノコニ對シ之レカ判決ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第七項第十項ニ
定メタル破毀ノ原由アル不法ノ言渡ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ從ヒ原裁
判所會議局ノ判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルコト如シ
前記ノ理由ナルヲ以テ右幸平カ被告事件ニ對シテハ犯罪ノ証憑無之ニ依リ治罪法第二百二
十四條ノ規則ニ照シ免訴ノ上直チニ放免ス
第六百廿三號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十一月八日上告
明治十六年五月廿二日申渡
大阪府大和國添下郡郡山柳町五

丁目平民米仲買商

下村源三郎

明治十五年六月

右下村源三郎カ被告事件ニ對シ明治十五年六月三日奈良輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十
五條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補吉村信實
ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人ハ和田佐一郎ハ欺罔シ已ニ流質トナリタル玄米ヲ受戻ス
ト詐稱シテ金二百六十三圓餘ヲ騙取シ又佐一郎ノ依頼ヲ受ケ入質米三十石ヲ受戻シ内五石
ハ佐一郎ニ送致シ殘米二十五石ヲ冒認シテ自己ノ所有ト爲シ更ニ金百七十五圓ニ質入シタ

ル者ナレハ其所爲詐欺取財及ヒ他人ノ動産ヲ冒認シテ典物ト爲シタルニ罪ナルニ原裁判所
カ委託金ヲ費消スル罪ト爲シ處斷セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判
事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原檢察官ニ於テ被告人ハ詐欺取財ノ
罪アリト論告スト雖モ原判文ニ掲載セシ犯罪ノ事實ニ依レハ被告人ハ和田佐一郎ヨリ入質
米受戻ノ委託ヲ受ケ金二百六十三圓餘ヲ預リタルモ右米ハ已ニ流質ト爲リタルヲ以テ受戻
ストナリ得サルニ其金圓ヲ佐一郎ニ還付セスシテ擅ニ之ヲ費消シタル者ニシテ別ニ騙取ノ所
爲アリト認ムルコトヲ得サルニ因リ委託金ヲ費消スルノ罪ニ止マリ詐欺取財ヲ以テ論ス可キ
者ニ非サルナリ然レトモ其佐一郎所有ノ米二十五石ヲ自己ノ名義ヲ以テ更ニ典物ト爲シ金
百七十五圓ヲ取リタルノ事實ハ原判文ニ明示スル所ニシテ冒認ノ所爲明白ナリトス故ニ被
告人ハ他人ノ動産ヲ冒認シテ典物トナシ及ヒ委託ノ金額ヲ費消セシニ罪ヲ犯シタル者ナル
ニ原裁判所カ其冒認ノ罪ヲ論セサリシハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部
ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スコト如シ

下村源三郎

被告事件ニ對シ原裁判言渡書ニ事實証憑ヲ明示セシニ因リ他人ノ米ヲ冒認シテ典物ト爲
シ及ヒ委託ヲ受ケタル金額ヲ費消セシ罪アリト確認ス所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法
第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ冒認ノ罪新法ニ於テハ刑法第三百九十三條ニ依リ同
第三百九十四條第三百九十四條ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰

金ニ處シ六月以上三年以下ノ監視ニ付テ可ク舊法ニ於テハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜
ニ準シテ論シ贓金百二十圓以上懲役十年ニ該ル委託金費消以罪新法ニ於テハ刑法第三百
九十五條ニ依リ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處テ可ク舊法ニ於テハ雜犯律費用受寄財產
條ニ依リ座贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ詐欺取財ノ贓ヲ併セ金四百圓以上懲役二年ニ該ル依
テ新法ノ輕キニ從ヒ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ冒認ノ罪ヲ論シ刑法第三百九十九條第三百
九十三條ヲ適用シ仍ホ明治十四年第八十二號布告第六條第十條ノ例ニ照シ單ニ重禁錮七
月ノ刑ニ處スルモリナリ

第六百廿四號
○判文(証券印稅犯則ノ件) 明治十五年十一月廿二日 上告
明治十六年五月廿二日 申渡
愛媛縣伊豫國越智郡大見村平民

職業不詳
多和 三右衛門
明治十五年七月
滿三十七年
愛媛縣伊豫國越智郡大見村平民
渡邊 喜三郎
明治十五年七月
十五年
愛媛縣伊豫國越智郡今治村平民

職業不詳

松浦 大平
明治十五年七月
三十五年

証券印稅規則違犯被告事件ニ付明治十五年七月十三日西條治安裁判所ニ於テ開キタル松山
輕罪裁判所カ既ニ六ヶ月ヲ經テ發覺スルヲ以テ刑法第九條治罪法第十一條ニ依リ免訴スト
言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部補林殖ハ上告セリ其要領ハ証券印稅罰則ノ如キハ其犯罪發
覺ノ日ヲ以テ期滿免除ヲ起算スヘキ繼續犯罪ナルニ裁判官ニ於テハ犯罪起頭ヨリ計算シ既
ニ六ヶ月ヲ過キタルヲ以テ期滿免除ナリト裁判言渡タルハ不法ナリト云フニアリ
對手人多和三右衛門渡邊喜三郎松浦大平ニ於テ原裁判至當ナリトテ趣旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
証券印稅規則違犯者ノ如キハ其犯罪ノ當時ヨリ發覺ノ日ニ至ルニテ其證書ノ効力アル間繼
續シテ止マサルモノナレハ繼續犯罪ナリトス然ラバ則チ其犯罪發覺ノ日ヨリ期滿免除ヲ起
算スルニシテ原裁判所原犯罪ノ起頭ヨリ計算シ六ヶ月ヲ經過シタリトテ期滿免除ヲ起
リト斷リシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ
直チニ裁判スル左ノ如シ

多和 三右衛門
渡邊 喜三郎
松浦 大平
四三九

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ證憑トニ據リ金高百六拾圓ヲ贈與スヘキ契約書ヲ
三右衛門丈太ト授受シ喜三郎ハ證人トナリ之ニ壹錢印紙ヲ貼用シ適法ノ印紙ヲ貼用セサ
ルヲ明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律規則ハ

證券印稅規則第四則改正第七條諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ
十倍其證書ヲ受取タル者ハ減稅高五倍ノ科料タルヘキ事ニテ
同規則第九條ニ證券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサ
ルルカ又ハ界紙ヲ用ヒサル證書ニ證人ニ相立又ハ與書等致候者ハ貳拾五圓以下ノ過料ニ
同規則第十條ニ該此而シテ印紙不足ノ證書ヲ渡シタル三右衛門ハ減稅高拾五錢ノ十倍
大之ヲ受取タル丈太ハ同五倍之ニ證人トナリタル喜三郎ハ貳拾五圓以下ノ科料トナル
渡右ノ理由ニ原キ多和三右衛門ヲ壹圓五拾錢ノ科料ニ處シ松浦丈太ヲ七拾五錢ノ科料ニ處
シ渡邊喜三郎ヲ四拾錢ノ科料ニ處スル者也

第六百廿五號
明治十五年十一月廿九日
明治十六年五月廿三日
神奈川縣相模國愛甲郡林村第五
成田 奎右衛門
同村第五十番地平民
明治十五年八月
三十五年五月

同村第五十番地平民
明治十五年八月
三十五年五月

同村第四十九番地平民
明治十五年八月
三十四年五月

同村第四十五番地平民
明治十五年八月
二十九年二月

同村第五十二番地平民
明治十五年八月
二十九年八月

同村第十五番地平民
明治十五年八月
四十二年四月

同村第五番地平民
明治十五年八月
五十年四月

同村第四十六番地平民
明治十五年八月
四十六年九月

小川

新太郎
明治十五年八月

同村第四十四番地平民

藤吉郎
明治十五年八月

水島

藤吉郎
明治十五年八月

同村第六番地平民

藤吉郎
明治十五年八月

渡邊

藤吉郎
明治十五年八月

次郎
明治十五年八月

三十四年九月

一會講ト稱スル被告事件ニ付明治十五年八月二十三日小田原治安裁判所ニ開ク横濱輕罪裁判所ニ於テ明治十五年第二十五號公布第一條刑法第八十九條第九十條ニ依リ各重禁錮十五日ニ處シ罰金二圓五十錢ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補新山政清ハ之レヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ被告等ニ於ケル富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタルノミナラス富籤ヲ購買セシモノナレハ明治十五年第二十五號公布第一條及第二條明治十四年七十二號公布第五條ヲ適用シ各別ニ其罪ヲ論定スヘキキ原裁判ノ爰ニ出スルヲ單ニ同公布第一條ニ照シ處斷シタルハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ
對手人成田空右衛門外九名ニ於テハ檢察官上告趣意書ニ對シ意見無之旨答辨ス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ
公判始末書ヲ閱スルニ被告カ富籤幫助事犯ニ於テハ原檢察官已ニ公訴ニ及ブト雖モ富籤ヲ

購買シタル件ニ於テハ未ダ會テ公訴ニ及ハス而原裁判官カ公廷辨論上訴外ナル即ち購買ノ所爲アルヲ發見セハ附帶ノ事件ト爲シ之ヲ併訊シテ件別裁判ヲ爲ス然レテ當然併リトシテ未ダ以テ其所爲アリト斷定シ得サル場合ニ於テハ即訴外ノ點ニ係ルヲ以テ敢テ裁判ヲ與フルノ限リニアラストス依テ上告ノ趣旨相立ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第六百廿六號

○判文(酒造犯則ノ件)

明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月廿二日申渡

新潟縣越後國中魚沼郡谷内村平民營麴營業

酒造稅則違犯被告事件ニ付明治十五年三月二十四日六日町治安裁判所ニ於テ長岡輕罪裁判

山 八郎
明治十五年五月

所カ同規則ニ依リ免許稅額三十圓ノ二倍六十圓並ニ製造石數五斗九合ニ石ニ付二圓ノ割ヲ以テ一圓一錢八厘ノ三倍三圓五錢四厘ノ罰金ニ處シ已ニ賣捌タル代價六圓六十八錢ヲ追徵シ現存スル濁酒諸器械共沒收スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ添酏ハ其味濁酒ト大ニ異ニシテ同一ノ製品ニアラス且鑑定人ハ營麴營業者ニ非レハ其製法ヲ知ルニ由シナシト云ヒ又假リニ濁酒トナルモ營麴營業者ニ於テ販賣スルハ罪ヲ犯スノ意ナキモノナリ又ハ營麴營業者ニ於テ其製法ヲ誤リタルモノナレハ營麴營業稅則ヲ以テ罰スヘキニ酒造稅則

ニ依リ罰セラレタルハ共ニ不法ナリト云フニ在リ
 對手ハ檢察官警部補久永期勝ハ一々之ヲ辨駁シ原裁判至當ト云フ趣旨ヲ答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ理由トナル處承審官ノ各証憑ニ照シ認定セシ事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルニ過キ不
 法ヲ治罪法第四百十條第三ヨリ第十一項ニ掲ケタル規則ニ適當セサルモノニテ破毀ヲ求ル
 原由ト爲スチ得ス其他營翹營業者ニシテ其製法ヲ誤リタレハ營翹營業稅則ヲ以テ罰セラル
 ベキモノナリト云フト雖モ既ニ濁酒ナリト認メタル上ハ則チ酒造稅則ニ支配セラレベキモノ
 コテ營翹營業稅則ノ關係スヘキ限リニアラサルナリ因テ上告ノ趣旨相立ラス
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百廿七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也
 第六百廿七號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
 明治十六年五月廿二日申渡

大坂府北區紅梅町六番地平民雜業

村、益之助

明治十五年四月二十九日七ヶ月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年四月十八日大坂輕罪裁判所カ刑法第三百九十四條ニ依リ重
 禁錮一年六月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ仍ホ刑法第三百九十四條ニ照シ監視十月ニ付スト
 言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ第四十三國立銀行ノ手形ヲ以テ江田善太郎ヘ交附

シタルハ毫モ詐欺ノ情アルニアラス其無効タルハ豫知セシニ非ス果テ其手形無効物ナレハ
 善太郎ヨリ受取リタル証書モ亦無効ニ歸スヘキモノナルニ証書ヲ騙取シタル詐欺ノ所爲ナ
 リト認メ處斷セラレタルハ不當ナリト云ヒ又退伸書ヲ以テ被告ノ犯罪ハ新法實施前ニ在ル
 天以テ新舊法ニ比照セラレヘキモノナリト云フニアリ
 對手ハ檢事補戸田荒太郎ニ於テハ上告趣旨ヲ論駁シ原裁判至當ナリト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ理由トナル處事實判官ノ各証憑ニ照シ心証ヲ資リ無効ノ銀行手形ヲ以テ善太郎ヨリ
 金員貸借証書ヲ領収シタルモノナリト事實ヲ認定セシ其事實認定ニ對シ抗辯ヲ試ムルモ治
 罪法第四百十條ニ掲ケタル第二ヨリ第十一ニ至ル定規ニ適當セサル上告ナレハ破毀ヲ求ム
 ルノ原因ト爲スチ得ス其他犯罪ノ當時新法實施前ナレハ新舊法ヲ比照セラレヘキモノナリ
 ト云フト雖モ原裁判言渡ニ(江田善太郎ヘ金三千圓貸渡スヘキ旨欺罔シ明治十四年十二月
 二十六日約定金拾圓ヲ騙取云々)略果シテ善太郎ヲ欺罔シ拾圓ヲ騙取タル者ト看認ムヘキ
 証憑充分ナラス云々)トアリテ其罪ヲ問ハサル明了ニテ且ツ無効ノ銀行手形ヲ以テ証書ヲ
 騙取セシハ明治十五年一月十二日ニアレハ舊法ニ比照スヘキモノニアラズナルナリ因テ上告
 趣旨總テ相立ス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也
 第六百廿八號

○判文(私文書偽造ノ件) 明治十五年十一月廿二日上告
 明治十六年五月廿二日申渡

明治十五年六月四十六年

私文書偽造私印盜用被告事件ニ付明治十五年六月十六日山田輕罪裁判所ガ刑法第二百八條同第二百十條同第二百二十條同第百條ニ依リ重禁錮三年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ仍ホ監視一年ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ壺井神社ノ樹木ヲ伐採セシハ直チニ目撃セシコアラズ中田市松ヨリ承知セシニ因リ良心ノ感動ヨリ弟奧野敬藏ヲシテ其實地ヲ見セシニ果テ相違ナキヨリ弟敬藏ノ代書致シ調印シ戶長役場ニ差出シタルモノニテ偽書盜印ニアラズト云ヒ又豫審廷ニ於テ偽證ヲ申立タルニ非ズ兼テ告發セシタル事件ナリト誤認シ其段申立タルモノニテ共ニ罪トナルベキ所爲コアラズト云ヒ仍ホ追伸書ヲ以テ反覆之ヲ擴張スルニアリ

對手人檢事補柏田諫見ハ一々之ヲ辨駁シ原裁判至當ナルトハ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

公判始末書奧野敬藏申立ニ(問何故ニ汝ノ名ニテ告發セシヤ)(答自分ハ兄ノ指圖ニテ實地ニ臨檢セシコト同村野呂榮藏藤原善作姓名不知勘次郎外三人程ニテ伐採セシ枝葉ヲ束テ社ノ隣ナル長泉寺ノ境内ニ積ム處ヲ見認メ立歸リ兄平太郎ニ話シタル故自分ノ名義ニナシタリ

(問汝ハ何人ヲ指シ告發スル見込ナリシヤ)(答自分ガ實地臨檢セシ時中田市松ガ其場ニ居

合セ而シテ同人ハ村總代ヲ勤メ居ルヲ以テ此者ガ指圖セシ者ト存シ市松ヲ訴フル心得アリシ(問此告發書ハ野呂嘉七カ小前ノ者ニ伐採致サセタルトアリ汝ハ告發書ヲ見サリシヤ云々)トアリ又敬藏カ豫審廷ニ於テ爲シタル調書ニ(果テ平太郎カ承リシコトナレハ如何ナル譯ニテ本人ガ告訴セシ汝ヲシテ告訴セシメタルヤ)(答告發シタル後自分カ名前ヲ以テ爲シタリト平太郎ヨリ承リタルナリ尤モ役場ニ於テ認メタルモノト存候)(問然ラハ告發書ハ汝カ認メタルコトナク押印モシタル覺ナキヤ)(答然リ自分ハ認メタルコアラズ又押印モ不致實印ハ兼テ兄平太郎方ニ預ケ置キタルヲ以テ同人カ自分ノ記名押印シテ差出セシモノト存候)トアルヲ以テ見レハ敬藏ガ兄平太郎ニ於テ告發スルヲ知ラサルコト非ズ其告發スヘキ指的人名ハ平太郎ノ私擅ニ出テタルモノニテ私書偽造ノ責メハ免カレ得可カラサルモ其實印ハ常ニ平太郎ノ預リ居ル處ナレハ直チニ以テ印影盜用トモ云ヒ難シ其他豫審廷ニ於テ偽證ヲタリ云々トアルモ其事件ハ單ニ平太郎カ自カラ告發ニ起因セシコトニテ別種ノ罪ヲ構造セシコアラサルナリ因テ本案私文書偽造ノ一罪ヲ以テ論スヘキモノナルニ原裁判所ノ論決茲ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

奧野平太郎

原裁判所カ認メタル事實ノ理由及ヒ證據ニ據リ私書ヲ偽造行使シタル罪ヲ犯シタルヲ明白ナリ即チ此事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第二百十條末項ニ其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ二月以上一

年以下之重禁錮之處ニ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百三十三條此節言記載ニ
ケル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル因テ奧
野平太郎ヲ重禁錮二月ニ處シ罰金六圓ヲ附加シ仍ホ監視六月ヲ付スル者也其モ
第六百二十九號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月廿二日申渡

新瀉縣越後國古志郡蓬平村平民
勝一ニ德一藏
明治十五年六月
二十四歳生月不詳
同縣同郡竹澤村平民金七養子
同縣同郡蓬平村平民利吉三男
大工職
明治十五年六月
二十三歳生月不詳
同縣同郡蓬平村平民利吉三男
大工職
明治十五年六月
二十三歳生月不詳
同縣同郡蓬平村平民利吉三男
大工職
明治十五年六月
二十三歳生月不詳
同縣同郡蓬平村平民利吉三男
大工職

一 條第三項第三百五條及第七十條ニ照シ各一月十日ノ重禁錮ニ處スル裁判セリ三名ハ其裁
判ニ服セテ上告セリ其ノ趣意ハ各自數個ノ條項ニ分テ開陳セリ唯モ要スルニ原裁判ハ
不適當ナル證據ヲ採用シテ事實相違ノ斷定ヲ爲シタリト云ニ過キズ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ
聽キ判決スル左ノ如シ

諸般ノ證據ヲ採擇取捨シテ事實如何ヲ判定スルハ裁判官ノ特權ナルヲ以テ苟モ越權等不法
ノ點アルニ非ルヨリハ其判定ハ他ヨリ之レヲ動カシ能ハサル者トス原裁判言渡書ヲ閱スル
ニ其ノ理由及證據ヲ舉示シ被告人三名ハ相共ニ金子七藏ヲ毆打シテ負傷セシメ爲メニ疾病
休業時間十一日ニ至リタル事實アルヲ斷定セリ而シテ毫モ不法ノ點アルヲ見ズ故ニ該事實
ノ斷定證據ノ取捨ニ對シ之レヲ論難スル上告ヲ趣旨ハ總テ相立タズ申渡者トスル者也
右ノ理由ヲ以テ治罪法第四百三十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第六百三十號
○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年三月廿六日上告
明治十六年五月廿二日申渡

福島縣岩代國耶麻郡大都村平民
飯ノ島
明治十六年二月
三十四年
右佐平太ニ對シ明治十六年三月十三日福島縣裁判所若松支廳ニ於テ被告ハ明治十五年十
二月二十八日赤城平六瓜生直七等カ村民多衆ヲ嘯聚シ宇田成一等ノ勾留セラレタル事由ヲ
尋ナル等ヲ以テ口實トシ喜多方警察署ニ喧鬧スルニ際シ其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタ

ルモノトナシ刑法第二百二十七條凶徒多衆ヲ煽動シ官廳ニ喧鬧シ云々煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルコト依リ同法第六十九條ニ照シ重禁錮五年ニ處スト言渡シテ被告佐平太ハ此裁判ニ服セス曰ク明治十五年十一月二十八日ハ耶麻郡鳥見山村戸長役場ニ在リテ郡吏山崎義夫等ト俱ニ公務ニ從事シ更ニ喜多方暴動ニ關與セサルコトハ已ニ同日代夫賃金ヲ右山崎義夫ニ相渡シ其領收證モ有之ヲ以テ明白ナリ加之被告ハ嘗テ道路事件ニ付キ不服ヲ唱ヒタルコトナシ然ルチ前記ノ如ク處斷セラレタルハ不當ナリト旨趣ヲ以テ上告セリ

原裁判所檢事補加藤秀男ハ原裁判ヲ維持シ云ク本件ハ事實裁判官ニ於テ證憑書類ニ因リ其心證ニ徴シ處斷シタルモノ固ヨリ適法ノ裁判ナルト旨趣ヲ答辯セリ
大審院檢事長渡邊驥ハ附帶ノ上告ヲ爲シテ云ク裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ治罪法第三百四條ノ規則ニ從ハサル可カラス原裁判所於テ被告ニ對シ言渡タル判文ヲ閱スルニ唯其煽動ニ應ジ村民多衆ヲ煽動シテ其勢ヲ助ケタルモノト認定スルニミテ更ニ被告カ多衆ヲ煽動セシ事實方法ヲ明示セス輒ク刑ヲ斷定セシハ治罪法第四百十條九項ニ定ムル破毀ノ原由アルモノト爲セリ
大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ據リ檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スル理由ハ事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ特任スル處ナリト雖モ其認定シタル事實ノ理由ニ證憑トシテ正確ニ之ヲ明示セサルベカラズ然ルニ原判文ヲ閱スルニ其當時ノ舉動ト巡查草刈三郎ノ探偵書耶麻郡書記猿橋政孝ノ回答書其他證據物件等ニ依リ云々上列記ヲ以テ被告佐平太カ犯罪

ノ證憑トシテ雖モ被告ノ舉動トハ其當時ニ在テ如何ナル舉動ナリシヤ又其他證據物件トシテ如何様ノ證據物件ナリシヤ一モ明示セサルノミナラス之ヲ原一件簿冊ニ徴スルニ猿橋政孝ノ回答書ハ十一月二十八日耶麻郡役所ニ被告カ出頭セザリシヲ證スル迄ニ止ル而テ被告ハ豫審最終ノ訊問席ニ於テ二十八日郡役所ニ出頭シテ陳述ハ間違ニシテ郡役所ヨリ戸長役場ニ出張アリタルノ誤リナル旨ヲ申立アリ乃チ猿橋政孝ノ回答書ニ符合スト雖モ是ヲ以テ被告カ犯罪ノ證憑ト爲スニ不足ラサレ者トス又巡查ノ探偵書ノ如キハ素ヨリ裁判上證據トナスベキ者ニ非ス抑被告カ十一月二十八日ハ戸長役場ニ在リ郡吏山崎義夫ト共ニ公務ニ從事シタル旨ヲ申立アルニ於テハ他ニ被告カ兇徒中ニ在テ他ヲ煽動シ勢ヲ助ケタル證憑ノ見ルベキモノナケレバ原裁判所カ佐平太カ被告事件ヲ有罪ト判定シタルハ唯其有罪ナルノ確證ヲ舉示セサルノミナラズ而モ其事實ニ齟齬アル者ニシテ即チ擬律ノ錯誤ニ係ル裁判ナレハ治罪法第四百十條第十項ニ定メタル破毀ノ原由アル不法ノモノトス因テ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ照シ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ
判決
飯島 佐平太
前理由ノ如ク飯島佐平太カ被告事件ハ犯罪ノ證憑ナキニヨリ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪直チニ放免ス

第六百卅一號

○判文(証書偽造ノ件)明治十五年九月十八日上告
明治十六年五月廿二日申渡

明治十五年四月
二十七年九月

明治十五年四月二十六日平輕罪裁判所會議局ニ於テ右宮村樞藏ノ被告事件ニ付豫審終結ノ
 言渡ニ對スル檢察官ノ故障申立ヲ判決シ被告人ノ所爲ハ証書ヲ偽造スル罪アリトシ又其
 所爲ニ對シ豫審掛カ舊法ニ於テ不應爲ノ輕キ懲役三十日ニ該ルト言渡シタルハ越權ノ處分
 ニ非ストシ豫審終結ノ言渡ヲ認可シテ同裁判所檢事補宮池直親ハ其判決ニ對シ上告ヲ爲
 シタルノ要點ハ被告人カ丹治耕太ニ渡シタル米賣渡証書ハ無印ニシテ契約ノ効ナキ者ナリ
 無効ノ證書ヲ偽造行使シタルモ之ヲ刑法ニ問フ可キ者ニ非ス然ルニ會議局ハ證書偽造ノ罪
 アリト爲シ又豫審終結ノ言渡ニ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ノ輕キ懲役三十日ト
 記載セシハ豫審判事ニ於テ舊法ノ刑期ヲ撰定シタル者ニシテ公判々事ノ職權ヲ侵シタル處
 分ナルヲ越權ニ非スト爲シタルハ共ニ不當ノ判決ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事
 ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ如シ
 刑法第二百十條ニ掲載セシ證書偽造ノ罪ハ其偽造行使ノ所爲ヲ罰スルノ精神ニシテ荷モ證
 書ノ性質ヲ有スル者ハ其書面ニ瑕瑾アリテ民事裁判上無効ノ證書ナルモ已ニ之ヲ行使シタ
 ル以上ハ犯罪ノ成立タル者ナリトス被告人ノ如キハ他人ノ氏名ヲ記載セシ證書ヲ偽造シ丹
 治耕太ニ交付シ以テ米賣渡ノ契約ヲ爲シ金圓ヲ騙取シタル者ナレハ假令其印影ナキニ因リ
 真正ノ證書ト認ムルコトヲ得ストズルモ固ヨリ偽造行使ノ罪ヲ免カレ可ラサル者ニシテ之ヲ

刑法ニ問フ可キ者ニ非スト謂フコトヲ得ルナリ又豫審終結ノ言渡ニ偽造ノ罪舊法ニ在テハ
 不應爲ノ輕キ懲役三十日ニ該ルト爲シタルハ犯罪ニ對シ適用スヘキ法律ノ正條ヲ明示スル
 ニ因リ舊法ノ刑期ヲ掲載シタル者ニシテ之ヲ以テ刑期ヲ撰定シ公判々事ノ職權ヲ侵スト爲
 スコトヲ得サルナリ故ニ原裁判所會議局ノ判決ハ相當ニシテ上告ノ旨趣都テ相立サルモノト
 ス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ
 第五百卅二號

○判文(皇室ニ對スル不敬ノ件) 明治十六年五月一日上告
 明治十六年五月廿二日申渡

兵庫縣神戸區仲町通一丁目居住平

民儀兵衛長男

稻倉 儀三郎

明治十六年三月
十八歲

皇室ニ對スル犯罪事件ニ付明治十六年三月廿二日神戸輕罪裁判所ニ於テ右被告人カ所爲ヲ
 審判シ刑法第一百七條同第八十一條同第七十條ニ照依シ重禁錮三年罰金百圓ニ處シ仍ホ刑
 法第二十條ニ依リ監視六月ヲ附加シタル裁判言渡シニ對シ被告儀三郎ハ上告ヲ爲シタル
 其趣旨ハ四項ナリトス第二證人參考人等ニ於テハ被告人カ不敬ノ語ヲ發シタルトシ證言ヲ
 爲シタルコト無シ獨リ告訴人飯尾龍三郎カ片言ヲ信シ裁判シタルコト不服ナリ第二泉州地方へ
 赴キシハ犯罪告訴アルコトヲ知テ遁逃潜伏シタルコト非ス各教員等カ自分ハ猜忌スルカ爲

必ニ一時之夫避ケタルナリ第三破毀シタルモノハ全ク婦人ノ寫眞ナリト聞知シ讀書時間他
 妨礙ナラシムテ思慮シタル所爲ニ出テ毫モ惡意アルコト非ス第四本件ハ現行犯ニ非サレハ
 先ツ召喚狀ヲ發ス可キニ直ニ拘引狀ヲ發シタルハ反則ホリ以上ノ理由ハ治罪法第四百十條
 第九第十ニ定メタル場合アルヲ以テ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ對手人檢事補福鎌芳隆ハ被告
 人カ上告ノ主意タルヤ單ニ事實ニ就テ不服ヲ鳴ラスニ止リ毫モ治罪法第四百十條ノ規定ニ
 關セサル者ト考量スルニ因リ之カ答辨ヲ爲サスト開陳セリ其理由ハ第一乃至第三ノ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ上告第一乃至第三ノ
 理由ハ徒ニ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス其第四ノ理由ノ如キ之ヲ治罪法第百十
 五條及ヒ第百廿一條第二項ニ照スニ固ヨリ當然ノ處分ニシテ毫モ不法ト云フ可ラス如何ト
 ナレハ像審判事ニ於テ被告事件急速ヲ要シ又逃匿ノ恐アルノ信カラス現ニ逃走シタル者ナ
 レハ直ニ拘引狀ヲ發シタルハ其遲緩ニ可キ場合ニ非サレバ其故コト本件ハ上告ノ理由ナキ
 者ト思料スルニ因リ棄却ノ言渡アラント望ムト陳辨セリ仍テ判決スル左ノ如シ
 被告人ハ言フニ忍ビガレ不敬ノ罪ヲ犯シ而シテ其事實ヲ三項ニ分テ又ハ治罪ノ手續ニ違ヒ
 タル措置アル旨喋々辨説シ上告ヲ爲スト雖モ原裁判所ハ總テノ法式ニ遵ヒ充分ノ證據ニ據
 リ被告人ノ所爲ハ刑法第百廿七條ニ該ル罪ヲ犯シタル者ト確認シ處斷シタル者ナレハ上告
 ノ理由ニ相立者トス依テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也
 第六百卅三號 明治十五年四月廿九日 上告
 明治十六年五月廿二日 申渡

愛媛縣伊豫郡宮下村平民 田 富 田 豐 尚
 明治十五年三月 五十二年

證券印稅違犯事件ニ付明治十五年三月十四日松山輕罪裁判所ニ於テ明治七年第八十一號布
 告證券印稅規則第四則第十五條ニ依リ減稅高二錢ノ五倍即料金十錢ニ處テ言渡シタル
 裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ犯則ニ係ル證書ハ證券印稅規則第二則第
 二類ニ該リ米高二十六石余五錢ノ印紙ヲ貼用スヘキモノナルニ被告ハ三錢ノ印紙ヲ貼用セ
 シヲ以テ尙二錢ノ貼用不足アレハ同規則第四則改正第七條ニ依リ減稅高二錢ノ十倍ヲ科ス
 ヘキモノトス然ルニ原裁判所カ同規則第四則第十五條ニ照シ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニ係
 ル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ
 明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則增加第十五條ハ證書印紙貼用スヘキヲ界紙ニ
 認メ授受セシ者ニ關スル法律ニシテ本件ノ如キハ同規則第四則改正第七條ニ(諸證書帳簿
 ニ印紙不足ニ貼用セシモノハ其減稅高ノ十倍過料タルヘキ事)トアルニ依リ處斷スヘキ
 モントス然ルニ原裁判所出テスシテ界紙ニ認メタル場合ト同一ニ論定シ第十五條ヲ適
 用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ノ全部ヲ
 破毀シ本院ニ於テ更ニ左ノ裁判ヲ言渡スモノ也

被告カ米高二十六石余ノ預證書ニ證券印紙二錢ヲ不足ニ貼用セシ事實ハ原裁判官ノ認定ニ據リ明確ナリトス因テ明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則改正第七條ニ照シ減稅高三錢ノ十倍即チ科料金三十錢ニ處ス
第六百卅四號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月廿二日申渡

佐賀縣肥前國佐賀郡小々森村平民
職業不詳

田 中 虎 吉

明治十五年五月
十八年五月

佐賀縣肥前國佐賀郡西古賀村平民

副 島 三 辨

明治十五年五月
二十三年

佐賀縣肥前國佐賀郡愛敬島村平民

副 島 三 辨

明治十五年五月
十六年一月

民伊右衛門長男職業不詳

副 島 三 辨

明治十五年五月
十六年一月

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年五月四日佐賀輕罪裁判所カ刑法第三百一一條第三項ニ依

虎吉ヲ重禁錮二十五日辨三ヲ重禁錮二十日嘉市ヲ重禁錮十五日ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補黒川秀波ハ上告セリ其要領ハ第一虎吉佐助辨三ハ數日間疾病休業ニ爲シタルハ醫員ノ鑑定書ニ明記アレハ第三百一一條第二項ヲ適用スヘキモノナリトノ事第二虎吉嘉市ハ各二十歳未滿ナレハ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ論決茲ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手八田中虎吉副島辨三副島嘉市ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ之ヲ審按スルコ

原裁判言渡ニ(副島嘉市ハ辨三ノ教唆ニ因リ棒ヲ以テ手甲ヲ毆チ傷ヲ成シタル事實ハ警部補代理巡查田中萬五郎ノ調書ニ依リ判然タルモノト確認ス云々)トアリテ其疾病休業ニ至

リタルヤ否ヤノ事實理由ヲ示サス直チニ刑法第三百一一條第三項ヲ適用セシハ果シテ適當ノ擬律ナルヤヲ査定スルニ由シナク試ニ訴訟書類ヲ見ルニ醫員石井文貞朝日楊庵ハ鑑定書ニ

田中虎吉ハ二週間副島佐助同辨三ハ各五日間疾病休業ト明記アリテ之ニ反スル證據アルヲ

見ス然ラハ則チ刑法第三百一一條ヲ適施スヘキ事實ノ理由アルヘキモノナルニ之ニ論及セス

輒シ判定ヲ下セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス其他虎吉嘉市ハ原籍戸長ヨリ差出シタル戸籍

寫ヲ見ルニ各二十歳ニ滿タサルコト明了ナルニ刑法第八十一條ニ依リ宥恕輕減ヲ與ヘサルハ

是亦擬律錯誤ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左

ノ如シ

田 中 虎 吉

副島 辨 三
副島 嘉 市

原裁判言渡ヨ掲ケタル事實ノ理由及ヒ證據トニ據リ互ニ毆打創傷ノ罪ヲ犯シ各負傷者ニ
十日ニ至ラサル時間疾病休業セザルコト明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ
刑法第三百一十條ノ一項ニ其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處スルコトアルコト該ルルニ依リ
而シテ虎吉嘉市ハ犯時二十歳ニ滿タサルヲ以テ刑法第八十二條ニ照シ一等ヲ減シ
三十二日以上九月以下ノ重禁錮トナル
因テ田中虎吉副島辨三ヲ重禁錮ニ處シ副島嘉市ヲ重禁錮三十二日ニ處スル者也
蘇第六百卅五號
明治十五年十一月十四日上告
○判文(詐欺取財ノ件) 明治十六年五月廿二日申渡
大審院
岩手縣平民陸中國江刺郡人首村
鑄掛職

千田 勝右衛門 門
明治十五年五月
三十七歲八月
詐欺取財ノ被告事件ニ付明治十五年五月廿三日磐井輕罪裁判所ニ於テ右勝右衛門カ所爲ニ
對シ刑法第三百九十四條ニ依リ重禁錮一年罰金拾五圓ニ處シ仍ホ監視十月

ニ付スト言渡タル裁判ニ對シ被告勝右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ佐藤利平治ニ金百五
拾圓ヲ貸渡シ地所抵當トシ戸長公證ノ證書ヲ受取置キ加之負債主ニ於テ返済日延證書ヲモ
差入レタル確實ナル貸借トナルニ原裁判官ハ輒シ他ノ片言ヲ證據トシ金圓貸渡ス可キ約定
シニシテ現金ヲ渡サズ證書ヲ受領シ之ヲ以テ利平治ヲ被告トシ民事勸解ヲ乞ヒ金圓ヲ詐
取シタル罪アル者ト斷定シタリ其言渡書ニ所謂證人佐藤常吉等ニ於テハ利平治ニ金圓貸渡
タル節干與シタルニ非ス初テ返済ノ對談ニ立入タル迄ナレハ犯罪有無ノ證言ト爲スヘカラ
ズ假ニ原裁判ノ如ク詐取シタル者トスルモ被告人ニ於テ金三圓ハ現ニ貸渡シ左スレハ百五
拾圓ノ内金五拾圓ヲ受取タル者トスレハ利平治所ハ四拾七圓ナルヲ百四十七圓詐取シタル者
ト認定シタルハ不當モ亦太甚キノミナラス全ク貸渡シタル金員ニ相違ナクモテ毫モ詐取シ
タル者ニ非ズレハ原裁判破毀ヲ求ムコト云フニ在リ
對手人檢事補村岡虎之助ハ上告趣意書ノ送達ヲ受タルヨリ五日以外即チ明治十五年六月七
日付ヲ以テ答辨書ヲ差出シタルニ因リ治罪法第四百十八條ニ背反シタルヲ以テ治罪法第二
十條ニ依リ其權ヲ失ヒタル者トス
大審院檢事長渡邊驥ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ヲ處斷シタル上ハ其犯罪ノ用ニ
供シタル證書ハ被害者ヘ還付ス可キ者ナルヲ其言渡ヲ爲サレハ擬律錯誤ヲ裁判カリト云
フニ在リ立會檢事池上三郎ハ上告第一ノ旨趣ハ事實認定ノ如何ヲ論難スルニ止リ其理由ハ
シト雖モ第二ノ點ニ就キ裁判言渡書ヲ閱スルニ金五拾圓ヲ領収シタル者ニテ内金三圓ハ眞
ニ貸渡タル者ナルヲ以テ扣除シ殘金百四拾七圓ハ全ク被告カ詐取シタル者ト認定スルコト

リ之其始ニ於テ欺テ五拾圓ヲ領收シト云ヒ其終リニ於テ金百四拾七圓ヲ詐取シト云フハ即チ理由ニ於テ齟齬アル者ニシテ原裁判言渡ハ治罪法第四百十條第九ノ場合ニ相當ナル破毀ノ理由アル者ト信認ス其他附帶上告旨趣如キ等原裁判ハ頗ル瑕瑾アルヲ覺フト雖モ到底破毀シテ他ノ裁判所ニ移サル可キ者ナルヲ以テ更ニ陳辯セヌトテ意見ヲ述ベテ依テ判決ナルヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ欺テ金五拾圓ヲ領收シタル者ニテ内金三圓ハ眞ニ貸渡シタル者ナリヲ以テ之ヲ扣除シ殘金百四拾七圓ハ全ク被告カ詐取シタル者ト認定ストアルハ頗ル事實理由ノ齟齬シタル者トシテ上告旨趣及ヒ本院檢事意見ヲ允當ナリトシテ假ニ又同言渡書中眞ニ該金ヲ貸與シタル者トシテハ契約期限前ニ訴テ起スヘキ情理ナク又本金ノ半額ニ充タサル金員ヲ受取リ甘テ濟方夫爲スヘキ謂ナシト云々推測上ノ裁定法下ノ暗古畏懼ノ念ヲ生セシ欺テ金五拾圓ヲ領取シタリト云々明記シタルハ不完全ノ認定タルヲ免レ以テ加之附帶上告旨趣ノ如ク犯罪ヲ用テ供シタル證書ノ處分ヲ言渡ササルハ錯誤ノ裁判ナリトス到底原裁判ハ治罪法第四百十條ニ定メタル第九ノ場合ニ適當スル上告ノ理由アル者トシテハ之ヲ以テ右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百三十八條ニ從ヒ磐井輕罪裁判所ニ於テ千田勝右衛門言渡シタル裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ仙臺輕罪裁判所ニ移シ審判セシムル者也

第六百卅六號

○判文(人ヲ教唆シテ自殺セシメシ件) 明治十六年五月一日上告
 明治十六年五月廿三日申渡

山形縣羽前國北村山郡新大石田

村平民五十集渡世金治養子

早坂

友次郎

明治十五年六月十八年五月

右友次郎カ被告事件ニ付明治十五年六月十五日山形輕罪裁判所於テ被告ハ明治十五年五月二日娼妓トシテ教唆シテ自殺セシメ爲メ下手下シタルモ未發自首シ且十六歲以上二十歲未滿者ナルニ付刑法第三百二十條第八十一條第八十五條ニ照シ重禁錮二年六月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ犯罪ノ用ニ供シタル短刀ハ同法第四十三條ニ依リ官ニ沒收スル旨言渡シタル裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥カ非常上告ヲ爲シタル趣旨ハ原裁判ハ他ニ不當ノ廉アラザルモ刑法第三百廿條ノ刑名ハ輕禁錮トシテ重禁錮トシテ言渡シタルハ即チ相當ノ刑ヨリ重刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事カ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ原裁判所於テ被告ハ娼妓トシテ教唆シテ自殺セシメ爲メ下手下シタル者トシ刑法第三百二十條等ヲ適用シタルハ相當ナルモ該條ニ輕禁錮トアル刑名ヲ重禁錮トシテ言渡シタルハ即チ非常上告旨趣ノ如ク相當ノ刑ヨリ重刑ヲ言渡シタル者ナルニ付治罪法第四百三十五條ノ規則ニ法リ原裁判ノ重禁錮ヲ輕禁錮ニ更正スル者ナリ

第六百卅七號

○判文(酒造犯則ノ件) 明治十六年四月廿八日上告
 明治十六年五月廿三日申渡

愛媛縣伊豫國温泉郡松前町平民

酒造營業人 堀内 胖次郎
堀内 胖次郎
年齡不詳

明治十六年二月十六日松山輕罪裁判所ニ於テ右堀内胖次郎カ被告事件ヲ審判シ燒酎四石三升九合ヲ蒸溜シ檢査ヲ經テ之ヲ自用ニ消糜セシ罪アリト爲シ酒造稅則第三十三條ニ照シ罰金三十六圓三十五錢壹厘ニ處テ下言渡シタリ大審院檢事長渡邊曠(右ノ裁判官對シ非
常上告ヲ爲シ其趣意書ニ要旨ハ原裁判官材料ニ供シタル酒造檢査員ノ具申書及ヒ被告ノ手
續書ニ依ルニ被告ハ燒酎四石三升九合ヲ蒸溜セシモ自用ニ消糜シタル石數ハ二石六斗六
升四合ニシテ現在酒ニ石三斗七升五合アルハ明確ナラ然レニ原裁判所其蒸溜セシ惣石數
ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ヲ科シタルハ相當ノ刑限リ重キ刑ヲ言渡シタル者ナルニ因リ
破毀ヲ請求スル云云ニ在リ大審院ニ於テ專任判事久報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ
審按スルニモ關シテ原裁判官之見解ニ依リ罰金ニ減額スルハ不當ナルコトヲ認メ
被告事件ハ酒造稅則第三十三條ニ照シ其消糜セシ石數ノ三ニ算シテ相當ノ罰金ヲ科ス可キ
者ナルニ原裁判所カ其消糜セシ石數ヲ三合算シテ處斷シタルハ不當ナル裁判ナリト止告ノ
旨趣正當ナリト判定スルハ法律上之見解ニ依リ罰金ニ減額スルハ不當ナルコトヲ認メ
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十五條ノ成規ニ從ヒ原裁判官言渡シタル破毀ニ於テ直
チニ裁判言渡ヲ爲ス可ク左ノ如シ

被告事件ハ原裁判官言渡書ニ明示シタル證據書類ニ依リ燒酎四石三升九合ヲ蒸溜シ檢査ヲ
經テ之ヲ内二石六斗六升四合ヲ自用ニ消糜シタル事實明白ナリトス之ヲ法律ニ照スルニ酒
造稅則第三十三條ニ檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當
ナル金額ノ三倍ヲ科スヘシトアルニ依リ同稅則第三條第三條及ヒ明治十四年第七十三號
勅布告ニ照シ燒酎貳石六斗六升四合ノ造石稅ノ三倍二十三圓九十七錢六厘ヲ罰金ニ處スル
モノナリ

第六百卅八號
明治十六年四月四日 上告
明治十六年五月廿三日 申渡

○判文(兇徒聚衆ノ件) 高知縣土佐國土佐郡水通町士族 當時福島縣岩代國耶麻郡新谷村 赤城平六方寄留 田植田勇知
右植田勇知カ兇徒聚衆被告事件ハ豫審終結シ故障ニ對シ福島輕罪裁判所會議局ニ於テ明治
十六年二月十日判決シタル顛末ハ(被告ハ兇徒多衆彈正原ニ囑聚シ喜多方警察署ニ喧鬧シ
タル事件ニ干預セシコトナキヲ以テ其事實ヲ證明セシト其證人喚問ヲ請求シタルモ採用セズ
豫審判事ハ事實ヲ構造シ無罪ナル被告ヲシテ有罪トナシタルハ治罪法第四百十七條ニ背キ
タルモノナルヲ以テ該言渡ノ取消ヲ請求セシトシコトナレバ豫審判事カ事實ヲ構造シ被告ヲ

有罪トシタル證憑ノ端緒ヲモテ非ス而テ被告カ刑法第三百二十七條ニ該ビテ訴訟書類ニ據リ明瞭ナルコトヨリ豫審ノ言渡ハ不當ニアラズ又治罪法第四百十七條ハ豫審判事ニ於テ檢察官民事原告人被告人ノ請求ニ因リ云々證人喚問ニ適當シタル條ニ非ス仍テ被告ノ故障ハ相立テ豫審判事ノ言渡ヲ認可スト言渡シタリ被告勇知ハ此言渡ヲ不法ナリトシ明治十六年二月十二日上告セリ其第一條ノ略ニ曰ク被告カ明治十五年十一月廿八日ノ暴舉ニ干預セサリシヲ及其暴舉ノ偶然ニ發シタルコトハ第二號證(之)第三條ニ記載シタル瓜生直七及ヒ小汲佐吉等カ陳述ニ就テ明瞭ナルヲ會議局判事ハ被告カ提供シタル此確實ナル反證ヲ採取セズ被告カ刑法第三百二十七條ニ該ルコトハ訴訟書類ニ據リ明瞭ナリト判定セラレタルヲ以テ二月十一日ニ在テ被告ハ書記局ニ請テ被告ニ關スル書類ヲ抄寫シ反覆スルニ更ニ被告カ有罪ナルノ痕跡アルコトナシ會議局判事ハ被告カ有罪ナル證憑ノ端緒ヲモナキモノニ對シ有罪ナリトシ以テ豫審ノ言渡ヲ認可シ且ツ被告カ無罪ナル證憑即瓜生直七以下ノ陳述ヲ採取セズト云々會議局判事ハ被告ヲ有罪視スルノ適證ヲ明示セラレサルヲ以テ之ヲ駁撃スルニ由ナシト雖其之ヲ明示セラレサルハ以テ適證ナキヲ證スルニ足ルヘシ云々既ニ被告ハ十一月廿四日ニ在テ圍圍ノ身ヲ爲リ此舉ニ干預スルニ由ナキモノナレハ是亦被告カ更ニ該暴舉ニ干預セサリシノ一反證ニシテ且ツ該暴動ノ遠因アルニ非ス眞ニ偶然ニ出タル證スルニ足ルヘシ云々は治罪法第四百十條第九項ノ明文ニ由リ上告スト其第三條ノ略ニ曰ク抑法律上證據ナルヘキモノハニテ足ラズト雖證人ノ陳供ノ如キ其最適實ナルモノトス故ニ被告カ第三號證(之)第三條ニ於テ豫審判事ニ於テ證人喚問ヲ請求スルコトサレサルハ法律ニ背キ

被告ノ利益ヲ害シタリト痛論シタルニ會議局判事ニ於テハ豫審判事ハ毫モ法律ニ背キタルコトナシト爲シ且被告ヨリ示シタル適條即治罪法第四百十七條ハ證人喚問ニ該當シタルモノニ非ストシ第三號證(之)判決ヲ下サレタリ云々被告ハ會議局判事ニ向ヒ豫審判事カ第四百十七條ノ規定ニ反キタリト訴ヘシニ會議局判事ハ只同條ノ注釋ヲ爲シ云々會議局ノ判決ハ法律ニ反キタル豫審ノ言渡ヲ認可シ被告カ正當ノ請求ヲ容レサルヲ以テ治罪法第四百十條第四項第七項ノ明文ニ由リ上告スト其第三條ノ略ニ曰ク被告ハ第二號證(之)第三條ニ於テ被告カ教唆者ニ非ルコトヲ論シテ云ク凡教唆ノ罪タル原因一ニシテ足ラズト雖要スルニ皆命令ヲ下スヨリ生シ命令ヲ行フニ成ルモノ決テ間接ノ影響ヲ以テ論スヘキモノニ非ス被告ハ素ト詞訟代人ヲ以テ業トセシヲ以テ他ノ依頼ニヨリ之カ代書ヲナシ與ヘタルニ過キス若シ之ヲ間接ノ教唆者トナセハ云々且ツ此暴舉タル眞ニ偶然ニ出タルモノニシテ決テ被告カ干預セシモノニ非ス即チ其確適ノ反證タル瓜生直七外三名カ供陳及其前後ノ事跡ニ就テ明瞭ナリト又同證中(之)第四條ニ於テ被告カ證據ノ不充分ナルコトヲ論シテ曰ク豫審判事ハ共犯人ノ供陳ヲ以テ被告カ犯罪ヲ證セラルト雖被告カ共犯人視セラルハモノニシテ稍交通セシモノハ獨羽鳥語吾アルノミニシテ其他ノ者ハ曾テ相識ラサルモノ耳ナラス云々被告ヲ指目シテ教唆者ナリト供出スルノ理ナシト又豫審判事ハ現場ニ於テ押收シタル證據物件ヲ以テ被告カ犯罪ヲ證セラルト雖凡此般ノ證據物件ハ只其現場ノ形情ヲ考フルニ足ルモ該場ニ在ラサル被告ヲ教唆者視スルノ證トスルニ足ラサルヘシ又豫審判事ハ被告カ供述スル處其寄留籍ヲ赤城平六方ヘ移シタリト言フヲ以テ被告ヲ教唆者視セラルト雖是レ一ハ以

テ自己保護ヲ爲メ一ハ以テ詞訟事件ノ爲メ羽鳥譚吾カ紹介ニヨリ平六ハ譚吾ノ縁者タル以故テ以テ一時移轉セシメ過キサレハ之ヲ以テ被告カ犯罪ヲ證スルニ足ラサルハシト爲シ被告カ無罪ノ良民タルヲ判定セラレシ切望シタリトシ會議局判事被告カ刑法第三百三十七條ニ該ルコトハ訴訟書類ニ據リ明ナリトシ更ニ其事實ニ何ノ理由アルヲ示サレサルコトヲ云々是會議局ノ判決ヲ不法トシ治罪法第四百十條第七項九項ニ由リ止告ス其第四條第五條及其附錄又明治十六年三月三十日附ヲ以テ上告趣意辨明書ヲ差出シ原會議局言渡ノ不法ナル理由等ヲ詳細ニ申立タリ大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ原會議局判決ノ主點ハ左ノ三項ナリトス

- 一豫審判事カ事實ヲ構造シ被告ヲ有罪トナシタル證據ナキ事
- 一被告カ刑法第三百三十七條ニ相當スル兇徒聚衆ノ犯罪ハ訴訟書類ニ據リ明瞭ナリトス
- 一治罪法第四百十七條被告人ノ請求ニ因リ云々ハ證人喚問ヲ要スル適當ノ條ニ非サルト

上告ノ旨趣ニ因リ右判決ノ主點ヲ原書類ニ就テ鑑査スルニ其一被告ハ素ト詞訟ノ代人ヲ業ト爲セシヲ以テ他人ノ依頼ニ應ジ其代書ヲ爲シ與ヘタルニ過キス假令特別委員副長ノ任當リタルモ道路開鑿事業不服ノ詞訟事件ニ干涉セシノ一斑ニ止ルナリ村民多衆ヲ教唆シ喜多方警察署ヘ喧鬧シタルノ所爲ハ毛頭有ルニ非ルナリ然ルニ原豫審判事カ被告ヲ認テ(村民ヲ教唆シ該暴動ヲ爲サンメタル者)ト言渡シタルハ事實ヲ錯誤セシ言渡ナレ原會議局ハ事實ヲ覆審シ之カ取消ヲ爲スヘキハ勿論ナルニ事此ニ出スシテ被告ヲ有罪トシ豫審終結

ヲ相當ナリト認可セシハ不法ノ判決ナリトス其二被告カ明治十五年十二月二十八日村民等喜多方警察署ヘ喧鬧セシノ暴舉ニ干涉セシ廉ヲ訴訟書類ニ徵スルニ何等其跡ノ觀ルヘキナシ抑此暴舉ハ被告カ豫慮シタル原因ナキノミナラス村民等カ宇田成二等ノ勾留セラレシ理由ヲ警察署ヘ伺ハシカ爲メ偶然ニ發シタル臨時ノ暴舉ニ係ルハ原書類ニ徵シテ昭カナリ而テ被告ハ十一月二十四日既ニ囚獄ノ身ト爲リ其二十八日暴舉ノ現場ニ干與スル能ハサルモトトス然ルニ原豫審終結ノ言渡ニ被告ハ此暴舉ノ教唆者ト認定シタル迄ニシテ被告カ如何ナル手段方法ヲ以テ村民ヲ教唆セシヤ是等ノ事實及理由ヲ付セサリシハ治罪法第三百二十八條ノ成則ニ背キタル言渡ニ係ル而耳ナラス全體被告ヲ此教唆者ナリトセシハ抑事實ノ錯誤ナル不法ノ終結ナレハ原會議局ハ被告カ故障ノ申立ヲ受クシニ際シ充分ニ事實ヲ覆審シ相當ノ判決ヲ爲スヘキニ然ラスシテ單純ニ(被告カ)刑法第三百三十七條ニ該當スルコトハ訴訟書類ニ據リ明瞭ナリトシ原言渡ヲ認可セシハ不法ノ言渡ナリトス其三豫審口供中ニ被告カ證人呼出ヲ請求セシノ廉アリ即チ豫審判事ハ治罪法第四百十七條第七十條ニ據リ其指名シタル證人ハ勿論呼出スヘキモノナルニ豫審判事カ其請求ヲ採用セサリシハ何等ノ理由ナリシヤ右治罪ノ法文ニ反キタル處分ナレハ會議局ハ相當ノ手續ヲ爲シ指名シタル證人ヲ訊問シ豫審ノ不完全ナル點ヲ完全ナラシメサルヘカラス然ルニ同局カ治罪法第四百十七條ノ法文ニ對シ啻ニ(證人喚問ニ適當シタル)條ニ非ストシ被告ノ故障ハ不相立ト言渡シタルハ不法ノ言渡ナリトス

右ノ如ク原會議局ノ言渡ハ不法ニシテ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ相當スル破毀ノ原

由スル擬律錯誤ヲ判決ナリ不ズ因テ治罪法第四百二十九條ヲ法リ原言渡ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

植田勇知カ兇徒聚衆被告事件ハ犯罪ノ證據ナキニヨリ治罪法第三百二十四條ニ照シ其訴ヲ免シ且放免ス

第六百卅九號

○判文(毆打創傷ノ件)

明治十五年七月七日上告
明治十六年五月二十三日申渡

滋賀縣近江國甲賀郡上野村平民

滋賀縣近江國甲賀郡上野村平民

古瀬 清兵衛

明治十五年七月

右清兵衛カ被告事件ニ付明治十五年七月五日滋賀重罪裁判所於テ被告ハ明治十五年四月三日

日夜瀬古甚二郎カ毆打創傷ヲ因テ死ニ致シ然ルモ未發自首シタル者トシ刑法第三百九十九

條第八十五條ニ照シ仍ホ同法第八十九條第九十條第六十九條カ適用シ重禁錮五年ニ處シ犯

罪ノ用ニ供シタル木材ハ所有主ニ還付スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告清兵衛カ上告ヲ爲

シタル主要ハ被告ノ所爲タル正當防衛已ムヲ得サルニ出シ故ニ刑法第三百十四條ニ照シ

不論罪タルヘキ勿論假ニ正當防衛已ムヲ得サル場合ニ非ストスルモ被害者ヨリ暴行ヲ

受タルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ナル被害者ヲ殺傷シタル者ナレハ即チ同法第三百九條

カ適用スヘキニ原裁判ノ茲ニ出サルハ旁不當ナリト云フニ在リ原裁判所檢事首藤頼功於テ

ハ本件ノ事實タル原裁判ノ如クニシテ決シテ刑法第三百九條若クハ三百十四條カ適用スヘ

キ者ニ非サル旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル

左ノ如シ

被告於テ原裁判カ擬律ニ錯誤アリト論告スト雖モ刑法第三百十四條第三百九條ノ原則タル

ヲ何レモ其暴行ヲ受クル前不正ノ所爲ナキヲ要スル勿論正當防衛カ如キニ危急已ムヲ得

ル場合ニ非サルヨリ之ヲ適施ス可カラサルナリ今ヤ被告於テ他ノ毆打ヲ受ケタルモ元來

博識勝負ノ爭論ヨリ自ラ其毆打ヲ招キタル者ナレハ本件カ右兩條何レノ場合ニモ該當セズ

即チ原裁判相當ニシテ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトシテ因テ治罪法第四百二十七條ニ法リ該

上告之ヲ棄却スル者ナリ

第六百四十號

○判文(詐欺取財ノ件)

明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月廿四日申渡

山形縣羽前國東田川郡馬渡村平

民求吉父

菅原 文次郎

明治十五年七月

新瀧縣越後國蒲原郡石喜村寄留

同郡新發田鍛冶町平民

四六九

右文次郎市郎ハ偽造證書行使及詐欺取財被告事件ニ付明治十五年七月十五日酒田輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百十條第三百九十條及第百條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ同第二百十條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要旨ハ本案ノ地所ハ其所有主阿達傳之助ノ承諾上ヨリ成立ナタル真正ノ證書ニ據テ買取タルモノニシテ決シテ詐欺ノ所爲ニアラス而シテ其事ヲ共ニセシ伊田藤右衛門カ爲シタル自首ハ不實ノ申立ニ係レリ然ルニ此ノ實際ニ反シテ證書偽造行使及詐欺取財ノ所爲アルモノト斷定シタルハ不當ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ見ルニ法ノ如ク其ノ證據ヲ舉示シ犯罪ノ事實ヲ判定アリテ毫モ瑕瑾アル判官カ之レヲ採用セシメ付キ更ニ非難スヘキ點ナシ之レヲ要スルニ該事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フル上告ノ旨趣ハ總テ相立テ依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ棄却スルモノナリ

第六百四十一號 明治十五年十二月四日上告
 〇判文(新聞條例違反ノ件) 明治十五年五月二十四日申渡

東京府橋區銀座四丁目九番地寄附
 留高知縣津族東洋新聞編輯長
 光吉

新聞條例違反被告事件ニ付明治十五年七月三十一日東京輕罪裁判所ニ於テ新聞條例第十六條明治十四年第七十三號公布第五條刑法第五條第八十二條第八十九條第九十條第七十條ニ依リ罰金三十圓宛合テ六十圓ニ處ス上言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要旨ハ府會議事ノ如キハ其傍聽ヲ許サル、モノニシテ之ヲ錄取スルモ固ヨリ妨ケアルヲ無シ而該建議案タル上書建白ト同視スヘカラス何ントナレハ凡上書建白ナルモノハ官衙ニ出テ而後之カ名稱ヲ附スルモノニシテ未ダ議案ノ性質ヲ以一府會議ノ手ニアル中テハ決テ上書建白ノ名稱ヲ負フヘキモノニ非ス然ハ右會議ノ未ダ官衙ニ出テサル限リハ之カ許可ヲ經テキ官衙ナシ故ニ之ヲ掲載スルモ私權ノ範圍ニアツテ聊カモ條例ニ抵觸セサルモノト信スルト云フニ在リ對手人檢察官太竹長壽ハ右上告ヲ逐一辨駁シ而而上告人ハ未ダ官衙ニ呈セサルモノナレハ許可ヲ經ヘキノ道ナシト言フモ既ニ其上書建白ヲ受クヘキ官衙ニ對シ之カ許可ヲ經ヘキハ當然ナリト答辨ス

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣旨ヲ按スルニ凡上書建白ナルモノハ其官衙ニ出テ而後之カ名稱ヲ付送ルモノニシテ未ダ一府會議ノ手中ニ在リテ建議ノ按文タルニ過キサル内ハ之ヲシテ上書建白ノ名ヲ付スヘカラス勿論未ダ其許可ヲ經ヘキ官衙モ亦アラサル之ヲ新聞紙ニ掲載スルモ其條例ニ抵觸スヘキモノニ非スト云フニ在リ而原判文ヲ閱ズルニ明治十五年六月十四日同廿八日東洋新報ニ東京府會議長ヨリ内務卿ニ宛ル郡區長公撰ヲ希望スルヲ建議云々現今在リ

無之ニ付其代價トシテ金壹錢ナニ相渡シ同人貼用スヘキ等アリシニ其調ヘヨ及ハサリ
 シニ不服ナリトシテ第二ニ原裁判所ニ於テ豫審ノ調ヘ無ク公判ニ成リタルハ不服ナリトシ
 第三ニ豫審終結無ク又調書ヲモ作ラズ裁判サレタルハ不服ナリトシ
 對手人檢事黒部陳平ハ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ハ毫モ不當ニ非スト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 明治七年第八十一號公布證券印稅規則第二則第二條ニ證書ハ總テ證書渡主ニテ印紙貼用ノ
 上必實印ヲ以其印紙ノ全面滅却セサル様第一圖ノ通調印致スヘシト有之又治罪法第七條
 第二ニ輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ輕罪裁判所
 ニ其訴ヲ爲スヘシトアリ而公判始末書ヲ見ルニ被告カ陳述ノ始末及ヒ刑ノ適用ニ付キテノ
 意見等明瞭ナレハ別ニ調ヘ書ヲ作ラサルヲ以治罪ノ法則ニ反スルモノト爲サス夫レ右ニ列
 陳モル如クナルニヨリ被告カ第一乃至第三條ニ舉示シテ上告ノ理由ト爲セル趣旨ハ總テ相
 立サレモントス

第六百四十四號

右ノ如クナルヲ以治罪法第四百三十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

○判決(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年三月二十八日上告
 明治十六年五月二十四日申渡 福島縣岩代國耶麻郡熊倉村平民
 渡 英 治
 明治十六年二月
 二十六歲六ヶ月

右渡邊英治カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月十三日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於
 テ裁判シタル顛末ハ被告ニ於テハ明治十五年十一月廿八日村民等多衆喜多方町ニ參集シテ
 ルヤノ趣ニ付云々村民等ヲ煽動シ喜多方警察署ヘ喧鬧シタルコト無之旨供述スト雖其當時ノ
 舉動ト共犯人ノ陳述其他證據物件等ニ據リ被告ハ明治十五年十一月廿八日赤城平六瓜生直
 七等カ村民多衆ヲ煽聚シ宇田成一等ノ勾留セラレタル事由ヲ尋ル等ヲ以テ口實トシ喜多方
 警察署ヘ喧鬧スルニ際シ其煽聚ニ應シ村民多衆ヲ煽動シテ其勢ヲ助ケタルモノト確認シ刑
 法第三百二十七條及第六十九條ニ據リ重禁錮四年六月ニ處斷スト言渡シテ被告英治ハ此裁
 判ヲ不法ナリトシ明治十六年二月十六日上告セリ其趣意ヲ第一條乃至第七條ニ分記セリ而
 テ第一條乃至第五條ハ事實ノ陳述第六條ハ豫審終結ノ不法ヲ陳述セシニ止ル(故ニ茲ニ之
 ヲ略ス)其第七條ノ概略ニ曰ク原判文ニ其當時ノ舉動ト共犯人ノ陳述其他證據物件等ニ據
 リ云々トアレヒ當時ノ舉動トハ何ソヤ蓋シ故ナク推測ヲ以テ有罪者トセラレタルナリ共犯
 人トハ何人ノ陳述ナルヤ又如何ナルコトヲ言ヒシヤ豫審及ヒ公判ニ於テ明示セラレタルコト
 キヲ以テ其事由ヲ知ヘカラス是即チ無効ノ調ニ非ルヲ得シヤ其他證據物件等トハ前第二條
 (略)ニ掲ケシ通り云々救護方法規約草稿ノ寫ヲ請求セシノ書面ヲレヒ敢テ兇徒聚衆ノ證據
 トナスヘキモノニ非ス抑之ヲ以テ證據トセラレタルハ如何ナル法律ニ據ラレタルヤ公判廷
 ニ於テモ證據物件等ヲ示サレタルコトナシ是亦法律ニ背キタリト謂ハサルヲ得ス又明治十
 五年十一月二十八日赤城平六瓜生直七等カ村民多衆ヲ煽聚シ宇田成一等ノ勾留セラレタル
 事由ヲ尋ル等ヲ口實トシ云々確認ストアレヒ平六宅ニ出沒シタルコトハ平六ノ求メニ應シタ

ルモノニ非ス自村ノ頑民等カ錯誤アテシコテ慮リ自ラ其訴訟ノ事由ヲ尋ント欲シタルモノ
 ナリ云々十一月廿八日午後七時被告ハ夕飯ヲ喫セントスルノ際高橋剛ナルモノ來ル其話シ
 ニヨリ云々村民等ノ錯誤ニ陷ランコト愛ヒ保護心ヨリ直チニ同道シ途中即チ隣村ナル豊芦
 村ノ内中里(自村ヨリ喜多方町迄一里)迄參リタルニ村民等數十人歸リ來レリ中ニ瓜生直七
 大竹勇吾ニ面會シ喜多方町ノ模様ヲ聞クニ人民等喜多方ヲ不殘引拂タルノ確報ヲ得テ兩人
 ト共ニ歸宅シタルコト云々被告ハ不當ノ裁判ナリトスル所以ナリ前數條(略)ニ掲ケシ如ク
 原裁判ハ左ノ法律ニモ背キタルナリ即チ治罪法第三百四條第三百五十二條ノ法文ニ法ラス
 又ハ法律及事實理由ノ齟齬アルヲ以テ治罪法第四百十條第九項ニ適當スルモノ又被告ハ到
 底無罪放免ノ申渡ヲ受クルハ至當ナレハ獨リ事實ト齟齬スルノミナラス實ニ擬律ノ錯誤モ
 亦太甚キ者ト思考スト云フニ在リ又退申書ヲ以テ治罪法第四百四十六條第二百八十三條等ヲ
 援引シ更ニ原裁判ノ不法ナル理由ヲ申明セリ對手人原檢事補加藤秀男ハ原裁判ヲ相當ナリ
 ト維持シ總テ上告ノ不當ナルヲ論辨セリ大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告書ニ據
 リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ茲ニ審判スル理由ハ
 原判文ノ所謂當時ノ舉動トハ如何ナル舉動ナルヤ共犯人ノ陳述トハ何人ニシテ何等ノ陳述
 ナルヤ證據物件トハ何等ノモノナルヤ治罪法第三百四條ノ成則ニ背キ一ニ其理由ヲ擧ケサ
 レハ之ヲ知ルニ由ナキナレハ抑其當時ノ舉動ト云フ原書類ニ徵スルニ被告カ兼テ赤城平六
 宅ニ往來セシハ出訴事件ノ相談ニ止ルナリ兎徒聚衆ヲ豫備ニ關係セシトシ廉ナシ共犯人ノ
 陳述トハ何等ノ陳述ナルヤ證據物件トハ何等ノモノナルヤ是亦原書類ニ徵スルニ到底知了

シ得サルナリ又(被告ハ明治十五年十一月二十八日赤城平六外一人カ村民多衆ヲ嘯聚シト)
 アレハ(喜多方警察署へ喧鬧スルニ際シ其嘯聚ニ應シ村民多衆ヲ煽動シテ其勢ヲ助ケタリ)
 トアレハ何レモ原書類ニ視ルニ平六等カ村民多衆ヲ嘯聚シ被告カ其嘯聚ニ應シ村民ヲ煽動
 シ勢ヲ助ケタリシヲ被告カ喜多方警察署へ喧鬧セシト等ノ證據アルナシ到底原裁判所カ被
 告ヲ有罪ト爲シ刑法第三百二十七條ニ擬律セシハ擬律ノ錯誤ニ係リシモノ即チ治罪法第四百
 十條第十項ノ場合ニ相當スル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アリトス因テ治罪法第四百二十
 九條ニ法リ原裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

渡邊英治カ被告事件ハ犯罪ノ證據ナキニ因リ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪直ニ放免ス
 第六百四十五號

○判文(私書變造ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
 明治十六年五月廿四日申渡

栃木縣下野國下都賀郡平柳村平
 民穀物商

須藤

清四郎
 明治十五年八月
 四十年

私書變造被告事件ニ付明治十五年八月三日栃木輕罪裁判所カ刑法第三百九十條同第三百九
 十七條同第二百十條同第百條ニ照依シ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加スト言渡タル裁判
 ニ服セス上告セリ其要領ハ鉛木「コウ」連署ヲ以テ裁判所へ差出シタル金二十五圓入金ノ日

延願ハ自分筆記シ「ユウ」承諾シ調印シタルモノニテ其受取証ヲ取置カサルハ疎漏ナリト云
 ンモ詐欺ノ所爲ニアラスト云ヒ又追伸書ヲ以テ假リニ被告入カ罪アルモノトシ刑法第三百
 九十條ニ擬セラレ、モ第三百十條ニ擬セラレタルハ擬律錯誤ナリト云フニアリ
 對手人檢事補牛込喜一ハ治罪法第四百十條ニ依ラサル上告ナレハ無効トモソト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣旨ハ事實判定ニ對ス
 ルモノナレハ到底其理由相立、サルモノナレモ原裁判ハ証書變造ノ罪ヲ重トシ處斷セシモ
 ノナレハ之ニ監視ヲ付スヘキトノ正條アル在ルコ之レカ正條ヲ明示セサルノミナラス之ヲ
 附加セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト認メ附帶上告スト陳述セリ因テ之ヲ審按スルニ
 上告ノ理由トスル處事實判官ノ各証憑ニ照シ心証ヲ資リ認定セシ事實ニ對スル論難ニテ破
 毀ヲ求ムルノ原因ト爲スチ得ス何ソトナレハ事實認定ハ事實判官ノ特任スル權内ニテ他ヨ
 リ之ヲ動カシ得ヘキモノニアラスルノミナラス治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル定
 規ニ適當セサルモノナレハナリ
 附帶上告ノ理由ニ付原裁判言渡ヲ見ルニ刑法第三百十條ニ依リ主刑重禁錮四月ニ處シ罰金
 四圓ヲ附加シタルモ刑法第二百十二條ノ監視ヲ付シタルコトナシ其第二百十二條ニ此節ニ記
 載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付ストアルコト依リ主刑
 輕罪ノ刑ニ處スル時ハ本條ヲ適用スヘキニ論決茲ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定
 ス
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却シ附帶上告理由ニ付治罪法第

四百三十二條ニ依リ監視ノ一部分ニ對シ直チニ裁判スル左ノ如シ

須藤清四郎

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ刑法第三百十二條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處
 スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依リ須藤清四郎ヲ監視十月ニ付スル者
 也

第六百四十六號

○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年四月二日上告
 明治十六年五月廿四日申渡

福島縣岩代國耶麻郡宮川村平民

農業

原平藏

右平藏カ明治十六年三月二日付ヲ以テ差出シタル嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ被告
 於テ覆ニ福島縣輕罪裁判所若松支廳豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ申立同廳會議局ノ判決ニ對
 シ明治十六年二月十七日上告ヲ爲シ既ニ本院ニ於テ審理シ遂ニ無罪ニ歸シタリ左スレハ此
 管轄ヲ移スカ如キハ到底無要ト屬スルモノトシ因テ審理ノ限ヨリテ
 右ノ如クナルヲ以テ原平藏カ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ之ヲ棄却スルモノ也
 第六百四十七號

○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年三月廿六日上告
 明治十六年五月廿四日申渡

裁判言渡書

明治十六年二月
四十二年四月

右坂内代五郎ニ對シ明治十六年二月二十三日福島縣輕罪裁判所若松支廳ニ於テ福島重罪裁判所ヲ開キ公判ノ言渡ヲナシタル要點左ノ如シ

一 被告ハ若松地方車道開鑿施行上ニ付縣官郡吏ノ措置ヲ不當ナリトシ該施行ヲ妨礙セシメ爲シ二三ノ暴徒耶麻郡中ニ現出シ頻リニ村民ヲ煽動スルニ際シ共ニ之ヲ煽動シ密々居村又ハ尾野本村ニ會合シ陽ニハ公裁ヲ仰クヲ名トシ云々寧ロ腕力ニ訴ヘ竹鎗席旗ヲ以テ之ヲ防遏セント無智ノ衆民ヲ鼓動シ其激發ニ乘シ官廳ニ喧鬧シ官吏ヲシテ其爲ス所ナカラシメンコトヲ謀リタリトノ事

一 毎村ニ合圖ノ太鼓又ハ番木等ヲ備ヘ本部即チ新合村ノ發令ヲ待チ合圖ト共ニ集合スヘキノ約ヲ結ビ置キ其後明治十五年十一月二十八日彈正原ニ集合シタル村民二千餘人夜ニ乘シ喜多方警察署ニ亂入シ瓦礫ヲ投ケ牆壁ヲ毀壞シ市民ヲシテ一時騷擾ニ至ラシメタルモノハ被告等カ所爲ナリトノ事
一 被告ハ身現場ニアラサルノミナラズ其騷擾以前縛ニ就キタルモ明治十五年二月二十八日暴舉ノ原因ハ其當日ニアラスシテ被告等ノ企圖ニ出テタルモノナルヤ明瞭ナリトノ事

一 其証憑ハ共犯人等ノ供述其他本部即チ赤城平六宅ニ於テ押収シタル刀鎗及ヒ太鼓等ニ據リ充分ナリトノ事

一 之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百二十七條兇徒多衆ヲ聚集シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ストアルニ該ルモノトシ仍ホ刑法第八十九條第九十條ニ依リ本刑重懲役ニ等ヲ減シ七年ノ輕懲役ニ處スル旨ヲ言渡シタル事

被告人上告ノ要點左ノ如シ
一 若松地方車道開鑿施行上不服事件ニ付山口千代作等カ發議ニヨリ共ニ出訴セントシタル際河沼郡書記兩名ヨリ其不可ナル旨ノ説諭ヲ受ケ之ニ服從シ已ニ就役ノ受書ヲ呈出シタルヨリ仁科柴山兩郡書記ノ始末書ニテ明瞭ナルニ車道開鑿ヲ妨礙セント謀リ人民ヲ鼓動セシメ腕力ニ訴ヘントセシモノトノ推測ノ公判ハ服スル能ハサルトノ事
一 其証憑ハ共犯人等ノ供述其他云々トノナレモ其共犯人トシテ如何ナル人ナリヤ又如何ナル言ヲ爲セシヤ被告ハ關知セサル處ナリ云々又合圖ノ太鼓番木等ヲ備ヘ云々トアレバ舊會津地方ノ慣習ニシテ舊ニ村毎ニ在ラサルナク里正御用ニ際シ村民ヲ呼フノ便ニ供セシモノ云々太鼓ハ必スアルナキモ其村ノ多少祭禮ニ用ヒ來レルモノ合圖ノ用ニ設ケシ者ニ非ルノミナラス現ニ村民ヲ集合セシコトナク又元素是等ノ陰謀モナキトノ事
一 法ニ因リ証人喚問ヲ請求セシモ裁判長ノ職權ニ依リ採容セサリシトノ事
一 被告ハ明治十五年十一月二十六日ヨリ警察官ニ引致セラレ暴舉ノ當日即チ同月二十八

日公勾留中ノ身分ニシテ右暴學ニ關與セザルハ勿論又赤城平六宅ニ度モ參集セザル
 以上ノ事實ナルニ刑法第百卅七條ヲ適用シ處斷セラレシニ擬律錯誤ノ裁判ナリトノ事
 大審院ニ於テ明治十六年五月廿三日公廷ヲ開ク專任判事報告書ヲ朗讀ス上告代官人伊藤修
 上告ノ旨意ヲ申暢ス立會檢事意見ヲ陳述シ且附帶ノ上告ヲ爲セ以茲ニ裁判スルノ理由ハ
 凡ソ證據ヲ採擇シテ罪ノ有無ヲ判定スルハ事實裁判官ノ權内ナリト雖モ若シ錯誤ヨリ成立
 タル事實ニシテ其理由ノ明確ナラサルニ於テハ法律ノ許サハル處ホリ抑本件ノ如キ被告カ
 車道開鑿施行上ニ付縣官郡吏ノ措置ヲ不當ナリトシ公裁ヲ仰ク名上シ果シテ耶麻其他諸
 郡ノ村民ヲ煽動シ明治十五年十一月廿八日喜多方警察署ニ對シ喧鬧スルニ至ラシメモ
 ト爲スニ其之ヲ煽動シタル事實ノ理由ヲ明示セザルヘカラス其每村ニ及リシ太鼓番木及
 ヒ赤城平六宅ニテ押收セシ刀鎗及ヒ太鼓等ヲ以テ多衆ヲ嘯聚セシ證據ヲ爲スヨハ明治十五
 年十一月廿六日ニテ既ニ逮捕セラレタル被告カ其逮捕中即チ十一月廿八日ニ於テ如何
 ナル手段方法ヲ以テ其太鼓番木及ヒ刀鎗等ヲ使用セシカ抑他人ヲシテ之ヲ使用セシメ以テ
 村民ヲ集合喧鬧セシメタルノ實跡ヲ舉ケサルヲ得ズ右等事實ノ理由ヲ明瞭スルニテ
 レハ右物件ハ被告カ所爲ニ相關スルノ證據ト爲スニ由ナシ又原判文ニ共犯人等ノ供述トア
 ルモ何人カ何等ノ陳供ナルヤ原二件書類ニ視ルニ被告カ車道開鑿施行上ニ付縣官郡吏ノ措
 置ニ服セテ現ニ其筋ノ裁判ヲ仰クベシトノ周旋ヲ爲セシ廉アルモ他ニ被告カ犯罪ノ證據ト
 ナルモノモ見ルヘキナシ又原判文法律ノ部内ニ於テ魁首及教唆者ハ重懲役ニ處スルア

將ニ該ルモノトスルニ據ケタル迄ニシテ被告ノ果テ首魁ナリシヤ教唆者ナリシヤ是亦其理
 由ヲ知ルヘキナシ要スルニ原裁判ハ本案ニ付事實ノ理由及法律ノ理由ヲ付セサル而已ナラ
 ズ被告ヲ有罪トシ輕シ刑法第百三十七條第八十九條第九十條ニ照シ輕懲役七年ニ處スト言
 渡シタルハ事實ノ阻礙即擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ノ場
 合ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ニ因リ原
 裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スル左ノ如ク
 前理由ノ如ク坂内代五郎ニ犯罪ノ証憑ナキニヨリ治罪法第四百二條ニ照シ無罪直ニ放免ス
 第六百四十八號
 ○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年四月二日 止告
 明治十六年五月二十四日 申渡
 福島縣岩代國河沼郡勝常村平民

兼子 恒五郎

明治十六年二月二十四日

凶徒聚衆被告事件ニ付明治十六年三月十日福島縣裁判所若松支廳會議局ニ於テ被告兼子
 恒五郎カ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ノ申立ヲ判決セリ曰ク被告恒五郎ハ愚民ヲ教唆セサ
 ルトノ反證アルニテ本案訴訟書類ヲ閱スルニ被告カ當時ノ舉動ト豫審廷ニ於テ爲シタ
 ル調書其他證據物件等ニ據リ犯罪ノ證據充分ナル者トス因テ豫審掛リニ於テ福島重罪裁判
 所ニ移スノ言渡ヲナシタルハ相當ナルヲ以テ其言渡ヲ認可ス上申渡シタル被告恒五郎ニ於

テ此判決ヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ明治十五年十一月二十八日喜多方警察署へ喧鬧
シタルハ杉山重義等九宇田成一等ノ拘引セラレタル理由ヲ聞フト發言シタルハ起因セシ者
ニシテ車道開鑿訴訟事件ト混同スヘキ儀ニアラス被告ハ訴訟副委員トナリ其事ニ與リタル
モ喜多方警察署へ喧鬧シタルコトニ關係セシコトナシ然ルニ原會議局ハ共犯人ノ陳述等ニ據リ
推測テ下タサレタルニ共犯人ノ陳述トハ何人カ何等ノ陳述ナルヤ又證據物件トハ何等ノ證
據物件ナルヤ示サレタルコトモナシ到底事實ニ齟齬スル推測ノ判決ナレハ治罪法第四百十條
ニ由リ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

原裁判所檢事補水本兼孝ハ大審院ノ職務ハ法律ノ統一ヲ掌ルニ止リ事實ヲ覆審スル所ニア
ラス且原裁判ハ法律ニ抵觸シタル廉無キ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢査ノ意見ヲ聽キ判決スルノ理由ハ豫審結終言渡
書ニ(明治十五年十一月二十八日喜多方警察署へ喧鬧シタルハ偶然ニ發シタルハ非ス車道
開鑿施行上不服出訴事件ニ起因シタルモノニシテ其訴訟ヲ提起セシ行爲タル官署ニ喧鬧セ
ンコト豫定シ本部ヲ新合村赤城平六方ニ置キ區畫ヲ定メ總理部理出訴委員特派委員等ノ役
員ヲ設ケ各村ニ合圖ノ約ヲナシ氣脈ヲ通シ愚民ヲ教唆シテ此結果ヲ現出シタルモノナリ而
シテ被告ハ夙ニ出訴委員及ヒ特派委員ニ撰舉セラレ平六等ト畫策シ愚民ヲ教唆シ以テ此暴
舉ニ至ラシメタル者ト認定ス其證據ハ共犯人ノ供述及ヒ現場並ニ本部則チ平六宅又ハ被告
宅ニテ押收シタル證據物件ニ據リ明白ナリトアリ

抑被告兼子恒五郎ニ於テハ車道開鑿事件ノ副委員ニ撰舉セラレ現ニ若松治安裁判所へ出訴
シタル等ノ事實ニ就テ觀レハ道路開鑿事件ニ關スル不服ノ廉ヲ法廷ニ訴ヘ公判ヲ求ムル趣
旨ナルコト明カニシテ其行爲ヲ目シテ官署へ喧鬧セシコト豫定セシトノ原因ト云チ得ス加ル
ニ被告ハ喜多方警察署暴舉以前即チ明治十五年十一月二十六日既ニ警察署へ拘引セラレタ
ル身分ナレハ右暴舉ノ事件ニ關與セザリシハ勿論ナリトス又一件書類ヲ閱ズルニ本部ヲ赤
城平六方ニ置キ總理以下ノ役員ヲ設ケタル等ノコトハ專ラ出訴ニ關スル者ニシテ喜多方警察
署ハ暴舉ヲナスノ豫備ナリトシ證據ノ看ルヘキモノナシ且共犯人ノ供述トハ如何ナル陳述
ナリヤ現場並ニ本部被告宅等ニテ押收シタル證據物件トハ如何ナル證據物件ニシテ被告事
件ノ證據トスヘキニ足ルヤ否ヤ一件書類中見ルヘキノ廉ナシ此ノ如キノ事實ナレハ原會議
局ノ判決ハ犯罪ノ確證觀ル可キモノナキ被告ニ對シ刑ヲ適用ス可キ原豫審掛ノ判決ヲ認可
シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ言渡シナリトス即チ原言渡ハ治罪法第四百十條第十項ニ
相當スル破毀ノ原由アルモノニ付治罪法第四百二十八條第四百二十九條ニ據リ原言渡シテ
破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

兼子恒五郎

前文ノ理由ナルニ據リ治罪法第二百二十四條ニ照シ其訴ヲ免シ且放免ス
第六百四十九號

○判文(証券印稅犯則ノ件)明治十五年十二月一日上告
明治十六年五月廿四日申渡

福岡縣筑後國御井郡東久留米村
士族

明治十五年七月

五十四年

明治十五年七月八日福岡輕罪裁判所ニ於テ右笹林定助カ被告事件ヲ審判シ証券印紙貼用ナ
キ金三十圓ノ借用証書ヲ受取リタル者ト爲シ証券印紙規則第四則第二條ニ依リ脱税高二錢
ノ十倍科料金二十錢ニ處スル旨ヲ言渡シテ同裁判所檢事補大崎利三郎ハ其裁判ヲ不當ナ
リトシ上告ヲ爲シタルニ付大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之
ヲ判決スルコト左ノ如シニ爲ル

上告ノ旨趣ハ被告ハ証券印紙貼用ナキ証券ヲ受取リタルモ後手自ラ相當ノ印紙ヲ貼用シ
タルモノナレハ証券印紙規則第四則第三條ニ觸ル者ニアラスト云フニ在ルモ証券印紙貼
用ナキ証券ヲ受取リ後手自ラ相當ノ印紙ヲ貼用スルモ民事上ノ効力有スルト雖モ証券
印紙規則第四則第三條ノ處罰ハ免ルコトヲ得サルモノトス故ニ原裁判所カ証券印紙規則第
四則第三條ニ依リ處斷シタルハ正當ナル裁判ニシテ上告ノ旨趣ハ相立タルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモカガリ
刑第六百五十號
○判文(地所賣渡ノ儀ニ付會議局言渡ニ對スル上告)明治十五年十二月十二日上告
明治十六年五月廿四日申渡
熊本縣肥後國宇土郡馬ノ瀬村
平民船宿 源次郎

明治十五年六月
四十五年

右源次郎カ被告事件ニ係ル豫審故障ニ付明治十五年六月十六日熊本縣輕罪裁判所會議局於テ
故障申立ノ理由ナキ者トシ豫審掛於テ被告ハ刑法第三百八十八條ニ該ル所爲アルモノトシ
熊本縣輕罪裁判所ニ移ストノ言渡ヲ認可シタル判決ニ對シ被告源次郎上告ヲ爲シタル主要ハ
本件ノ地所ハ明治十二年中被告弟重次郎分家ナズノ際父ヨリ重次郎ニ分與セシモノナレハ
社六年間依然トシテ別居シ又被告於テ其後該地所ハ如何相成シヤ且重元繁外三名ハ如何シ
テ債主トナリシヤノ始末ヲ詳知セサルナリ然ルニ豫審掛於テ右三名等ヲ取調ヘス事實ノ
審理ヲ盡サズシテ輒シ有罪ノ推測ヲ下サレシハ甚不法ナルニ付原會議局ハ故障及ヒタル處
會議局於テ右言渡ヲ相當ナリト判決シ故障申立ヲ棄却セラレタルハ何レモ不當ナルヲ以テ
之カ破毀ヲ請求スト云フニ在リ原裁判所檢事補中島孝叔ハ原會議局ノ判決相當ニシテ上告
ノ理由大キ旨答辨セリ本院檢事加納久宜於テハ本案ニ就テノ意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シ
タリ其要旨ハ本案豫審終結言渡ハ事實理由ヲ缺キタル不法ノモノナルニ原會議局於テ之ヲ
認可シタルハ俱ニ越權ノ處分ナルヲ以テ該判決ハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
因テ之ヲ審案スルニ被告カ上告ノ旨趣ハ徒ニ事實判定ヲ當否ヲ論難スルニ過サレハ之ヲ以
テ上告ノ理由ト爲シ得ヘカラサルハ勿論ナリト雖モ原豫審終結言渡ヲ檢閱スルニ(戶長役
場ノ保証書ニ據ルニ該地所ヲ重元繁外三名ニ書入又ハ永代賣渡シタルハ已ニ身代限ノ裁判
ヲ受ケタル後ニ係ルヲ以テ即チ虛偽ノ負債ヲ增加シ債主ノ損害ヲ如フルノ所爲ナリト認定
ス)トノミアリテ其重元繁等三名ニ書入又ハ賣渡ヲ爲シタル年月日及ヒ虛偽ノ負債ヲ爲シ

タル事實理由ヲ明示セズ是等ノ理由ヲ確明スルニ各債主タル者ヲ審糾シ果テ其手續等ニ
虚偽ノ所爲ニ涉ルノ廉アルヤ否ヤヲ詳ニセサルヲ得ズ又假ニ之ヲ虚偽ニ出タル者トスルモ
戸長役場ノ保証書ニ依レハ重本角太ハ賣渡シタルハ明治十五年一月ニアルモ繁外一名ハ書
入セシハ明治十四年中コアレハ其十四年ニ係ル者ハ新舊法ヲ比照セサル可カラサルニ其舊
法ノ適律ヲ明示セサルハ是亦法律ノ理由ヲ欠クモノト謂ハサルヲ得ス故ニ右言渡ハ治罪法
第二百二十八條第一項ノ規則ニ違背セル越權ノ處分ニシテ其之ヲ認可シタル會議局ノ判決
モ亦從テ不當ナリトス右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十八條ニ法リ熊本輕罪裁判所會議
局之判決ヲ破毀シ福岡輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第六百五十壹號

○判文(官吏抗拒ノ件) 明治十五年十一月廿一日上告
明治十六年五月廿四日申渡

岩手縣陸中國江刺郡片岡村平民

茂木

藤之進

二十三年

明治十五年七月十五日磐井輕罪裁判所ニ於テ右茂木藤之進ノ被告事件ヲ審判シ數罪中一ノ
重キ者從ヒ刑法第三百二十九條ニ依リ重禁錮四月罰金十圓ノ刑ヲ言渡シテ同裁判所檢事補
庄田金次郎其裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告ハ竊盜事件審理中留置
場ヲ毀壞シテ逃走シ外ニ在テ又竊盜等ノ罪ヲ犯シ逮捕ノ際捕吏ニ抗拒シ負傷セシメタル者
ナリ而シテ前ノ竊盜罪ハ闕席裁判ヲ受ケタルモ被告人ハ逃走中未ダ之ヲ知ラズ即チ裁判確

定前又罪ヲ犯シタル者ニシテ前犯ノ罪ト數罪俱發例ニ照シ處斷スヘキ者ナルニ原裁判所ハ
其前犯ニ拘ハラス別ニ逃走後ノ數罪ノミヲ論決シ被告人ヲシテ前後ノ兩刑ニ服セシメタル
ハ不當ナルノミナラス被告人カ留置場ヲ毀壞シテ逃走セシ罪ヲ處斷セサリシハ擬律錯誤ノ
裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決
スルコト左ノ如シ

被告人ハ闕席裁判ヲ受クル前ニ於テ逃走シ又餘罪ヲ犯シタル者ナレハ前犯ノ罪ト共ニ數罪
俱發例ニ照シ一ノ重キ者從テ處斷スヘキ者ナルニ原裁判所ハ單ニ後犯ノ罪ヲ論シ前ノ闕席
裁判ニ係ル犯罪ニ對シ數罪俱發例ヲ適用セサルハ即チ擬律ノ錯誤アル者ナリ又被告人カ警
察署ノ留置場ヲ毀壞シテ逃走セシ所爲ハ公訴ニ係ル第一ノ犯罪ナルニ原裁判所ハ逃走後ノ
數罪ノミヲ論シ其主タル逃走罪ニ對シテハ何等ノ判決ヲ下サルハ即チ請求ヲ受ケタル事
件ニ付判決ヲ爲サ、ル者ナリ故ニ原裁判ハ治罪法第四百十號第七項第十項ノ場合ニ適當ス
ル不法ノ裁判ナリト確認ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ更ニ仙
臺輕罪裁判所ニ移シ審判セシムルモノナリ

第六百五十二號

○判文(官吏侮辱ノ件) 明治十五年七月七日上告
明治十六年五月廿四日申渡

東京府神田區今川小路二丁目五番

地藤本嘉兵衛方寄留鹿兒島縣士

四九三
明治十五年十月
四十三年

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十月十日高知輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十九條第三
九十四條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ
服セス上告セシ要領ハ被告ヨリ告訴人村上金次郎へ相渡シタル金千百圓ノ利金貳拾圓ノ受
取證ハ毫モ被告ノ知得セル證書ニ非ス全ク金次郎カ偽造ニ係リテ被告ヲ陷害センカ爲メナ
ルヲ看破セテ該偽證ヲ信用シテ裁判ヲ與ヘラレタルハ不服ナリト云ニ在リ
對手人檢事補布野萬長ハ右上古ニ對シ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ハ不當ニ非スト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル如左
本案上訴ノ趣旨タル承審官カ採證ノ適否ヲ論難シ以事實ノ有無ヲ訴フルト雖各證憑ヲ取捨
採擇シ事實ヲ判定スルハ承審官ノ權内ニ在リテ漫リニ之ヲ動カスヲ得ス何ノトナレハ治罪
法第四百十六條第二項ニ被告ハノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其
他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ故ニ上古ノ趣意相立ストス
右ノ如クナルヲ以治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上古ヲ棄却スルモノ也

第六百五十四號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十二月六日上告
明治十六年五月廿四日申渡

熊本縣小澤町九番地平民
古 開 三 郎
明治十五年七月
四十七年

竊盜被告事件ニ付熊本輕罪裁判所ニ於テ豫審終結ノ言渡ニ對シ檢事補中島孝叔ハ故障ヲ爲
シタルニ同會議局ニ於テ審按ノ未豫審中不盡ノ廉アルヲ以テ治罪法第二百五十三條ニ從ヒ
更ニ取調ヘテ爲サシメタルモ證憑具備セサルニヨリ豫審ニ於テ免訴ノ言渡シヲ認可ストノ
言渡シニ對シ檢事補中島孝叔ハ上古セリ其要領ハ會議局ニ於テ本案必要ノ點ニ對シ判事補
高實ヲシテ更ニ豫審ヲナサシメタル後猶同人ヲ以會議局ノ判決ニ干預セシメタルハ治罪法
第四十七條ニ抵觸スルヲ以無効ノ判決タリ又檢察官ノ意見ヲ聽カスシテ判決セシハ同第二
百三十六條第一項同第二百五十九條第三項ニ背キタルモノニ付同第四
百十條第四項第六項ニヨリ上古スト云フニ在リ
對手人古閑三郎ハ答辨セス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決
スル左ノ如シ
上古ノ要旨ハ檢察官ノ意見ヲ聽カスシテ判決ニ及ヒシハ治罪法第三百三十六條第一項第二
百五十九條第三項第三十三條第二項ニ背反セリト云フトイヘ治罪法第三百三十六條初項末文
ニ檢事ノ意見書ニ依リ判決スヘントアルハ本按ノ如ク檢事ニ於テ故障人タル場合ニ援引ス
ル條項ニ非ス而猶他ニ舉示スル條項ニ於ルモ本案ニ適用スヘキモノニ非サレハ上古ノ趣旨
總テ相立ストス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上古ヲ棄却スルモノ也

第六百五十五號

○判文(受寄財産費消ノ件) 明治十五年十一月廿五日上告
明治十六年五月廿四日申渡

長崎縣肥前國南高來郡島原町平民
菓子職當今同縣同國西彼杵郡戸町
村大浦郷渡邊「キク」方寄留

小中喜代太郎

明治十五年七月
三十五年四月

受寄ノ財物費消被告事件ニ付明治十五年七月五日長崎輕罪裁判所カ刑法第三條ニ基キ新舊
法ヲ比照シ其輕キ刑法第二百九十五條同第百條ニ依リ重禁錮五月ニ處スト言渡タル裁判ニ
服セス上告セリ其要領ハ長崎滯在中ノ旅費日當等ニ支辨スル約ナレハ受寄金ヲ費用シタル
モノニ非スト云ヒ此事件タル明治十四年中ヨリ引續キ十五年ニ及ヒタルモ其事實タル一事
件ニテ二罪ト云フコアラス然ルニ之ヲ二罪ナリト判定シ且明治十五年ニ至リ金三十圓ヲ受
取リ之ヲ費消セシヨ唯金十圓ノミチ以テ五月ノ重禁錮ニ處セラレ殘ル二十圓ニ對シテ如何
様ノ罰科ニ處セラルヘキヤ恐懼ニ堪ヘヌ旁以テ原裁判ハ不法ナリト云フ所以ナリ
對手人檢事補村上二郎ハ一々之ヲ辯駁シ就中十五年一月ヨリ四月迄三十圓ヲ四度ニ受取リ
時々ニ費消シタル四罪ノ内一月中十圓ヲ費消シタル罪ヲ以テ重シ下ナシ數罪俱發例ニ從ヒ
タルモノニテ毫モ不當ノ裁判ニアラスト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告第一ノ理由ハ事實判官カ各證據ニ照シ心證ヲ資リ認定セシ事實ニ侵入シタル論辯コト
治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル定規外ニ涉ルモノナレハ上告ノ趣旨相立ス

上告第二ノ理由トスル明治十四年中ノ犯罪ニテ同十五年ニ跨リタルモノナレハ二罪ニアラ
ズ一罪ナリト云フト雖モ其罪ノ性質タル一次毎ニ犯シタル所謂即時犯ニテ繼續犯ニアラサ
レハ原裁判所カ二罪ナリト論定セシハ允當ニテ一罪ナリトノ上告ハ相立ス
上告第三理由ニ付原裁判言渡ヲ審案スルニ十五年一月ヨリ四月迄ニ金三十圓ヲ四回ニ受取
リ時々消費シタル四罪ノ内一月中ノ犯罪ヲ情狀重キモノトシ數罪俱發例ニ依リ其一ニ從ヒ
處斷セシモノニテ是亦法ニ違ヒタル裁判ニアラサルナリ因テ上告ノ趣旨總テ相立ス
右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ因リ上告ヲ棄却スル者也

第六百五十六號

○判文(器物毀棄ノ件) 明治十五年十一月廿一日上告
明治十六年五月廿四日申渡

富山縣越中國射水郡高岡母衣町

平民菓物商

淺井

岩次郎

明治十五年六月
十九年生月不知

富山縣越中國射水郡高岡母衣町

平民金物職

林

宇平

明治十五年六月
二十三年

器物棄毀被告事件ニ付明治十五年七月三日富山輕罪裁判所カ刑法第四百二十一條ニ依リ重

禁錮一月ニ處シ岩次郎ハ二十歳未滿ニ付同第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ重禁錮二十日ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ裁判官ノ證人トセラレタル赤木喜三郎越島市平ハ証人タルノ資格ナキモノナレハ更ニ戸田平次外六名ノ呼出ヲ求メシニ之ヲ呼出サス長谷川文助ヲ出廷セシメ且巡查ノ具伸書トアルモ公廷ニ於テ示サレタルコトナク共ニ無効ノ証據ナルニ被告人共ニ輒ク器物棄毀ノ罪アルモノト斷定セラレタルハ不法ナリト云ヒ而シテ上告追申書ヲ以テ仍ホ前意ヲ擴張セリ
對手人檢事補伊藤甫彦ハ岩次郎宇平カ被告事件ハ罪証具備セシモノニテ原裁判ハ毫モ不當ニアラスト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
証人ノ資格ナキモノ、証言ニ係リ裁判セシモノナリト不服ヲ申立ルト雖モ赤木喜三郎越島市平ハ治罪法第百八十一條ニ記載シタル証人トナルヲ許サ、ル因故アルモノニアラス又指名セシ証人ヲ喚問セス巡查ノ具伸書トアルモ公廷ニテ示サレズト云フモ公判廷ニ於テ一々證據書類ヲ示スヘキトノ法律アルニアラス且証人喚問ノ果テ必要ナリトスル時ハ之ヲ喚問シ得ヘキモ必要ナリト認メサル限リハ之ヲ喚問セサルモ敢テ違法ニアラストス何レトナレハ治罪法第三百五十七條ニ裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルモ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル証人ヲ呼出シ云々トアリテ事實判官ノ特權内ナレハナリ因テ上告ノ趣旨總テ相立ス
右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百五十七號

○判文(証言ノ件) 明治十五年十一月廿一日上告
明治十六年五月廿四日申渡

愛媛縣伊豫國下浮穴郡森松村平
民農業

三秋多四郎

明治十五年二月
四十九年

証告被告事件ニ付明治十五年六月廿八日松山輕罪裁判所會議局ハ豫審ニ於テ請求ヲ肯セス終結ニ及ヒタルヲ不法トシ檢事補藤本重威ノ故障ニ對シ豫審終結ヲ允當ナリト認可シタルヲ以テ仍ホ上告セリ其要領ハ豫審取調欠漏ナル廉々アルヲ以テ再ヒ取調ヲ求メタルニ之ヲ無用ナリト終結言渡シタル故ニ會議局ニ向ヒ故障ヲ爲シタルニ是亦豫審終結ヲ允當ナリト認可セシハ越權ノ處分ナリト云フニ外ナラス
對手人三秋多四郎ハ當初ヨリノ事實ヲ縷述シ原判決至當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑モ豫審判官ハ治罪法第百五十八條末項ノ場合ヲ除クノ外必ス檢察官ノ意見ノ如ク爲サスンハアルヘカラストノ法律アルコトナシ加之治罪法第二百二十二條豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後ニ記載シタル言渡ヲ以テ豫審終結ス可シトアリテ會議局亦之カ拘束ヲ受ルコトナシ本案檢察官ノ緊要ト思量セシ點ニ付再調ヲ要メタルニ豫審判官ハ之ヲ無用ナリト認メ之ヲ諾カハス終結會議局ニ於テハ其再調ノ無用ニ屬スヘキ理由ヲ詳細明示シ到底豫

審終結ハ允當ナリト認可セシモノニテ毫モ越權ノ處分ニアラサルナリ因テ上告ハ趣旨無效
ナリトス本裁判官ハ原裁判官ノ如クモ、被告ノ罪狀ハ、賭博ノ罪ニ依リテ、依リテ上告ヲ棄却スル者也
右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リテ被告ヲ棄却スル者也

第六百五十八號

○判文(賭房開張ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
明治十六年五月廿四日申渡

岡山縣備中國川上郡近似村平民

東 藤吉
明治十五年七月
四十七年

賭場開張被告事件ニ付明治十五年七月三十一日高梁治安裁判所ニ於テ岡山縣罪裁判所刑
法第三百六十一條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金七圓ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官
警部補代理巡查横溝常太郎ハ上告セリ其要領ハ被告藤吉ハ藤原竹ノ依頼ヲ肯ヒ「テラ」錢ヲ
申受ケルノ契約ニテ座舖ヲ給與シタルモノニテ賭場ヲ開張セシモノナレハ刑法第二百六十
條ヲ適用スヘキニ裁判官ニ於テハ常業者ニアラサルトノ理由ヲ以テ同第三百六十一條ニ問
擬セシハ不當ノ裁判ナリト云フニアリ
對手人東藤吉ハ原裁判正當ナリト思料スル旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
刑法第三百六十條ト同第三百六十一條ノ區別ハ其利ヲ圖リタルト否トニアリ暗ニ賭博者ナ

リトシ情ヲ知テ房屋ヲ給與シ其報謝ヲ受ケタル如キ敢テ利ヲ圖リタリトモ云フヲ得ヘカラ
ナルモ本案藤吉カ被告事實ノ如キハ賭博スヘキヲ承諾シ報謝ヲ受クヘキ見込ヲ以テ房屋ヲ
給與セシモノナレハ縱令常業者ニアラサルモ其情狀タル賭場ヲ開張シ利ヲ圖リタルモノト
云ハサルヲ得然ルテ原裁判所カ常業者ニ非ルトノ理由ヲ以テ刑法第二百六十三條ニ依リ
處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直
ニ裁判スル左ノ如シ

東 藤吉

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ証憑トニ據リ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル罪ヲ犯
シタルコト明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ
刑法第三百六十條賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下
ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ル
因テ東藤吉ヲ重禁錮三月ニ處シ罰金十圓ヲ附加スル者也

第六百五十九號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十一月三十日上告
明治十六年五月廿四日申渡

大坂府攝津國西成郡難波村千四

百五十壹番地平民

中 田 卯之助

明治十五年七月
三十七年六月

已決囚逃走及ヒ竊盜被告事件ニ付明治十五年七月七日大坂輕罪裁判所ニ於テ刑法第四百十二條第二項第三條第二項改定律例第三百一一條明治十四年第八十一號公布第十三條刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ依リ數罪俱發スルヲ以テ刑法第三百條第三項ニ照シ一年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セシ要領ハ服役中外役先ヨリ逃走シタル他人ノ銀側時計一個ヲ竊取シタルヲ無之ニ警官ノ糾訊嚴キヨリ精神錯亂シ如何ナル事ヲ吐露セシヤ覺知セス而被告ニ於テ果テ盜罪アリトセハ會テ竊盜罪ニヨリ已ニ懲役十年ノ處刑ヲ受ケシ者ナレハ刑法第九十二條ヲ適用サルヘキニ其爰ニ及ハサリシハ事實ヲ知ラサル擬律錯誤ノ裁判ナレハ治罪法第四百十條ニ因リ上告ノ權利アルモノニ付原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補須賀忠貞ハ右上告ヲ逐ニ辨駁シ原裁判ハ適當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ會テ服役中逃走スルモ竊盜罪ヲ犯シタルヲ無之ト原裁判官ガ認定セシ事實ニ對シ陳辯スルト雖各證據ニ依リ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ職權内ニ屬スルモノニテ漫リニ他ヨリ之ヲ侵スヲ得ス而被告ハ果テ竊盜罪アリト假定スルモ既ニ竊盜ノ罪ニ依リ懲役十年ニ處セラレタル者ナレハ原裁判ニ於テ刑法第九十二條ヲ適用アルヘキニ其爰ニ及ハサリシハ擬律ノ錯誤ニ係レリト云フト雖會テ被告ガ竊盜罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケシハ新法實施以前ニ係ルモノナレハ本按ノ竊盜罪ヲシテ再犯ト爲スヘキモノニ非ス故ニ原裁判ハ不法ニ非サルニ付上告ノ趣旨相立ストス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第六百六十號

○判文(罵詈ノ件) 明治十五年十一月廿七日上告
明治十六年五月廿四日申渡

山梨縣甲斐國中巨摩郡下今諏訪

村平民農業

塚原

伊勢次郎

明治十五年五月

牆壁毀壞罵詈被告事件ニ付明治十五年七月三十一日甲府輕罪裁判所ノ豫審結終言渡ニ服セズ故障ヲ爲シタルコ會議局亦故障ノ趣旨ヲ採ラス豫審結終ノ言渡ヲ認可セシコ因リ尙又上告セリ其要領ハ豫審判官ハ兵長金丸助吉カ不正ノ証言ヲ信シ實地臨檢ヲモナサズ久本寺墓地ニ屬スル牆ヲ破壞セシモノナリトシ會議局モ亦之ヲ當然ナリトシ故障申立ヲ棄却セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補吉田八十綱ハ一々之ヲ辨駁シ原判決ハ至當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處事實判官ノ各証憑ニ照シ認定セシ事實ニ侵入シ徒ニ不服ヲ訴フルト雖モ事實認定ハ事實判官ノ特權内ニアリテ輒ク動シ得ヘカラサルノミナラズ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル定規ニ適當セサルモノナルニ因リ上告ノ趣旨相立サルナリ

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

○判文(養父母故殺ノ件) 明治十六年四月十六日上告
明治十六年五月廿四日申渡

福岡縣筑後國御井郡小頭町士族

菅原 由太郎
明治十五年十二月二十五日

明治十五年十二月十六日福岡重罪裁判所ニ於テ菅原由太郎カ被告事件ヲ審判シ養父母ヲ故殺シタル者ト爲シ刑法第三百六十二條ニ依リ死刑ニ處スト言渡シタリ菅原由太郎ハ其裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ養父母ヲ殺害シタルハ故殺シタルニ非ス自己ノ身體ヲ防衛スル爲メナリ當時知覺精神ヲ喪失シタルナリ又當時養父母タルヲ知ラスシテ殺害シタルナリ故ニ刑法第七十七條第二項ニ依リ處分セラレ可キモノナリト云フニ在リ代言人熊谷榮藏ニ於テハ被告人ノ上告第一第三ノ旨趣ニ就テハ更ニ開陳スルヲ要セス第二ノ要點即チ知覺精神ヲ喪失シタルノ旨趣ニ對シテ仍ホ論辯スヘキ所アリ抑モ被告人ハ犯罪ノ當時實ニ知覺精神ヲ喪失シタル者ナリ而テ原裁判所ノ裁判ハ明治十五年二月八日久留米警察署ノ調書ニ依據セラレシ如シト雖モ同日同警察署ノ調書ニハ精神亂レシ者ト思斷セラレ筆記スヘキ申立モ無之云々明記セリ既ニ精神錯亂シタリト明記セシ者ナルニ其前日筆記シタル供述ハ犯罪ヲ認視スヘキ確實ナル申立ナリト爲サハ是被告人ノ意旨ヲ分チ此部分ハ精神錯亂セリ此部分ハ確實ノ申立ナリト爲ス者ニシテ神明ニアラサル以上ハ容易ニ之ヲ分析スルコト得サルナリ要ナルニ久留米警察署ノ調書ハ無効ナルヲミナラス却テ精神錯亂ノ証

據ト爲スヘキモノナシトス右ノ理由ナルヲ以テ刑法第七十八條ニ照シ處分セラレ可キモノナルニ原裁判所カ專ラ其調書ニ據リ故殺シタル者ト爲シ刑法第三百六十二條ニ依リ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又原裁判言渡書ニ刑法第三百六十二條ノ明文ヲ掲ケ右條目ニ依リ被告人菅原由太郎ヲ死刑ニ處シ云々ト記載シ謀殺故殺ノ間何レニ適用シタルモノナルヤ見ルニ由ナキハ法律ノ理由ヲ付セサルモノナリト陳述セリ大審院ニ於テ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト如シ
上告人カ養父母ヲ殺害シタルハ身體ヲ防衛スル爲メナリ又當時養父母タルヲ知ラサルナリト云フモ別ニ據ルヘキノ徵憑ナク單ニ口頭ノ陳述ニ過キヤル者ナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又代言人カ被告人ハ當時全ク精神ヲ喪失シタル者ナリト論辯スルモ是亦採用ス可カラサルナリ抑モ本案ノ事實ハ單ニ久留米警察署ノ調書而已ニ依テ判定シタル者ニアラス被告ハ供述醫師ノ診斷書及ヒ證據物件等ヲ審按シ裁判官ノ心證ヲ以テ其犯罪ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタル者ナレハ久留米警察署ノ調書ヲ無効ナリト論告シ之ヲ以テ破毀ノ原由即チ擬律ノ錯誤アリト爲スヲ得ス又代言人カ論告スルカ如ク原裁判言渡書ニ刑法第三百六十三條子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處スト明記シタルノミニ止マリ被告人ノ所爲ハ養父母ヲ殺害シタル者ナルニ因リ本案ヲ適用スト記載セザリシハ判文不完全ナルニ似タリト雖モ既ニ故殺ノ事實ヲ明示シ而シテ後該法律ノ明文ヲ掲載シタル以上ハ亦之ヲ以テ破毀ノ原由即チ法律ノ理由ヲ付セサルノ判文ナリト爲スヲ得ス以上ノ理由ナルカ故ニ上告ノ旨趣ハ總テ相立タルモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ

從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第六百六十二號

○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年四月四日上告
明治十六年五月廿五日申渡

福島縣岩代國耶麻郡新合村士族

雜業

羽 島 吾

明治十六年二月
二十六年四月

右諸吾カ明治十六年二月二十六日附テ以テ差出シタル嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ被
告カ曩ニ福島縣裁判所若松支廳豫審終結ノ言渡ニ故障ヲ申立同廳會議局ノ判決ニ對シ明
治十六年二月十七日上告ヲ爲シ既ニ本院ニ於テ審理シ遂ニ無罪ニ歸シタリ左スレハ此管轄
ヲ移スカ如キハ到底無要ニ屬スルモノトス因テ審理ノ限ニ非ス
右ノ如クナルヲ以テ羽島諸吾カ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ之ヲ棄却スルモノ也

第六百六十三號

○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年三月廿六日上告
明治十六年五月廿五日申渡

福島縣岩代國大沼郡名入村平民

農業

坂 内 米 太郎

明治十六年三月
三十歲三月

明治十六年二月十六日福島縣裁判所若松支廳ニ於テ右坂内米太郎カ被告事件ヲ審判シ赤
城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シテ宇田成一ノ拘留セラレタル事由ヲ尋ヌル等ヲ口
實トシ喜多方警察署へ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ多衆ノ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタルモノト
シ刑法第三百二十七條及ヒ同第六十九條ニ依リ重禁錮三年六月ニ處シタリ

被告人坂内米太郎ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其上告ノ要旨ハ被告ハ赤城平六瓜生直七
トハ曾テ一面識モナキモノニシテ右兩名カ村民嘯聚事件ノ有無共ニ關係セサルモノナリ抑
喜多方地方ノ暴動ハ明治十五年十一月廿八日ニシテ被告ハ其以前拘引セラレ該暴動ノ當日
ハ現ニ若松警察署留置場ニ拘留中ノ身分ニシテ是レ則其干預セサルノ確證タリ又當時拘引
中ナル被告ニ於テ共犯人ノアルヘキ理由ナシ左スレハ共犯人ノ供述トハ全ク裁判官カ皮想
ノ認定ナルヤ明カナリ又陳述トハ被告カ公廷上ノ辯論ヲ指シタルモノカ果シテ然ラハ被告
ハ公廷ニ於テハ公判ヲ謝絶スルノ外他ニ吐露シタルコトナシ且證據物件ノ如キ被告ニ對シ一
物タモ明示セサレハ之ヲ知ルニ由ナシ夫レ如斯事實ニ於テ齟齬アルモノナリ又被告ハ明治
十六年二月十五日附テ以テ本案ハ嫌疑アルヲ以テ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲナシタルコト同月十
六日公判ヲ開キ該訴ハ未ダ送達ナシトシ直チニ公判ヲ爲シタリ抑治罪法第四百五十六條末
項ノ規則ニ書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ云々トアリテ嫌疑ノ如キハ最モ裁判上重大ノ
關係アルカ故ニ其訴訟手續ヲ停止スヘキモノナルニ書記ニ於テ二日內ノ時間ヲ等閑ニ付ス
ルノ理由ナカルヘシ姑ク之アリトスルモ其公判ヲ拒ミタル上ハ訴訟ノ手續ヲ停止セサルヘ
カラズ然ルニ強テ公判ヲナシタルハ即チ越權ノ處斷ナリトス又前條ノ如ク壓抑ヲ以テ公判

ナ開カレタルカ故ニ被告ニ於テ一ノ辯護ヲモナサ、リシニ判決セラレタルハ即チ治罪法第
 三百條同第三百五十二條ノ規則ニ背戾シタル不法ノ裁判ナリト云フニアリ
 福島輕罪裁判所若松支廳檢事補加藤秀男ハ該暴擧ノ際被告ハ喜多方地方ヘ往カサリシコトハ
 被告人陳述ノ如シト雖モ其暴擧ノ前ニ於テ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケ其結果ヲ全フシタルモノ
 ナリトノ認定裁判ヲ與ヘラレタルモノナレハ警察署ニ喧鬧ノ際其場ニ居ラサルチ口實トナ
 シ該裁判ヲ不當ト爲スチ得ス又被告人カ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタルト云モ
 被告人ハ公廷ニ於テ異議ナク辯論ヲナシタル後其訴ヲ爲シタル旨申立ルノミナラス其訴
 リシヲ知ラサリシナリ然レハ事實裁判官ノ判決ハ毫モ法律ニ背犯シタルニアラス適法ノ裁
 判ナルチ以テ如此上告ハ速ニ棄却セラレヘキモノトノ旨趣ニ在リ
 明治十六年五月廿五日大審院ニ於テ公廷ヲ開キ專任判事ノ報告書ニ依リ代言人大井憲太郎
 ノ陳述ヲ聽キ而シテ臨席檢事ノ意見及ヒ附帶上告ノ趣旨ヲ聽キ判決スル理由ハ
 被告坂内米太郎ニ於テ本訴ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタルニ原裁判所カ其手
 續ヲ盡サスシテ本訴ノ裁判ヲ爲シタルハ不法ナリト云ト雖モ公判始末書被告ノ答ヘニ喜
 多方ヘ臨ミタルト毫モ之レナキチ以テ無論此度ノ事件ニハ干與セサルナリ訴訟事件ノ委任
 狀ハ居村人民ヨリ取纏メタルコトハアリタレモ暴動事件等ノコトハ予ハ加ハワリタル者ニ非ス
 節トアリテ已ニ公判ノ裁判ニ係ル答辯ヲナシタルヲ觀レハ原裁判所ノ裁判ヲ受ルコト肯
 諾シ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴ハ放棄シタル者ト謂ハサルチ得ス故ニ管轄ヲ移ス訴係ル
 上告ハ相立ササ者トス又本訴被告事件ヲ審案スルニ被告ハ喜多方警察署暴擧以前即チ明治

十五年十一月廿六日警察署ヘ拘留セラレ暴擧ノ當時ニ在テハ已ニ拘留中ノ身分ナレハ喜多
 方警察署ヘ喧鬧スヘキ由シナシ又被告ハ拘留以前ニ在テ車道開鑿事件ニ付告訴ノコトニ關係
 シタルハ明カナリト雖モ暴動ヲ煽動ニ應シ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタル等ノ證據ナシ原判文
 ニ「汝ノ舉動共犯人ノ供述相當官吏ノ調書及ヒ陳述其他ノ證據物件云々」トアルモ汝ノ舉動
 ト如何ナル舉動チ云カ共犯人ノ供述ト如何ナル如何ナル供述ヲ爲シタルカ相當官吏ノ調
 書及ヒ陳述其他證據物件ト如何等ノ事項何等ノ證據物件ニシテ被告事件ノ證據ト爲スニ足
 ルヤ否ヤ一件書類中觀ルヘキノ廉ナシ則チ被告カ罪證充分ナラサルモノトス隨テ刑ヲ適用
 スルニ由シチキモノナルニ原裁判所カ被告チ有罪トシ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル
 不法ノ言渡シナリトス仍テ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原因アル者ニ付同第
 四百二十八條第四百二十九條ニ據リ原言渡シチ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ
 判決

前文ノ理由ナルニ據リ被告坂内米太郎カ被告事件ハ犯罪ノ證據充分ナラス治罪法第三百五
 十八條ニ據リ無罪直チニ放免ス

第六百六十四號

○判文(囚徒暴行ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
 明治十六年五月廿五日申渡

福島縣警代國信夫郡五十部村士

族福島縣監獄平支署詰看守

加藤 藤 東 三 郎

明治十五年五月
三十年五月生

囚人ニ對シ苛刻ノ所爲アリトスル被告事件ニ付明治十五年七月二十日平輕罪裁判所カ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補宮地直親ハ上告セリ其領要ハ被告東三郎ハ囚人ニ對シ苦楚ヲ與ヘ多少凌虐アリタル者ナルニ原裁判所ハ悔悟謝罪ヲ強ユル爲メ縛ヲ施シ警置スルモ鈞下ケス拷打セサレハ苛刻ニアラストシ刑法第二條ニ依リ處分セシハ不當ノ裁判ニテ治罪法第四百十條第九項ノ原由アリト認メ上告スト云フコアリ對手人加藤東三郎ハ苛刻ノ所爲ヲ施セシニアラストノ趣旨ヲ述ヘ原裁判至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處事實判官カ各證憑ニ據リ心証ヲ資リ認定セシ事實當否ヲ論難スルモ或ハ覆審ノ理由ト爲スヘキモ上告シテ破毀ヲ求ムル原因ト爲スヲ得ス何トナレハ事實認定ハ一々事實判官ノ特任スル處ナルノミナラス治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル規則ニ適當セサルモノナレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百六十五號

○判文(官吏ノ抗拒ノ件) 明治十五年十一月廿八日上告
明治十六年五月廿五日申渡

高知縣土佐國土佐郡愛宕町七族
遠藤三作方同居土族菓子商
小南 猿 四郎

明治十五年七月
三十五年三月生

官吏職務ヲ行フテ抗拒シタル被告事件ニ付明治十五年八月十八日高知輕罪裁判所カ刑法第百二十九條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ巡查カ一人ノ男ヲ引致スルヲ見掛ケ自分ハ其仲ニ立入り穩和ニ取計ラハントスル際一人ノ男ハ逃走シタルモノニテ決テ暴行ヲ加ヘタルコアラフ往年與羽龍爭ノ時銃創ヲ被リ爾來腕力ハ微弱ニテ暴行抗拒スル能ハサルニ原裁判所カ刑法第三百二十九條ノ罪アリトセラレタルハ不法ナリト云フコアリ對手人檢事補相原市之丞ニ於テハ上告趣意ヲ辨駁シ原裁判至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處事實判官カ各証憑ニ照シ心証ヲ資リ認定セシ事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルト雖モ事實判官ノ特任スル權内ノ處分ナレハ輕ク動カシ得ヘキモノニアラス且治罪法第四百十條ノ第一ヨリ第十一ニ至ル定規ニモ適當セサルモノナルニ因リ上告ノ趣旨相立タズ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百六十六號

○判文(証書變換ノ件) 明治十五年十一月廿八日上告
明治十六年五月廿五日申渡

秋田縣羽後國南秋田郡鍛冶町十
三番地平民ニキ塗職

明治十五年八月
三十八年

交換証書變換被告事件ニ付明治十五年八月十九日秋田輕罪裁判所カ證據充分ナラストシ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補土倉繁藏ハ上告セリ其要領ハ被告岩松カ横山勘三郎ヨリ受取タル約定書中四月ヨリトアルヲ四月限カシ變換シタル所爲ハ勘三郎ノ承諾ヲ得テ三浦新一郎カ變換シタル旨新一郎モ申立ルト雖モ果シテ承諾アレハ其變換セシ文字ヲ消印スヘキ筈ナルニ消印セズ之ヲ勘三郎ノ承諾アリト申立ルモ口頭ノ陳辯ニ過キサルヲ裁判官ニ於テ採テ以テ證據不十分ナリトシ無罪ト言渡タルハ不當ナルト云フコアリ...

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處事實判官ノ各証憑ニ照シ心証ヲ資リ岩松カ被告事實ハ其罪ヲ認ムヘキ證據不十分ナリト認定セシ事實ニ對シ之ヲ非難ズルト雖モ事實認定ハ事實判官ノ特任スル權内ナレハ輕スル動カシ得ヘカラス且治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル定規ニモ適當セサルモノナレハ上告ノ趣旨ハ効チキモノトス...

右ノ理由ナレニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也
第六百六十七號
明治十六年四月五日上告
明治十六年五月廿五日申渡
東京府本郷區駒込上富士前町三丁目

十五番地關谷新助方同居平民

小野澤

明治十五年十二月
三十七年三月

右トワレカ被告事件ニ對シ明治十五年十二月十六日東京重罪裁判所ニ於テ被告小野澤ノ目的ヲ遂ケシカ爲メ藤澤リカヲ殺シタルモ小野澤ト判定シ刑法第三百六十六條同第二百九十六條同第百條ニ依照シ死刑ニ處スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ小野澤トワレニ於テ上告セリ其要旨ハ被告カ藤澤立信ノ室ニ入り同人カ母リカヲ殺シ金圓ヲ持チ去タル所爲ハ故殺ト竊盜罪ノ二箇ノ犯罪タリ然ルチ原裁判官ハリカヲ殺シタルハ竊盜ヲ遂ケテ爲ナリト判定セラレシハ事實ノ理由ニ齟齬アリ又假ニ之ヲ裁判官ノ判定セシ事實ナリトセハ被告ガ犯罪ハ刑法第三百八十條ニ該當スヘキモノナルニ同法第三百六十六條第二百九十六條ニ依據セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院刑事公庭ニ於テ上告代官人大井憲太郎ハ上告ノ趣意ヲ擴張陳シ立會檢事池上三郎ニ於テハ上告ニ對スル意見ヲ陳述セリ因テ之ヲ審按スルニ原言渡書ニ證據物件各證人ノ証言等ヲ舉示シ而テ被告ハ金圓ヲ盜ミ取ラン爲メ立信ノ室内ニ立入り又其所爲ヲ遂ケン爲メリカニテ故殺シタルモノト認定ストアリテ毫モ其理由ニ齟齬アルコナシ又犯罪ノ事實ヲ推考シテ之ヲ認定スルハ承審官ニ任從スル處ハ特權ニシテ其職權ヲ以テ判定セシ事實ハ他ヨリ之ヲ非難シ得ヘカレサルヲ以テ上告第一ノ點ハ相立サハルモノナリ上告第一ノ旨趣ノ如ク刑法第三百八十八條ヲ適施スルハ當然ナルニ刑法第三百六十六條同第二百九十六條同第百條該當シタルハ法律適用誤タリ不法ノ

裁判ナリトス抑刑法第二百九十六條ニ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ云々人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ストアルハ一般ノ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ故殺セシ者ヲ罰スルノ法章ナ
ルモ盜罪ノ目的ヲ遂ケン爲メ人ヲ故殺シ而テ其目的ヲ達シタル如キハ即チ強盜罪タルコト勿
論ニシテ之ヲ罰スルノ法章ハ刑法第三百八十條ニ強盜人ヲ傷スル者云々死ニ致シタル者ハ
死刑ニ處スト特條ヲ明設シアリテ盜罪ヲ便利ナラシムル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ其第二百
九十六條ノ支配スヘキ者ニアラサルコト明白ナリ右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ヲ毀破シ本院ニ
於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ確認スル處ニ據リ刑法第三百
八十條ニ照シ死刑ニ處スルモノナリ
但犯罪ノ用ニ供シタル蚊帳ノ鈎紐ハ所有主ニ還付シ公訴裁判費用ハ總テ被告ニ負擔セシ

第六百六十八號

○判文(持兇器強盜ノ件) 明治十五年九月十八日上告
明治十六年五月廿六日申渡

神奈川縣武藏國都築郡恩田村七
十四番地平民

中山寅吉
明治十五年四月
二十八年一ヶ月

持兇器強盜人ヲ傷スル被告事件ニ付明治十五年四月十一日神奈川重罪裁判所ニ於テ處犯ス
ヘテ四次ノ内三次ハ刑法實施以前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ之ヲ舊法ニ照スニ
明治十三年三月二日第二十五號公布改正強盜律ニ依リ懲役終身ニ該ル新法ニ於テハ刑法第
三百七十八條第三百七十九條第三百八十條ニ依リ無期徒刑ニ該當ス而強盜人ヲ傷スルノ處
爲ハ其情狀原諒スヘキヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ舊法ノ輕キ懲役十年一次ハ新法實施後ニ係
ルヲ以テ刑法第三百七十八條第三百七十九條ニヨリ輕懲役ノ本刑ニ一等ヲ加ヘ重懲役十一
年ノ重キニ從テ處斷スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官檢察事渥美友成ハ之ヲ不當ナリトシ上
告セル要領ハ明治十四年八十一號公布第十二條ノ其本法ニ照シ加減ストハ法律一定ノ減輕
即宥恕減輕自首減輕其他未遂犯又ハ從犯等ニ依テ法律上當然減輕ヲ得ヘキモノニ限リ刑法
第八十九條第九十條ニ掲クル酌量減輕ノ如キハ法律上一定ノ減輕ト同一視スヘカラス然ル
ニ本案ノ如キハ舊法ニ照セハ懲役終身新法ニ依レハ無期徒刑ニ該ル而其酌減ヲ行フニ當リ
明治十四年八十一號公布第十二條各其本法ニ照シ加減シタルトノ法文ニ基キ酌量減輕ヲ本
刑トシ仍ホ舊法ニ比照シタルハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ
對手八中山寅吉ハ答辯セテ
大審院ニ於テ專任判事伴正臣ノ報告ニ據リ立會檢事林三介ノ意見被告代理人熊谷寬治ノ陳
述ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ
上告ノ要旨ハ明治十四年八十一號公布第十二條其本法ニ照シ加減ストハ法律定規ヲ加減
ニ止マルモノニテ刑法第八十九條第九十條ニ載スル如キ裁判官ノ酌量減輕法用ユル法律上

未必ノモノト同一視スヘキニ非ラス然ルヲ本案ニ於ケル強盗人ヲ傷スルノ所爲ニ於テ酌量減輕ノ情アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ照シ減輕ヲ行フモ即チ明治十四年第八十二號公布第十二條ノ法文ニ基キ酌量減輕ヲ本刑ト爲シ舊法ニ比照シ處斷シタルハ不當ナリト云フ雖トモ明治十四年第八十二號公布第十三條ヲ閱スルニ新法ト舊法トヲ比照スルハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアリテ酌量減輕ハ此限リニ非サル明文ナキ以テナラス法理ニ於ケルモ亦其殊別アラサルヘシ然ハ則原重罪裁判所カ酌量減輕ヲ用ヒタシ舊法ト輕キト刑法實施後ニ係ル新法ト重キト三罪俱發ソ一重キト從ヒ處斷シタルハ不法ニ非サルニ付上告ノ趣旨相立ヌトス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモ以テ切スヘキニ非ラス

第六百六十九號

○判文(山林盜伐ノ件) 明治十五年十一月十六日上告

石川縣加賀國能美郡丸山村百十

五番地平民

右衛門

明治十五年七月

山林盜伐被告事件付明治十五年七月二十四日金澤輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十三條第三百七十三條第三十七條第三十七條ニ依リ重禁錮一月十日監視六月ニ付ス言渡シタル裁判ニ服セズ上告セル要領ハ該山林ハ從來慣行ノ如ク薪柴ヲ伐採セシモ以テ道端源七カ所有權

ヲ有セルト云フハ全ク調略ヲ以私有ノ名ヲ偷ムモノナレハ盜伐ヲ以テ論セラルハ頗ル事實ニ反違セルト云フニ在リ

對手人檢事補森繁彦ハ該山林ハ道端源七ノ處有地下アツテ被告人ノ辨護ニ證據ナシ加フルニ犯時ノ供狀ニ依ルモ決テ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ニ非スト確認スト而被告人ノ所爲ハ未遂犯ナルニヨリ刑法第三百七十五條ニ照シ既遂者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減スヘキニ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ失當ト思料スル旨答辨ニ併セテ意見ヲ陳述セリ

大審院ニ於テ專任判事ハ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ從來ノ慣行ニ從ヒ共有山林ヲ伐採セシモノニテ決テ道端源七ノ所有ニハ非サルヲ原裁判所カ盜伐ヲ以テ判定シタルハ頗ル事實ニ反違セルト裁判官カ採證ノ適否ヲ論難スルト雖各證據ノ採擇取捨ハ裁判官ノ職權ニシテ他ヨリ侵入スルヲ得ヌ何ントナレハ治罪法第四百四十六條第三項ニ被告人ハ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ハ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依テ上告ノ趣旨相立タストス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第六百七十號

○判文(山林盜伐ノ件) 明治十五年十一月十七日上告

明治十六年五月廿六日申渡

山梨縣甲斐國南巨摩郡增穂村平

民農業

長澤 徳若 衛門

五二五

明治十五年七月
四十六年二月

山林盜伐被告事件ニ付明治十五年七月十七日甲府輕罪裁判所カ刑法第三百七十三條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ裁判官ハ偏ニ小林五右衛門深澤勇藏等カ證述ヲ信シ志村半七ノ所有地ナリトシ自分ニ盜伐ノ刑ヲ科セラレタルモ其地所ハ先ニ爭論ノ末東京上等裁判所ノ言渡シニ原被告申立符合セサル上ハ論所境界ヲ分ツノ證據ニハ採用シ難シトアリテ自分所有地タルヲ確信スル處ナレハ盜伐ナリトシ裁判ニハ服シ難シト云フニ在リ

對手人檢事補澁谷孝世ハ被告カ證據トスル東京上等裁判所ノ判決ハ其趣旨論所ノ境界ヲ分ツノ證據トセラレサルノ一點ニシテ毫モ被告カ所有地タルヲ判定セシモノニアラス爾來志村半七ニ於テ所有權ヲ得地租ヲ納メ來リタレハ被告カ盜伐ノ罪ハ免カレ得ヘカラサルモノナリ故ニ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ左ノ如シ

上告ノ理由トスル處ハ承審官ノ各證據ヲ取捨シ認定セシ事實ニ對シ單ニ採證ノ不當ヲ非難スト雖モ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲ヌヲ得ヌ如何トナレハ治罪法第四百四十六條ニ被告ノ白狀官吏ノ檢証調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ承審官ノ特權内ナル處分ナレハナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百七十一號

①判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十一月廿九日上告
明治十六年五月廿六日申渡

長野縣信濃國東筑摩郡入山邊村
平民農業

赤羽熊太郎

明治十五年七月
二十七年生月知レス

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年七月十八日松本輕罪裁判所カ刑法第三百九十九條同第三百九十四條同第三百九十七條同第四百十二條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ監視六月ニ付スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補江木温直ハ上告セリ其要領ハ被告熊太郎ハ先ニ所刑ヲ受ケタルモノナレハ刑法第九十二條ヲ適用シ再犯加重ノ處分ニ及フヘキニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト云フコアリ

對手人赤羽熊太郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ左ノ如シ

被告熊太郎カ前科ハ其處斷明治十五年三月中ニアルモ其犯時十四年ニ係レハ即チ舊法中ノ犯罪ニテ新法上之ヲ再犯ナリト爲ヌヲ得ヌ何ゾトナレハ刑法第三條ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及スコトヲ得ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨無効ナリトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百七十二號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十一月七日上告
明治十六年五月廿六日申渡

滋賀縣近江國坂田郡間田村平民

三原谷十郎

明治十五年五月
四十九年三月

藏米預り手形偽造及ヒ証告被告事件ニ付明治十五年五月廿七日刑法第百條第一項第三項同
第三百十條同第二百十條同第七十條同第二百十三條ヲ適用シ重禁錮三月
處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六月ニ付ト言渡シタル裁判ニ服セテ上告セル要領ハ空米預り
手形ヲ偽造シ又ハ人ヲ証告シタルヲ藏米手形貳通ハ小竹重助ニ竊取セラレタルニ相違ナ
キモ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ治罪法第四百十條第十項第十一項ニ該當スルモノナルニヨ
リ上告ヲ爲スト云フニ在リ

對手人檢事補北村健吉郎ニ上告ノ趣旨ニツモ其理由トナラサル旨辯駁シ原裁判ハ不當ニ
テスト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ
上告ノ要旨ハ空米預り手形ヲ偽造セシメ無ク又人ヲ証告シタル事無ク該手形ハ小竹重助ニ
竊取セラレタルニ相違非サル旨主張シ原裁判官カ探證ノ適否ヲ論難スルト雖固ヨリ各證
憑ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ裁判官ノ職權ナルヲ以他ヨリ之ヲ侵ス能ハサルハ治罪法第百
四十六條ニ載セテ明確ナレハ本案被告カ論辨ハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルモノニ
テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルニ付其趣旨相立スト
右ノ如クナルヲ以治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第六百七十三號

○判文(郵便印紙稅犯則ノ件) 明治十五年十一月廿二日上告
明治十六年五月廿六日申渡

京都府下京區東洞院蛸藥師上ル

嘉助

右淵田嘉助カ被告事件ニ付明治十五年八月七日京都輕罪裁判所ニ於テ刑法第百九十九條ニ
依リ罰金三圓ニ處シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補谷口重輝以上告ヲ爲シタル旨趣ハ被
告人ハ郵便切手ヲ再貼用シタル者ナレハ刑法第百九十九條ニ依リ處斷セシメ至當ナルモ同
第二百一一條ニ明文アル監視ノ刑ヲ附加セザリシハ擬律ノ錯誤ナリト云フ旨在リ大審院ニ於
テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルハ左ノ如シ
監視ノ附加刑ハ禁錮以上施體ノ刑ニ適用ス可キ者ニシテ罰金ノ主刑ニ附加ス可キ者ニ非ス
何トナレハ單ニ金額ニ關スルノ主刑ニ對シ身體ヲ拘束スル監視ノ刑ヲ附加ス可キハ理ナケ
レハナリ故ニ刑法第百九十九條ニ該ル犯罪ニ於テハ同第二百一一條ヲ適用スルヲ得サルモ
ノトス本案事件ノ如キ原裁判所カ被告人ニ對シ單ニ罰金ノ刑ニ處シテ監視ヲ附加セザリシ
ハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤アリト謂フヲ得サルナリ依テ治罪法第四百二十七條ニ從
ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第六百七十四號

○判文(官吏侮辱ノ件) 明治十五年十一月廿九日上告
明治十六年五月廿六日申渡

五三〇

大坂府東區今橋二丁目一番地日
本立憲政黨新聞社假編輯長京都
府士族

林 清 志

明治十五年六月
十九年一ヶ月

官吏職務ニ對シ侮辱シタル被告事件ニ付明治十五年六月二十一日大坂輕罪裁判所カ刑法第百四十一條第二項ニ依リ同第八十一條ニ照シ五月ノ重禁錮ニ處シ二十五圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ明治十五年六月十二日新聞條例第十二條ニ違犯セシヲ以テ罰金七圓五十錢ノ刑ニ處セラレタレハ今回ノ罪ハ則チ刑法第百二條第一項ニ依リ斷テラレヘキニ論決茲ニ及ハサルハ擬律錯誤ナリト云ヒ又上告退伸書ヲ以テ前意ヲ擴張シ併セテ新聞紙上掲載セシ教育ノ制度ヲ變シタリトノ一編ハ其實際ノ景狀ヲ寫シ或ハ世上風聞ヲ記シ以テ胸間密塞スル處ノ疑訝ヲ質シ天下公衆ニ向ヒ利害得失ヲ知ラントテ望ミタルニ過キス毫モ我文部省ノ政ヲ誹毀認罔シ文部卿ヲ侮辱セタルモノニアラサレハ原裁判ハ理由ノ齟齬アルモノナリト云フニアリ

對手人檢事補平野長憲ハ上告人清志ハ二罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニテ擬律錯誤ナリト云フト雖モ明治十四年第七十二號布告第五條ノ明文アリテ數罪俱發例ヲ用ユヘキモノニアラ

ス因テ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シトシ新聞紙上掲載ノ論文ヲ見ルコト(我文部省ハ頻リニ教育ノ制度ヲ變シ忽シテ干涉トナリ又忽シテ不干渉トナリ又再變シテ干涉ニ復シ云々又文部省カ維新以來最モ熱心シテ希望シタル目的ヲ俄カニ一打破却セントスルカ如キモノアリ云々又我文部卿ハ近日歐米自由民權ノ說ヲ惡ム蛇蝎膏ナラス故ニ歐米ノ修身主義ヲ一擊排斥シテ顧ミス云々)等ノ論旨ニテ之ヲ照應玩味セハ其教育ノ制度ニ關係シ文部卿ノ職務上ニ對シ侮辱シタル者ナルコト明瞭ニテ侮辱ニアラストハ上告趣旨ハ相立ダス其他數罪俱發例ヲ適施セサルハ不法ナリト云フト雖モ明治十四年第七十二號布告第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアリテ數罪俱發例ニ依ルヘキ限リニアラサルナリ因テ上告ノ趣旨是亦相立ダス

右ノ理由ナルコト因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百七十五號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十一月十五日上告
明治十六年五月廿六日申渡

札幌縣平民後志國小樽郡若松町

二百四十六番地相澤キツ借家

無職

佐 野 利 吉

五三二

明治十五年六月

右利吉カ被告事件ニ付明治十五年六月七日札幌開拓使殘務取扱ニ於テ判事補中根直カ被告ハ訴欺取財ノ所爲アリトシ新舊ノ法ヲ比照シ其輕キ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮六月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ利吉ハ上告爲シタル其要旨ハ原裁判官カ被告ハ毫モ法律ニ觸ル、ノ所爲ナキニ何等ノ證據ニ據テ詐欺取財ノ犯罪者ナリト認メラレタルヤ至ク誤謬ノ觀察ニ出タル不法ノ裁判ナリト云フニ過キス原檢察官伊藤弘答辨ノ主要ハ原裁判相當ニシテ上告ハ理由ナキモノト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件上告ノ論旨ハ事實裁判官ノ特權内ナル認定上ニ侵入シ徒ニ採證ノ當否事實ノ如何ヲ非難スル者ト云ハサルヲ得ス何トナレハ原書類ヲ閱スルニ一トシテ違法ノ廉カケレハ判事到底上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ヲ棄却スルモノナリ

第六百七十六號

明治十六年三月二十六日上告

明治十六年五月二十八日申渡

福島縣岩代國耶麻郡熱塩村平民

○判文(凶徒聚衆ノ件) 明治十六年三月二十六日上告 福島縣岩代國耶麻郡熱塩村平民 菅井千代吉 明治十六年三月二十六日 明治十六年四月 赤城平六 瓜生直七 等カ多 衆村民ヲ嘯聚シ喜多方警察署ニ喧鬧スルニ際シ戸長ノ職ニアリナカラ特別委員ノ任ニ當リ

多衆ノ人民ヲ煽動シ每户一人宛喜多方ニ出ル旨小走リテ村内ニ報道シタルモノニシテ則チ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ナリトシ刑法第三百三十七條同法第十九條ニ依リ重禁錮四年六月ニ處斷シタリ被告ハ之ヲ不法ナリトシ上告セリ其要領被告ハ明治十五年十一月二十八日ハ自村ニ居ラサルヲ以テ喜多方警察署ニ喧鬧シタル事柄ヲ知ラサルヲモナラス曾テ是等ノ事ニ與リタルコトナク即チ無罪ノ者ナルコトモ拘ハラス被告カ請求セシ證人山口昌平田部平馬ヲ喚問セス且證據物件ヲ明示セシテ斯ク裁判セシハ法律ニ背反スルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

原裁判所檢事補加藤秀男ハ原裁判ヲ適當ノ者ナリトシ之ニ答辨セリ 大審院ニ於テ公廷ヲ開キ專任判事報告書ヲ朗讀シ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ代官人北田正董ノ陳述ヲ聽キ判決スル理由ハ 本訴被告事件ヲ審按スルニ被告菅井千代吉ニ於テ原裁判所カ被告ノ証人トシテ請求シタル山口昌平田部平馬ヲ喚問セザリシハ不法ナル旨申立レモ原書類中被告カ右兩人ノ喚問ヲ請求シタルコト相見ベシ故ニ此証人ニ係ル上告ハ相立タサル者トス又原判文ニ被告カ犯罪ノ証憑ナリトシテ掲載シタル事項ハ(被告ノ舉動共犯人五十嵐武彦猪股造酒八等ノ供述米岡村久山寺ニ於テ議定書特別規約書字田成一ヨリ被告及ヒ外五名ニ宛タル八月十四日付書面相當官吏ノ調書或ハ陳述其他現場及ヒ本部ニ於テ差押ヘタル證據物件)トアリ然ルニ一件書類中被告カ舉動ニ於テニモ犯罪ト觀ルベキ廉ナシ又共犯人ノ供述下テ成モ一件書類ニ載セザルニヨリ之ヲ知ルニ由ラシト雖モ豫審掛リノ訊問中十二月二十八日ニ在テ喜多方町(一

同立越スヘキ旨汝等ヨリ相當ノ人ヲシテ村民へ通知セシムルハ已ニ共犯者ナル猪股造酒入ノ陳述ニ依ルモ實ニ明白ナリトアルヲ以テ觀レハ蓋シ酒造入ニ於テ此ノ如キ陳述ヲ爲シタル者ヲ然レモ警察官カ本宮村旅店高橋直作ノ宿帖ヲ取調ヘタル處ニ據レハ其當時被告ハ在村セサリシヲ明カナリ又議定書特別規約書ニ於ケルモノ一件書類ニ載セサレバ之ヲ知ルニ由ナント雖モ豫審掛リノ訊問及ヒ被告ノ答ヘニ據リテ觀レハ車道開鑿出訴事件ニ係ル約定タルニ過キヌ又字田成一ヨリ被告及ヒ外五名ニ宛タル書面ハ車道開鑿ニ付地方人民ヲ蔑視スルニ依リ憤發アリ度旨申送リタルノニ其他相當官吏ノ調書或ハ陳述トアルモ如何ナル調書陳述ノ個條ヲ指シテ被告事件ノ憑據ト爲スカ現場及ヒ本部ニ於テ差押ヘタル證據物件トハ何等ノ證據物件ナルヤ一件書類中絶テ觀ルヘキモノナシ然ラハ則チ被告ハ罪ト爲ルヘキ所爲ヲシテ隨テ刑ヲ適用スルニ由ナキ者ナルニ原裁判所カ被告ヲ有罪トシ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原因アル者ニ付同法第四百二十八條第四百二十九條ニ據リ原言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

判決

被告菅井千代吉ハ罪ト爲ルヘキ所爲ナキヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

第六百七十七號

○判文(証券印稅犯則ノ件) 明治十五年十一月廿五日上告
明治十六年五月廿八日申渡

新潟縣越後國三島郡東方村平民
廣川 又次郎
同縣同郡同村平民
關野 久藏

右又次郎久藏カ被告事件ニ付明治十五年六月二十八日長岡輕罪裁判所ニ於テ被告又次郎ハ金千圓ノ地所賣渡證文ニ証券印紙ヲ貼用セサル者トシ証券印稅規則第四則第二條明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ脫稅高ノ二十倍則チ二十圓ノ罰金ニ處スヘキ處酌量スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條刑法第九十條ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ十圓ノ罰金ニ處シ被告久藏ハ右ノ證文ヲ受取り置キタリト雖モ事發覺前自ラ相當ノ印紙ヲ貼用シ代人山田爲一郎ニ調印セシメタルニ付証券印稅規則違犯ノ者ニ非サルヲ以テ處斷ニ及ハストノ裁判言渡ヲ爲シタリ

長岡輕罪裁判所檢事補中原正夫ハ其裁判ニ對シ上告ヲ爲シ本訴ノ告發人タル山田爲一郎ハ証券印稅規則第四則第十四條ニ依リ被告廣川又次郎ヘ科シタル罰金ノ半高ヲ賞與スルハ當然ナルニ其裁判言渡ヲ爲サハ不當ナリ又被告久藏カ受取タル證書ニハ自ラ印紙ヲ貼用シ調印スヘキ等ナルニ敢テ之ヲ爲サスシテ其代人タル山田爲一郎ニ於テ調印セリ而シテ爲一郎ハ貸金催促上ノ部理代人ニ止リ印紙調印ノ委任ヲ受ケタル者ニ非サレハ其調印ハ無効ナルニ因リ証券印稅規則第四則第八條ニ依リ處斷スヘキモノナルニ原裁判ノ此ニ出テサルハ是亦其當ヲ得サル者ナリトノ旨極テ論告セリ

對手人廣川又次郎關野久藏、答辨セズ本院檢事加納久宜ハ賞金給與方ハ被告人ニ對スル裁判確定シ罰金ヲ徴収シタル後チ其處分ヲ爲スヘキモノニシテ該裁判ト同時ニ之ヲ言渡スヘキモノニ非ストノ意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ關野久藏ニ對スル裁判言渡ニ認メタル事實ハ久藏ハ廣川又次郎ヨリ印紙貼用ナキ證書ヲ受取リ後チ自ラ印紙ヲ貼用シ代人山田爲一郎ニ消印ナサシメタルモノトス然ラハ之ヲ證券印稅規則第二條ニ依リ處分ナサ、ルヘカラス何トナレハ同條ニ曰ク第一類第二類第三類ノ證書ニ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ二十倍其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ十倍過料タルヘキ事トアルニ據レリ其印紙貼用ハ必ス證書授受ノ際渡主ノ爲ス可キモノニシテ若シ之ヲ爲サハルキハ雙方俱ニ其罰ヲ免カル、チ得サルコト該法文ニ就テ自ラ明瞭ナレハナリ然ルニ或ハ同則第五則第十二條等ヲ援引シ受取主ニ於テ貼用セシ上ハ自首ト見做シ其犯則タルヲ全免スヘシトノ說ヲ爲ス者モ之アラン平然レモ其第十二條ハ已ニ犯則ノ處分ヲ經タル後チ受取主ニ於テ民事ノ公裁ヲ仰カント欲スルモ自ラ相當ノ印紙ヲ貼用スヘクトノコト規定シタルモノニシテ決シテ刑事ノ自首ト見做シ全免スヘシトノ法文ニアラス今假リニ一步ヲ讓リ同條ハ犯則處分以前ノモノヲモ包含スルト爲スモ是レ啻ニ民事上取揚ケ裁判スルノ効力ヲ有スルニ止レバ其犯則タルヲ不問ニ措クノ謂レ無キコト固ヨリ論ヲ竣クス然ルニ原裁判之ニ反シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フコアリ茲ニ之ヲ審按スルニ

上告人ニ於テハ罰金ノ半高チ告發人ニ賞與スルノ裁判言渡ヲ爲サ、ルハ不當ナリト申立ルト雖モ罰金ノ半高チ賞與スルハ裁判確定シ罰金ヲ徴収シタル後チ之ヲ處分ヲ爲スヘキ者ニ

シテ必シモ該裁判ト同時ニ言渡ヲ爲スヘキ者ニ非ラス又上告人ニ於テハ關野久藏カ貼用シタル證券印紙ハ山田爲一郎ノ調印シタル者ナレハ無効ナリト論辯スルモ該證書タル當初證券印稅規則ニ違背シ證券印紙ヲ貼用セシテ受取タル者ナレハ調印ノ効力如何ヲ問ハス證券印稅規則第四則第二條ニ照シ處斷スヘキ者トス然ルニ原裁判所ニ於テ證券印稅規則ニ違犯シタル者ニ非ストシ之ヲ不問ニ措キタルハ擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ニシテ附帶上告ノ旨趣正當ナリト判定ス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判所カ關野久藏ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スト左ノ如シ

關野久藏

右ノ理由ナルヲ以テ證券印稅規則第四則第三條明治十四年第七十二號布告ニ照シ脫稅高一圓ノ十倍則チ十圓ノ罰金ニ處スヘキ處酌量スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條刑法第九十條ニ依リ本刑ニ二等チ減シ五圓ノ罰金ニ處スル者也

○判文(受寄財産費用ノ件) 明治十五年十一月二日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

京都府上京區第九組葦堂町平民

鈴木

藤助

明治十五年三月

五十六年二月生

右藤助カ被告事件ニ付明治十五年六月廿八日京都輕罪裁判所於テ被告
 孫兵衛ヨリ職業ノ爲メ寄托ヲ受ケタル物件ヲ擅賣シタル者トシ刑法第三條第二項ニ依リ舊

法維犯律費用受寄財產條及改正七匪例圖刑法第三百九十五條トモ比照之仍未明治十四年第八十一號布告第二條ニ從ヒ重禁錮三十日ニ處スル旨言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補山田彌八郎カ上告ナシタル要旨ハ被告於テ本件上州糸五把ハ已ニ買得タルモノト主張シ即チ他人ノ動產ヲ冒認シテ之ヲ販賣シタル者ナレハ刑法第三百九十三條ニ照ス社至當ナルニ原裁判所於テ同法第三百九十五條等ヲ適用セシハ擬律其當ヲ得サルヲ以テ之カ破毀ヲ請求スト云フニ在リ被告藤助於テモ亦上告ヲ爲セリ其主旨ハ該五把ノ生系タルヤ純然タル被告ノ買得物ナレハ之ヲ賣却スルモ決テ法律ニ抵觸セス然ルコ之ヲ有罪ナリト判決セラレシハ不法ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

檢察官於テ原裁判ハ法律ノ誤用ニ係ル旨論スト雖モ原判定ノ如ク被告ノ行爲ハ他人ノ動產ヲ冒認シテ之ヲ販賣シタルモノニ非スシテ孫兵衛ヨリ寄托ヲ受ケタル物件ヲ擅賣費消シタル者ナレハ則チ之ヲ刑法第二百九十五條等ニ照シ處斷セシハ決シテ不當ト云フ可カラヌ將タ被告ガ非難スル點ハ治罪上承審官ニ任從シタル事實ノ判定ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルニ過サレハ是亦上告ノ原由ト爲スチ得サルヤ勿論假コ原書類ニ就テ視ルモ該物件ハ純然タル被告ノ買得物ナリトハ認メ難シ到底治罪法第四百十條各項規定ノ原由ナキヲ以テ本案上告ハ總テ相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ法リ該上告ハ俱ニ棄却スルモノナリ

第六百七十九號

○判文(証券印稅犯則) 明治十五年十一月三十日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

愛媛縣伊豫國新居郡大生院村平民 農業

野口 佐平

愛媛縣伊豫國新居郡大生院村平民

田坂 善右衛門

愛媛縣伊豫國新居郡大生院村平民 農業

大隅 元吉

證券印稅規則違犯被告事件ニ付明治十五年七月二十一日西條治安裁判所ニ於テ松山輕罪裁判所カ期滿免除ニ係ルヲ以テ各免訴スト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部武司重淵ハ上告セリ其要領ハ印紙犯則ノ如キハ繼續犯罪ニテ其發覺ノ日ヲ以テ起算スヘキモノナルニ印紙貼用セサル證書授受ノ日ヲ以テ犯罪ノ日トシ違警罪公訴期滿免除ノ例ニ從ヒ免訴スト言渡スルハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手大野口佐平田坂善右衛門大隅元吉ハ原裁判至當ナリトノ趣旨ヲ各自ニ答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
 證券印稅規則違犯ノ如キハ當初其犯則ノ起頭ヨリ其證書ノ効力アル時間中ヲ云フ「發覺ノ
 日迄繼續シテ犯罪ノ止マサルモノニテ即繼續犯罪ナリトス然ラハ則チ其發覺ノ日ヨリ期滿
 免除ヲ算計スヘキモノナルニ原裁判所ハ其證書受授ノ日ヲ以テ期滿免除ノ起頭トシ既ニ六
 ケ月ヲ經過シタルニ因リ被告佐平外二人ハ免訴ヲ言渡タルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定シ
 治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

大 隅 元 吉
 田 坂 善 右 衛 門
 野 口 佐 平

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及證據トニ據リ元吉善右衛門トノ間金二十圓以借用證
 書ヲ授受シ佐平ハ之カ證人トナリ各證券印稅規則ニ違犯セシコト明白ナリ之ヲ罰スル法律
 規則ハ

證券印稅規則第四則第二條ニ第一類二類三類ノ證書ニ印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ二
 十倍其證書ヲ受取リタル者ハ脫稅高十倍科料タルヘキ事
 同第九條證券印紙ヲ貼セサルカ云々證書ヘ證人ニ相立又ハ與書致シ候者ハ二十五圓以下
 ノ過料タルヘキ事トアルニ該ル
 而シテ其證書ヲ渡シタル元吉ハ脫稅高金二錢ノ二十倍其受取リタル善右衛門ハ脫稅高金

二錢ノ十倍ノ科料トナル
 因ニ大隅元吉ヲ金四十錢ノ科料ニ處シ田坂善右衛門ヲ金三十錢ノ科料ニ處シ野口佐平ヲ
 金十五錢ノ科料ニ處スル者也
 但シ原裁判入費ハ連帶シテ負擔スヘシ
 第六百八十號

○判文(証券印紙稅犯則ノ件) 明治十五年四月十一日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

島根縣出雲國神門郡芦渡村三百九十一番地平民

武田與五左衛門

同縣同郡同村三百九十三番地平民

小 村 岩 平

証券印稅規則違犯事件ニ付明治十五年三月十日松江輕罪裁判所ニ於テ治罪法第十二條及同
 法第三百五十八條第三百二十四條ニ依リ免訴スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ
 爲スノ要領ハ被告兩名カ明治十年十二月中金高五十圓ノ無印紙証書ヲ授受セシハ證券印稅
 規則ヲ犯シタルモノナリ而シテ其犯事タル繼續犯罪ニ係ルヲ以テ期滿免除スヘキモノニア

ラズ然レニ原裁判所カ該證書授受ノ當時ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算シ巴ニ三ヶ年ヲ經過
 タルヲ以テ其理由ト爲シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ
 本院檢事ハ其意見ヲ陳述シ且ツ附帶ノ上告ヲ爲セリ其要領ハ原裁判言渡ハ事實ノ理由ナク
 キ且被告事件ノ證據ヲ明示セサル不法ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
 茲ニ之ヲ按スルニ被告等カ犯則タル本件ノ證書ヲ授受セシ日ニ始マリ其効力ノ消滅ニ歸シ
 又ハ事ノ發覺スルニ至ル迄繼續スルモノナレハ公訴期滿免除ノ如キハ其最終ノ日ヨリ起算
 スヘキナリ而シテ本件訴訟書類ヲ檢閱スルニ被告等カ其犯則ノ起頭ハ明治十年十二月中ニ
 係ルト雖トモ明治十五年二月ニ至テ犯則ノ儘發覺セシヲ以テ公訴ノ期滿免除ヲ得タルモノ
 ト云フヲ得サルヤ論ヲ竣タズ然ルニ原裁判所於テ其起頭ノ日ヨリ起算シテ期滿免除ノ期
 限ヲ經過シタルモノトシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條
 第十項ノ場合ニ適セル上告ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ノ
 全部ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

武田與五 左衛門
 小 村 岩 平

被告兩名カ金高五十圓ノ借用證書ニ印紙ヲ貼用セヌシテ互ニ授受セシ事實ハ原裁判所ノ
 認定ト各證據ニ據リ明確ナリ其證書ハ明治七年第八十一號布告證券印稅規則第二則第二
 類ニ該リ五錢ノ印紙ヲ貼用スルヲ以テ至當トス因テ同規則第四則第二條ニ照シ岩平ハ脫
 稅高ノ二十倍科料金一圓ニ處シ與五左衛門ハ脫稅高ノ十倍科料金五十錢ニ處スル者也

第六百八十一號

○判文(證書變換ノ件) 明治十五年十一月七日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

新潟縣越後國刈羽郡宮ノ窪村第
 三十六番地平民農業

葉 賀

三四郎
 明治十五年四月
 四十三年五月

右三四郎カ被告事件ニ付明治十五年四月二十五日長岡輕罪裁判所豫審裁判官ニ於テ被告ハ
 權利義務ニ關スル證書ヲ變換シテ行使シタル證據充分ナリトシ全裁判所ニ移スト豫審終
 結言渡ニ對シ故障ヲ爲シタル所明治十五年五月二十日全裁判所會議局ニ於テ豫審言渡ヲ認
 可シ故障ノ趣意ハ採用セスト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ三四郎カ上告爲シタル要旨ハ
 事實ヲ舉示シテ覆審ヲ求ムルノ趣意ニ外ナラス原裁判所檢事高野兼答辨ノ要領ハ會議局ノ
 判決ハ至當ニシテ上告ノ理由ナキモノト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ
 意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本件上告ノ旨趣ハ事實ノ覆審ヲ求ムルモノニシテ治罪法第二百四十六條第三項以外ニ渡ル
 ナ以テ上告ヲ爲スノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ法リ該上告ヲ棄却スル
 者也

第六百八十二號

○判文(誣告ノ件) 明治十五年十一月廿九日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

大阪府大和國添上郡古市村平民

西岡平七

明治十五年六月
五十七年三月月

全村平民

中西新七

明治十五年六月
四十八年生月不知

右新七妻

中西

明治十五年六月
四十四年生月不知

誣告并ニ其幫助ヲ爲シタル被告事件ニ付明治十五年六月廿二日奈良輕罪裁判所ニ於テ西岡平七、刑法第三百五十五條第二項ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加ス中西新七全人妻「キミ」ニ刑法第九條ニ依リ正犯西岡平七ノ刑ニ一等ヲ減シ尙情ヲ量リ通シテ二等ヲ減シ三月以上一年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金範圍内ニ於テ各三月ノ重禁錮ニ處シ二圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ該講金ヲ竊取シタルハ中川林造ニ相違無キ證據ハ第一第二號證ヲ以明瞭ナルニ拘ハラス林造ハ其罪ヲ問ハレヌシテ却テ被告カ認告ノ罪ヲ得シハ單ニ證人ハ中川善平等數名ノ證言ニ因ルモノナレモ右証人ハ就モ告訴人ノ親屬ニシテ法律ノ証人タルヲ禁スル所ナレハ効無キモノナリ畢竟原裁判ハ事實ニ背反セルモノニテ不當ナリト云ニ在リ

對手人檢事補吉村信賢ハ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ハ至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル如左

上告ノ要旨ハ原裁判官カ採證ノ適否ヲ難論シテ事實ニ相違アリト云ト雖證人中川善平等ニ於ル被害者中川林造ノ親屬ナルモ林藏ニ於テ未タ民事原告人ト爲ル場合ニ非サレハ其證言ヲ採ルモ治罪法第八十一條ニ抵觸スルモノニ無之而猶事實ヲ認定ハ裁判官ノ權内ニシテ漫然他ヨリ侵スヲ得ス何ソトナレハ治罪法第四十六條ニ被告ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ夫レ如斯ナルカ故ニ原裁判ハ不適當ニ非ス依テ上告ノ趣旨相立ストス

第六百八十三號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十二月十三日上告
明治十六年五月廿八日申渡

長崎縣肥前國佐賀郡厘外村住

士族太郎弟

大塚

嬰 嬰 六

明治十五年八月

十六年一月

右嬰嬰六カ竊盜被告事件ニ付長崎輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ尙ホ二十歳未満ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮一月以上三年以下監視三月以上二年以下ノ範圍トナシ重禁錮一月監視五月ノ刑ヲ言渡シタル處同裁

判所檢事補黒川秀波ハ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ未丁年ナルヲ以テ本刑ヲ減輕セシハ適法ナルモ附加ノ監視ヲ減等シタルハ違法ナリト云フニ在リ本院檢事林三介ニ於テ原上告ニ對スル意見ヲ陳述シ且附帶上告ヲ爲セル要旨ハ刑法第三百六十六條ニ係ル本刑ヲ一等減輕スルハ一月十五日以上三年以下トナルヘキヲ一月以上三年以下ト爲シタルハ減等ノ範圍ヲ誤リタル裁判ナリト云フニアリ因テ之ヲ審按スルニ刑法第七十四條ニ云ク附加罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ストアリテ附加刑ヲ加重減輕スルハ罰金ノ外他ノ附加刑ヲ加減スル法章アルニアラス又同法第七十條ニ禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス云々同第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者云々二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアル此ノ本刑ヨリ一等ヲ減輕スルハ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ニ該ルヘキモノナリ然ルニ原裁判ハ此減等法ヲ誤リ一月以上三年以下ノ範圍ト爲シタルノミナラズ附加刑ノ監視ヲ減輕セシハ共ニ法律適用ヲ誤タル不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

大塚 袈 裳 六

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ確認スル處ニ依リ刑法第三百六十六條ニ照シ犯時二十歳未満ナルニ付同第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ範圍ト爲シ重禁錮二月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ從ヒ監視六月ヲ附加スルモノ也

第六百八十四號

○判文(私書偽造ノ件) 明治十五年十二月十二日上告
明治十六年五月廿八日申渡

鹿兒島縣日向國諸縣郡北俣村
士族雜業

黒

木

明治十五年六月
三十三年五月

右靜カ偽造證書事件ニ付明治十五年六月二十八日舊宮崎輕罪裁判所於テ刑法第二百十條第百十二條及ヒ同第二百十二條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告靜ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判言渡ハ證人ノ資格ヲ有セサル佐藤秀之ノ陳述ヲ證據ト爲シ被告カ請求スル證人ヲ許容セラレザリシハ違法ニシテ且ツ被告ハ無罪者ナルニ犯罪ノ證據ヲ示サスシテ有罪者ト爲シ又言渡書中約定書ハ十五年ヨリ十八年迄一月十五日限リニテ五ケ年ニ皆濟云々トアルモ其年數ハ四年ニシテ五年トナル可キノ理ナシ到底原裁判ハ審理疎漏ニシテ事實齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フコアリ對手人原檢察官於テハ原裁判相當ニシテ法律ニ抵觸ノ廉ナキ旨ヲ答辨セリ仍テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案事件ヲ審按スルニ原訴訟書類中佐藤秀之ハ證人トシテ訊問セシメノ記載アラサレハ事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽キ以テ判定ノ資料ニ供セルモノナレハ之ヲ違法ト爲ス夫得サルモノトス而メ被告ハ證人呼出ヲ請求スルモ許容セラレサル旨申立ルモ上告ニ付テノ陳辨ニ止

リ請求ノ事實ヲ見ルノ證ナシ然レハ即チ他ニ證人ヲ呼出サハルヲ以テ越權アリト云フヲ得
 ス只タ言渡書中約定書ハ明治十五年ヨリ十八年迄五ヶ年云々トアルハ十四年五月ヨリ十八
 年迄五ヶ年ト記載スヘキヲ之ヲ誤寫セルハ疎漏ヲ免レスト雖モ被告事件ニ付罪證ノ如何ニ
 影響ヲ及サレハ破毀ノ原由ト爲スヲ得ス然リ而メ事實理由ヲ付シ以テ刑法ニ從ヒ言渡シ
 タル裁判ニ對シ事實當否ノ論辯ヲ爲スニ過サレハ治罪法第四百十條各項上告ヲ破毀ヲ求
 ムルノ原由ナキモノト判定ス仍テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也
 第六百八十五號

○判文(郵便罰則違犯ノ件) 明治十五年十月三十一日上告
 明治十六年五月廿八日申渡

石川縣加賀國能美郡湊村居住平
 民雜業

太田 問平

郵便罰則違犯ニ付明治十五年五月十二日金澤輕罪裁判所ニ於テ右被告人カ郵便取扱役熊田
 八郎平ノ代理中書留郵便信書ヲ紛失ヒシメ事發覺前自首シタル所爲ニ對シ郵便罰則第五條
 及ヒ刑法第八十五條同第七十條ニ照依シ罰金貳拾圓ノ刑ヲ言渡シタリ
 被告太田問平ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ本件郵便信書ヲ紛失シタル犯則ニ付
 テハ明治十五年五月五日小松治安裁判所ニ開キタル金澤輕罪裁判所ニ於テ審理ノ上巳ニ罰
 金六圓ノ言渡ヲ受ケタルニ今又同一ノ事件ニ付金澤輕罪裁判所ニ於テ罰金貳拾圓ノ言渡ヲ

爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ
 對手人檢事別府景通ハ被告人カ金澤輕罪裁判所ニ於テ對質ノ際疑ニ本件犯則ハ處斷ヲ受ケ
 タル旨申立ヲ爲サスシテ再ヒ裁判ヲ受ケタルハ自己ノ承認ニ出タル者ト雖モ到底一罪ニ對
 シ兩刑ヲ科スヘキ理由ナケレハ原裁判破毀ヲ求ムトノ趣旨ヲ答辨セリ
 大審院檢事長渡邊驥ハ本件ニ對シ非常上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ本案被告事件ハ明治十五年
 五月五日小松治安裁判所ニ開キタル金澤輕罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判確定ノ後全事件ニ
 付明治十五年五月十二日金澤輕罪裁判所ニ於テ再ヒ裁判言渡ヲ爲シタリ右ハ一事件ニ付再
 度刑ノ言渡ヲ爲ス可ラサルハ固ヨリ法ノ原則ニシテ則通常ノ刑ヨリ重キ刑ヲ科シタル者ト
 言ハサルヲ得ス然ルニ被告人ノ上告ハ已ニ期限經過セシニ因リ其効ナク而シテ該裁判ハ已
 ニ確定セシナレハ治罪法第四百三十五條ニ基キ非常上告ヲ爲スト謂フニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ本件上告ハ其趣旨ノ
 當否ニ關セズ期限ヲ經過シ其權ヲ失ヒタル者ナレハ上告ノ成立サル者ナリ然レモ本院檢事
 長カ別ニ非常上告ヲ爲シタル趣意ニ原キ金澤輕罪裁判所ノ言渡ハ破毀アラントテ請求スト
 陳述セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ
 本件ハ明治十五年五月十二日上告申立ヲ爲シ同月十九日付ヲ以テ其趣意書及ヒ期限經過中
 斷願ト題シ上申書ヲ差出スト雖モ素ヨリ期限ヲ中斷スヘキ理由ナケレハ治罪法第四百十七
 條ノ定規ニ違背シ全法第三十條ニ依リ期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ
 失フ可シトアルニ照シ其上告ハ成立セサルニ付之ヲ棄却スル者トス而シテ本院檢事長ニ於

テ非常上告アリタルニ因リ之ヲ審案スルニ一罪ニ付二個ノ裁判言渡ヲ爲シタルハ則相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡タル場合ニ當リ而シテ其第一ノ裁判ハ業已ニ確定シ第二ノ裁判ハ上告無効ニ屬シタルハ治罪法第四百三十五條ニ從ヒ其職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタルハ允當ナリトス

第六百八十六號

○判文(地券犯則ノ件) 明治十五年十一月三十日上告
明治十六年五月廿九日申渡

平民農業 植田清兵衛

右ノ理由ニ因リ治罪法第四百三十五條第二項ニ則リ明治十五年五月十二日金澤輕罪裁判所ニ於テ太田間平ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也

地券書換失期被告事件ニ付明治十五年六月二十六日松江輕罪裁判所カ明治十三年第五十二號布告第五條ニ照シ過料金七十五錢ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補岸本重整ハ上告セリ其要領ハ被告清兵衛ハ未發前自首シタルモノナルニ自首輕減ヲ與ヘス且其科料金七十五錢ト言渡タルハ何レノ法文ニ憑リ算計セシヤ共ニ不法ナリト云フニアリ

對手人植田清兵衛ハ犯則ノコトハ自首セシモノナレハ刑法第三條ヲ適用シ舊法自首律ニ因リ全免ヲ受クヘキ筈ナルニ原裁判所ハ自首ヲ與ヘラレス檢察官上告モ亦充分ナラストノ趣旨

ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ

原裁判言渡ヲ見ルニ(被告)人ノ自首狀ニ據ルニ被告父利八死亡後家督相續ニ因テ讓與ヲ受ケタル地券六通名前書替ヲ怠リ云々トアリ而テ明治十三年第五十二號布告第五條ヲ適用セシハ允當ナルモ證印稅五倍ノ科料金七十五錢ト言渡タルハ計算ヲ誤リタルモノナリトス

何シトナレハ其書換ヲ怠リタル地券證ハ六通ニテニ通ニ三錢ツハ之ヲ五倍スレハ九十錢トナレハナリ其他被告清兵衛ハ自首ニ係ルハ認メナカラ刑法第八十五條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト認定シ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

植田清兵衛

原裁判言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ證據ニ據リ土地賣買讓リ渡シ規則ヲ違犯セシト明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律規則ハ

土地賣買讓渡規則第五條死亡失踪者家督相續云々六月以内戶長役場迄差出サハル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス證印稅則ニ代換受與云々券狀代價ノ有無ニ拘ハラス券狀一通ニ付三錢トストアルニ該ル

其書換ヲ怠リタル地券六通ノ證印稅金十八錢ノ五倍九十錢トナル

未發前自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ據リ二等ヲ減シ六十七錢五厘ノ科料トナル

因テ植田清兵衛ヲ六十七錢五厘ノ科料ニ處フル者也

○判文(印稅規則違反ノ件)明治十五年九月廿七日上告

明治十六年五月廿九日申渡

新潟縣越後國三島郡年友村平民

五 十 嵐 重 藏

明治十五年五月
七十二年四月

證券印稅規則違反事件ニ付明治十五年五月一日長岡輕罪裁判所ニ於テ證券印稅規則第四則
第二條ニ依リ罰金八十圓三十錢ヲ科スヘキヲ酌量減輕例ニ照シ一等ヲ減シ罰金六十圓十二
錢五厘ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告カ上告ヲ爲スノ要領ハ抑モ本件ノ證書タル被告
ニ於テ發起セシ無盡講初會ノ際假リニ預リ置キタルモノニシテ完備セル證書ニ非サルノミ
ナラス實際行使シタルノレナク該講モ遂ニ廢止ニ販シ全ク無効ノ證券ナレハ印紙ヲ貼用
セサル儘之ヲ受領スルモ其罪ヲ問フヘキ理由ナシト云フニ在リ
原檢察官答辨ノ要領ハ本件ノ證券ニ於ケル無盡講初會ノ當日負債主カ實印ヲ押捺シテ債主
即チ被告ト互ニ授受シタルモノナレハ毫モ完全ナラサル所アルヲ觀ス而シテ其使用シタル
ヤ明カナリ然ルニ其無盡ノ廢講ニ屬シタルヲ奇貨トシテ該證券ハ無効ノモノナリト云フハ
不當モ亦甚シト云フニ在リ
茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ之ヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ本件ノ證書タル實際行使シタルモノニ非サレハ未タ其効力ナキ證券ナルヲ以
テ無印紙ノ儘之ヲ受領スルモ犯則ノ限コアラスト云フト雖モ負債主ニ於テ實印押捺シテ之

ヲ交付セシメ被告ハ債主ノ資格ヲ以テ受領セシモノナレハ法律上有効ノ證券ニシテ印紙ヲ
貼用セサル儘之ヲ受領セシ以上ハ犯則ヲ以テ論スルノ限コアラスト云フヲ得ス故ニ原裁判
所カ證券印稅規則第二條ニ依リ處斷シタルハ至當ノ裁判ニシテ上告ノ原由ナキモノトス
因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スル者也

第六百八十八號

○判文(竊盜ノ件)明治十五年九月十八日上告

明治十五年六月廿九日申渡

和歌山縣和歌山區十番町十四番地平民

小 野 嘉 右 衛 門

明治十五年四月
七十一年

竊盜被告事件ニ付明治十五年四月二十七日和歌山輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條ヲ
適用シ未遂犯ナルヲ以テ本刑ニ二等ヲ減シ尙ホ情狀ヲ酌量シテ二等ヲ減シ拘留五日ニ處シ
監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ爲スノ要旨ハ原裁判所ニ於テ被
告カ所爲ヲ未遂犯罪ヲ以テ論シタルハ至當ナリト雖モ其減等ヲ以テ本刑トナサスシテ酌量
減輕ト之ヲ通減シ竊盜既遂犯ノ刑ニ四等ヲ減シ拘留五日ニ處シタルハ刑法第九十九條ニ違
背セル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ
本院檢事長渡邊驥カ附帶上告ヲ爲スノ要旨ハ原裁判所ノ認定シタル事實ニ依テ觀レハ被告
カ所爲タル竊盜ノ未遂犯ニアラスシテ其既遂タルヲ論テ俟タズ然ルニ原裁判所カ未遂犯ヲ
以テ論シ且ツ拘留五日ニ處シタルハ至當ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞

キ以テ判決スル左ノ如シ
 原裁判言渡ヲ視ルニ被告ハ明治十五年四月二十日和歌山區九番町徳義社學校建築所隣園内ニ忍ビ入楹木ニ本竊取シ其場ヲ離ル、僅ニ二三間ニシテ何人ノ來ル様子ニ付該木材ヲ拋棄シ立去ラントシテ巡查ニ看認メラレ拘引セラレタルモノナレハ其所爲タル已ニ竊盜ノ目的ヲ遂ケタルモノト謂ハサルヲ得ス抑モ竊盜ノ目的トハ竊取即チ他人ニ屬スル物件タルヲ知テ其事主ノ承諾ナク擅ニ之ヲ占有スルノ所爲是レナリ苟モ竊取ノ行爲アルニ於テハ其竊取ニ係ル物件ヲ運搬シ若クハ之レヲ使用スル等其像期スル所ノ目的ヲ遂ケタルト否トニ關セテ竊盜既遂ノ罪成立スヘキハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原裁判所カ竊盜ノ未遂犯ヲ以テ論シ情狀ヲ酌量シ其既遂犯ノ刑ニ通シテ四等ヲ減シ拘留五日ニ處シタルハ刑法第九十九條ノ減等法ニ違背スルノミナラズ未遂犯ノ義解ヲ誤リ爲ノニ擬律ノ錯誤ヲ來シタル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ更ラニ左ノ裁判ヲ言渡スモン也

小野 嘉 右衛門

前件ノ理由ナルヲ以テ刑法第三百六十六條ニ照ラシ重禁錮二月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキモノナルモ情狀原諒スヘキ所アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ二月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮一月ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ依リ監視六月ヲ付ス

○判文(謀殺未遂ノ件)

明治十五年十一月十六日上告
明治十六年五月廿九日申渡

山形縣羽前國南村山郡下樅澤村

平民代吉長男土方營業

須 藤 市 藏

明治十五年七月
三十七才六月

故殺未遂及ヒ毆傷竊盜ノ被告事件ニ付明治十五年七月十五日山形重罪裁判所ニ於テ右被告市藏ノ所爲ヲ審判シ數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ刑法第二百九十四條全第百十二條ニ照シ有期徒刑十五年ニ處斷セシ處被告人及ヒ檢察官俱ニ上告ヲ爲シタリト被告須藤市藏カ上告ノ要領ハ被告人カ舉動タルヤ原ト素ト庄司榮藏カ懲役中全人妻「トチ」ト姦通シ爲メニ本妻ヲ離別シ結婚ヲ約シ置業藏滿期ノ後「トチ」ヨリ實ヲ告ケ離別ヲ請フモ榮藏之ヲ肯セサルニ因リ全人ヲ脅迫シ其妻ヲ離別セシメ前約ヲ遂ク可キ癡情ニ出タル者マシテ固ヨリ情交親密ナル「トチ」ヲ殺害ス可キ發念ノアル可キ理由ナク至クニ時無謀ニモ脅迫ノ行ヒテ爲シタル者ナレハ刑法第三百二十六條及ヒ第三百二十七條ヲ適用セラレヘキ犯罪ナルニ刑法第二百九十四條ニ依リ處斷セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所檢事納富利邦カ上告ノ要領ハ原裁判ヲ不法トスル三個ノ理由アリ其一被告人カ所爲ハ俄然殺意ヲ生シタル者ニ非スシテ姦婦カ前約ヲ變更シタル者トノ疑感ヨリ痴情抑止スル能ハス輩口「トチ」ヲ殺シ鬱憤ヲ散セント他ノ兇器ヲ竊取シ之ヲ懷ロコ藏メ故ラニ酒力ヲ借テ面部ヲ覆ヒ「トチ」ガ家ニ突入シタルノ形蹟ハ心ニ謀リ決意シタル者ト言ハ之シテ何ソ

對乃預被告人ハ謀殺ノ犯狀明確ナル者ナルヲ原裁判ハ故殺ノ罪ト爲シタリ其ニ庄司榮藏カ
 被告人ヲ取押シテ負傷セシムル其罪被告人ニ在リ即チ刑法第三百二條ニ適スル者ニシテ其
 三巡查松平圓治臨檢ノ際被告人ハ槌ヲ以テトチニ擲付シテ誤テ圓治ノ傷ヲ成シ其
 法第三百四條全第三百二十九條ニ適スル者ナリ然ルニ刑法第二條ニ依テ不問ニ付タリ以テ
 之理由ハ俱ニ擬律ノ錯誤ヲ不當ノ裁判ナリト思量シ破毀ヲ添ムヲ謂フニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依テ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ原裁判言渡書ニ被告人
 ガ所爲ハ徹頭徹尾謀殺ノ事實ヲ掲載シ來リテ當時豫謀ノ成蹟ヲ示シテ云々故殺ノ未遂犯ナリ
 者ニ認定ス云々ト言渡シタルハ即チ事實ノ理由齟齬シタリ裁判ナリトス抑被告人カ豫謀ヲ
 成蹟タルヤ會テ「トチ」ヲ打擲シ妄執ヲ斷念シタリト明言シ再ヒ憤懣ヲ起シ故チ兇器ヲ携
 帶シ「トチ」ガ居室ニ擅入シタルハ謀殺ノ未遂犯ト言ハスニテ何シヤ之レヲ証人半田「トチ」阿
 久原長右衛門等ガ證言ニ照スニ事實ニ符合シテ明瞭ナル然レバ原裁判所ハ刑法第三百九十
 四條ニ適用シ加之庄司榮藏ニ負傷シ巡查松平圓治ヲ誤傷シタルハ刑法第三百二條全第三百
 四條全第三百二十九條ニ問フ可キ犯罪ナルヲ刑法第二條ニ依リ其罪ヲ問ハサルハ擬律錯誤ガ
 裁判ナリ然レド別ニ事實理由ノ齟齬アルニ因リ到底原裁判ハ破毀シテ更ニ他ノ全等ノ裁判
 所ニ移シ處斷セシメラレンコト望ムト陳述シ被告代理人野澤鷄一ハ檢察官ノ上告本院檢事
 ノ意見ニ對シ謀殺ナリヤ故殺ナリヤナ問題トシ先少之レガ答辨ヲ爲サシ抑謀殺トハ豫謀ノ
 成蹟顯然タル者ヲ指稱スル者ニシテ假ニ原裁判所ガ言渡シタル判決ニ因リ之ヲ論辨センコ
 被告人カ所爲ハ姦婦「トチ」ヲ打擲シタルヨリ「トチ」カ家宅ニ侵入シタル迄數日間豫謀間斷

ナク熱度蒸騰シ時ニ酒力ヲ添ヘ憤怨ノ氣抑止スル能ハサルハ被告人カ如キ不學無識ナル下
 等社會ノ常情ニシテ思慮辨別ナク忽然殺意ヲ起シタル者ト云フ可キナリ是レ原裁判所ガ故
 殺ナリト斷定シタル所以ナル可シ然レド被告人カ所爲ハ謀殺ニモ故殺ニモ非スニ云々乃チ止
 告趣意書ニ登載シタル如ク已ニ「トチ」ト夫婦ヲランコト約シ本妻ヲモ離別シタル場合何ノ
 故アリテカ「トチ」ヲ殺ス可キ意思アラン之レ當ニ益ナキノミナラス其素望ヲ失ヘル者ナリ
 兇器ヲ携帶シタリト言ヘハ豫謀ノ成蹟アルニ似タリト雖モ吉川成時ガ許ニ至リ獨酌ノ末偶
 然其眼前ニ在タル庖丁ヲ携取シタル迄ニシテ決テ豫謀ノ所爲ト云フ可ラス而シテ晝間殊ニ
 衆人ノ中ニ踏込ミタルハ固ヨリ殺害ノ目的ヲ達シ得可キ者ニ非サルヤ言テ俟ス又殺害ス可
 キ念慮ニモ非サルナリ其証ハ半田「トチ」ガ調書中ニ榮藏ハ牢エテモ入レナケレハナラス云
 々等ニ語アルヲ以テ單ニ榮藏等ヲ脅迫畏懼シ以テ其妻「トチ」ヲ離別セシメントノ輕舉ニ出
 タルコト判然知得スルニ足ル可シ此所爲ハ刑法第三百二十六條及ヒ第三百二十七條ニ依リ處
 斷アル可キヲ故殺罪ヲ以テ論シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ而シテ庄司榮藏及ヒ巡查松平圓
 治ヲ負傷セシムル固ヨリ罪ヲ犯スノ意アルニ非ス全ク渠等自ラ其衝ニ當リタル不幸ニ出タル
 者ナレハ刑法第二條ニ適用シタルハ相當ナリト辯護セリ仍テ裁判スルコト左ノ如シ
 原裁判所ガ審判シタル言渡書中被告人ニ於テ云々ヨリ吉川成時所有ノ出刃及庖丁ヲ竊カニ取
 出シ午後五時頃榮藏ノ寓居ニ至リ戸口ヲ開キ「トチ」ハ居ルカト聲ガケ懐口ヨリ出刃及庖丁ヲ
 取出シ「トチ」ヲ目懸ケテ切付メ下セシメ云々右等ノ事實ハ証人庄司榮藏等ノ陳述云々其証
 憑明確ナリトス下豫謀ノ成蹟アルガ如ク事實ヲ掲載シ而シテ其所爲タルヤ當時豫謀ノ成蹟

ナト云ヒ又ハ忽チ激發シタル憤怒自ラ制シ難ク寧ロトチテ殺害シテ斷念セント決心シタル其殺意ノ靜止スル進テ此舉ニ及ヒタル者ト云フハ前後撞着シ即チ治罪法第四百十條第九項ニ所謂事實ノ理由齟齬シタル不法ノ裁判タルヲ免レヌ之ヲ要スルニ原裁判言渡書及ヒ證人半田トエカ原裁判所豫審廷ニ於テ爲シタル陳述ヲ照查スレハ豫メ脅迫ス可キノ念慮アラザルコトハ知得スルニ足ルモ其謀殺若クハ故殺ナリヤ否ニ至テハ頗ル疑讞ニ涉リ特ニ審究セザル可ラサル要點ナリトス而シテ被告人カ庄司榮藏及ヒ巡查松下圓治ニ傷負ハセタルハ刑法第二條ニ依リ罰セサル所爲ト云フ法得ス依テ原裁判ハ治罪法第四百十條第九項第十項ニ相當スル上告ノ理由アル者トス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ山形重罪裁判所カ須藤市藏ニ言渡タル裁判ニ全部ヲ破毀シ更ニ宮城重罪裁判所ニ移シ審判セシムルモノ也

第六百九十號

○判文(無届不參ノ件) 明治十五年十一月一日上告
 明治十六年五月廿九日申渡

石川縣加賀國能美郡小松京町平民

三井保右衛門

右保右衛門カ無届不參被告事件ニ付明治十五年十月二日金澤始審裁判所ニ於テ明治十年第五號布告ニ依リ科料金壹圓ニ處スト言渡シタルヲ不當トシ被告カ上告ヲ爲スノ要領ハ明治十五年九月廿一日貸金請求ノ訴ヲ爲シ該訴ノ被告ハ酢屋又平外一名ニシテ被告等カ答辯ヲ

出差スルニ期日九月廿七日ナルモ被告等ニ於テ事故アリ十月二日迄答書延期願ノ相談ニ因リ承諾シ連印ヲ以テ延期願書ヲ呈シ置マレハ民事原告タル三井保右衛門於十月二日出頭セサルトモ無届不參ヲ以テ處分セラルヘキモノニアラスト云フニ在リ

原裁判所檢事別府景通カ答辯ノ要領ハ明治十五年九月廿八日差出シタル答書延期願書ハ被告答書ノ猶豫ヲ出願セシモノニテ原告カ其當日出頭スヘキコトヲ記載シアルニ非ズ又金澤始審裁判所ニ於テ民事訴訟ニ付被告カ答書ヲ差出ス期日ノ翌日原告ハ出頭スヘキ旨ヲ相達シ受書取立置ヘキ定例ナルニ該件ニ付テハ其受書サヘ取立アルニ非ズ然ルニ其原告八則三井保右衛門ニ對シ被告答辯ノ期日出頭セサルトテ無届不參ヲ以テ論シタルハ不當ナリト云フニ在リ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ

本件及如キハ明治十年第五號布告ニ依リ特別ノ處分ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリト雖モ被告保右衛門カ原告タル民事訴訟ニ付原裁判所へ出頭スヘキ期日ハ其答書ノ翌日即チ明治十五年十月三日ナリ然ルニ原裁判所カ十月二日ニ出頭セサルヲ以テ不參者トシ明治十年第五號布告ニ依リ處斷シタルハ原檢察官論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判所ノ言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ無罪ノ言渡ヲ爲スモノ也

第六百九十壹號

○判文(酒造犯則ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
 明治十六年五月廿九日申渡

山口縣長門國大津郡東深川村第 二百九十番地平民

酒造稅則違犯被告事件。付明治十五年四月二十六日山口輕罪裁判所。於刑法第五條。依

り明治十三年第四十號布告第二章第三條第四章第二十九條明治十四年第七十二號公布第三

條。依り酒造免許稅二倍ノ罰金六十圓ニ處ス但製造器械ヲ沒收ス言渡シタル裁判ニ對シ

檢事補新山芳辰ハ酒造稅則第四章第二十九條ヲ適用シ酒造免許稅二倍以金額六十圓ノ罰金

ニ處シ併セテ製造器械ヲ沒收シタルハ至當ナルモ其釀造酒三石六斗六升三合ノ沒收ヲ言渡

サレハ不當ニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ。檢事補新山芳辰ハ其言渡シタル言渡シタル

對手人吉富龜三ハ答辯セテ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ

之ヲ審按スルニ。大審院。檢事補新山芳辰ノ言渡シタル言渡シタル言渡シタル言渡シタル

酒造稅則第四章第二十九條ニ免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及製造器械共

沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ云々トテ。檢事補新山芳辰ハ其酒類ヲモ併セテ之ヲ沒收ス

然ルニ原裁判所カ前段ノ如ク之ヲ罰金及ヒ器械ヲ沒收ニ止メ酒類沒收以言渡シ言及

不當ニ付治罪法第四百三十一條ニ依リ其一部ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判ス此左

如ク。大審院。檢事補新山芳辰ノ言渡シタル言渡シタル言渡シタル言渡シタル

右ノ理由ナルヲ以被告カ無鑑札ニテ釀造シタル清酒貳石六斗六升三合ヲ沒收スルモ也

第六百九十二號。明治十五年四月二十九日。廣島縣備後國御調郡三原町千六

○判文(地券犯則ノ件) 明治十五年四月四日 上告 明治十六年五月二十九日 申渡

廣島縣備後國御調郡三原町千六

百三十四番地 平民

山 野 カ ナ

地券書換失期被告事件。付明治十五年二月卅一日尾道輕罪裁判所。於テ被告ハ地券書換規

則ニ違背シタル者トシテ所犯明治十三年第五十三號布告及七明治十四年第三十號布告

頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第三項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ其輕キ明治八年第百五十

三號布告及七明治九年地租改正事務局甲第一號達及七明治十四年第七十二號布告ニ從ヒ處

斷シタルヲ不當トシ檢事補永井次郎カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ地券書換違犯ノ如キハ繼

續犯罪ヲ以テ其起頭ハ明治十二年七月中ニ係ルト雖モ發覺ノ日ハ明治十四年十月三十

三日ナルニ依リ明治十三年第五十三號及十四年第三十號布告ノ効力ヲ生シタル當時ハ則犯

罪中ニシテ所犯該兩號布告以前ニ在リト云フヲ得サルカ故ニ原裁判所カ明治九年地租改

正事務局甲第一號達及七廢止ニ屬スル明治八年第百五十三號布告ニ依リ處斷シタルヲ不

當ナリト云フニ在リ。檢事補永井次郎カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ地券書換違犯ノ如キハ繼

本院檢事長渡邊驥カ附帶上告ヲ爲スノ要領ハ本件ハ明治十三年第五十三號及十四年第三十

號布告ニ依リ地券二枚証印稅三錢五倍則チ拾五錢ノ科料ニ該ルヘキモノナルモ地券書換

願ニ添付シタル愆期事由上伸書ハ則チ司法警察官ノ權ヲ有スル當該官自首シタルモノト

同一般ナルヲ以テ刑法第八十五條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減スヘキモノト云フニ在リ茲ニ本院

檢事ノ意見ヲ聞キ以テ之ヲ判決スル左ノ如シ
 地券書換違犯ノ如キハ勿論繼續犯罪ニ係ルヲ以テ其最終ノ當時現行ノ法律ニ照シ處斷スル
 キモノトス而シテ本件訴訟書類ヲ檢閱スルニ被告カ家督相續ニ因リ讓受ケタル地券一枚之
 書換ヲ等閑ニ付シテ其期限ヲ失シタルハ明治十二年七月申ニ係ルト雖モ其事ノ犯則ノ儘發
 覺セシハ明治十四年十月廿二日ニ在ルヲ以テ明治十三年第五十二號及十四年第三十號布告
 實施以前ニ係ル犯罪ト謂フヲ得サルヤ論ヲ竣タス然ラハ則チ原裁判所カ新舊ノ法ヲ比照シ
 其輕キ舊規則ニ依リ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス又被告カ御調郡役所ニ差出シタル上
 仰書ハ附帶上告論旨ノ如ク自首ノ効力ヲ有スルモノナルニ原裁判所カ自首減等ヲ與ヘサル
 ハ是亦擬律ノ錯誤ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本
 院ニ於テ更ニ左ノ裁判言渡ヲ爲スモノ也

前顯ノ理由ナルヲ以テ明治十三年第五十二號及十四年第三十號布告ニ照シ地券壹通ノ證
 印稅三錢ノ五倍則チ科料金拾五錢ニ處スベキモ自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ依リ本
 刑ニ一等減科料金拾壹錢ニ處スルモノトス
 第六百九十三號

○判文(新聞條例違犯ノ件) 明治十五年十一月三十日 上告
 明治十六年五月廿九日 申渡
 岡山縣備中國窪屋郡倉敷村平民
 岡山區西中山下岡山毎日新聞社

假編輯長 三宅彌四郎
 新聞紙條例違犯被告事件ニ付明治十五年六月二十日岡山輕罪裁判所カ公判辯論中被告彌四
 郎カ公証受理スヘカラサルトノ申立ヲ棄却セシメ不法ナリトシ上告セシ要領ハ新聞紙條例
 第一條凡條例ニ違フモノハ府縣廳ヨリ地方ノ法司ニ付シ罪ヲ論ストアリ岡山縣令ヨリ法司
 ニ付スル適當ノ治罪手續ナルニ警部岸本依信ハ其職權ヲ以テ爲セル告發ナレハ受理スヘカ
 ラサル公訴ナルニ裁判官ハ何等ノ理由ヲモ付セス漫然縣令ノ自ラスルト否トニ關ハラス其
 効アルモノトシ該申立ヲ棄却セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事友野信平ハ新聞紙條例第一條ノ割註ハ特ニ地方官ノ職務ニ對シ注意ヲ加ヘタル
 文意ニテ地方官ノ告發アルニアラサレバ其罪ヲ論スルコトヲ得スト禁令セシニアラス警部
 ハ其ノ職掌專ラ斯ノ如キ事件ヲ擔當スル主任者ニテ是レ即チ地方廳ヨリ法司ニ付シタルモ
 ント云ハスシテ何ソヤ到底上告趣旨ハ其當ヲ得サルモノト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
 新聞紙條例第一條中允准ヲ得スシテ發行スルモノハ法司ニ付シテ罪ヲ論シトアル下ニ割註
 ニ凡條例ニ違フモノハ府縣廳ヨリ地方ノ法司ニ付シ罪ヲ論ストアルハ地方官ノ職務中特ニ
 注意ヲ加ヘタルモノニテ必シモ地方官告發ヲ待チ其罪ヲ治ムベキヲ謂ヒタルモノニアラサ
 ルナリ又假リニ上告辯論ノ如ク地方官ヲ經由スベキモノトスルモ警部ノ職務ハ則チ縣令職

務ノ一部分ニテ何ソ縣令ノ自カラ爲スト警部ノ職權ニ因リ爲スト異ナルノ理スレバ因テ上
告ノ趣旨ハ相立タズ
右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第六百九十四號

○判文(囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル件)明治十五年十一月一日上告
明治十六年五月廿九日申渡

山梨縣西山梨郡橋町山梨縣監獄

本署詰押丁

細

田

榮

之

明治十五年六月

四十二年三月

右榮之カ被告事件ニ付明治十五年六月二十三日甲府輕罪裁判所ニ於テ刑法第五百十條第一
項ニ依リ罰金ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ原檢察官カ上告ヲ爲スノ要領ハ被告カ懲役七年
ノ囚徒内藤松之助ノ逃走ヲ覺ラサルノ罪ハ刑法第五百十條第二項ニ(若シ重罪ノ刑ニ處セ
ラレタル囚徒ニ係ル時ハ)云々トアルニ依リ處斷スヘキモノナルニ原裁判所カ其第一項ニ
依リ處斷シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニアリ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左
ノ如シ刑法第五百十條第二項ハ新法ニ於テ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ノ逃走スルヲ覺ラ
サルノ罪アルモノニ適用スヘキハ論ヲ俟タスト雖モ舊法ニ在リテハ罪種ノ區別ナク且其刑
名ニ於ケルモ輕重ノ別ナキヲ以テ舊法中罪ヲ受ケタル者逃走シタル場合ニ於テハ其罪質ノ
如何ニ關セズ其逃走スルヲ覺ラサルノ罪アル者ハ刑法第五百十條第二項ニ依リ處斷スヘキ

ナリ故ニ其第二項ニ依リ處斷スヘシトノ上告論旨ハ其當ヲ失シタルモノトス因テ治罪法第
四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第六百九十五號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十六年一月十七日上告
明治十六年五月廿九日申渡

東京府芝區芝公園地内第二十六

號瑞華院寄留

鹿兒高縣士族

肥

後

盛

貞

明治十五年十月

三十六年

詐欺取財ノ被告事件ニ付明治十五年十月二日東京輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ニ對シ
犯罪ノ証憑充分ナリナルニ付治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタリ原裁判
所檢事補金田清次郎ハ該裁判ヲ不法トシ上告ヲナシタルノ要領ハ被告肥後盛貞カ犯罪ハ東
京集治監奉職中本監用材買上委員トシテ千葉縣下ノ出張シ高橋峯吉松本與七ヨリ買上タル
木材代價金千三百圓ノ約定ナルヲ金千八百圓ト變造シテ其五百圓ヲ詐取シタルノ事實ニシ
テ其實上証書ノ變造タルコトハ原裁判官モ亦之ヲ判定セリ而シテ盛貞カ高橋峯吉ヲ教令シテ
變造セシメタルコトハ盛貞妻トシテカ峯吉ヨリ該金ヲ受取タルト買上代價ノ金千三百圓ニ確
定シ其實上証書ニ戸長川俣常三郎カ與書セシ副本ニ徴シテ明カナルト明治十四年十二月二
十八日金千八百圓ヲ受取証ヲ松本與七ヨリ盛貞ニ渡シタリト云ラモ當時與七ハ東京ニアラサ

ルノ證アルトニ因リ盛貞カ犯狀明瞭ナリ然ルニ原裁判所ハ峯吉等ノ陳述ハ信ヲ措クニ足ラ
 ス與七カ東京ニ在ラサルコトハ反証ナシト云フヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ノ裁判ナ
 リト云フニ在リ
 對手人肥後盛貞ハ星亨ヲ代言人ト定メ本案答辨ヲ爲スニ先チ一ノ判決ヲ請ハント欲スルノ
 要點アル旨ヲ述ヘ其趣旨ヲ開載セリ其概意ニ云ク原告官カ上告ヲ申立テ爲シタルハ明治十
 五年十月六日ニ在テ其趣意書ヲ差出シタル日付ハ十月十一日トアレモ對手人カ趣意書ノ送
 達ヲ受ケタルハ十月十四日ニ在リ治罪法ノ明文ニ依レハ上告趣意書ハ上告申立テ爲シタル
 ヲリ五日内ニ差出シ書記局ハ之ヲ受取タルヨリ二十四時内ニ對手人ニ送達ス可キナリ然ル
 チ期限經過ノ後チ被告人ニ送達アリタルヲ以テ之ヲ見レハ其失錯ハ原告官ニアルト書記局
 ニ在ルトチ問ハス均ク一官衙ノ同僚タレハ對手人即チ人民ニ對シテハ其責ヲ免レテ隨テ上告
 ノ効ナキ者ト思考ス今假ニ効アル者ト見做シ本案ニ對シ上告ノ不當ナルヲ論辨セシニ抑モ
 盛貞妻「トシ」カ金六百圓ヲ高橋峯吉ヨリ受取タルモ其金額ハ盛貞ヨリ松本與七ニ渡シ同人
 カ手書シタル受取証アルヲ以テ明確ナリ又木材代價金千三百圓ト戸長役場ニ登錄アルモ後
 ニ峯吉ヨリ直上ケノ歎願ヲ爲シ之ヲ聞届ケ更ニ千八百圓ニ改約シタル者ナレハ盛貞カ詐欺
 ノ所爲ヲ教令セサルコト明カナリ峯吉カ心術ヲ推測スレハ峯吉ハ之ヲ與七ニ告ケス其増額ハ
 己レ獨リ占得センカ爲メ戸長役場ノ簿冊ヲモ更正セサル者ナルヘシ之ヲ更正セサルハ其事
 ノ發覺セシコト恐レテナリ如斯峯吉カ奸策ヲ爲シタリ逆盛貞カ教令ニ出テタリト云フハ頗
 ル解シ能ハサルノミナラス原告官カ論據トスル所ノ高橋峯吉吉田好義松本與七等カ申立ハ

信用スヘカラス如何トナレハ本件盛貞チ犯罪ナリト決スルキハ峯吉ハ証書變換シタル己レ
 ノ罪ヲ遁レント欲シ與七ハ金六百圓ヲ己レノ所得トスルノ利益アリ好義ハ損害要償若クハ
 誣告ノ訴ヲ起サンコト恐ル、チ以テナリ以上ノ事由ニ付原裁判ハ至當ニシテ且檢察官ノ上
 告ハ法律ニ違反アリト云フニ非スシテ事實ノ論旨ニ止ル者ナレハ本件上告ハ不當ナル旨ヲ
 答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ被告代言人ハ上告趣
 意書ノ送達遲延ニ對シ本案ニ先チ判決ヲ求ムト雖モ原檢察官ノ上告申立及ヒ其趣意書ハ治
 罪法ニ定メタル限期内ニ差出シタルコト其書面ニ明記アレハ期限經過シタル者ト云フ可ラス
 假令對手人ニ送達ノ日限遲延シタリトズルモ佗ノ失誤ノ爲メ重大ノ訴權ヲ失フノ理由アル
 コナケレハ其請求ハ無効ナルヘシ茲ニ本案ニ就キ原檢察官ノ上告ハ事實ノ點ニ涉ルチ以テ
 原由ナキ者ト思考スルニ因リ棄却アル可シ而シテ本官ニ於テ附帶上告ヲ爲スノ趣意アリ其
 要旨ハ原裁判所ハ已ニ死亡シタル高橋峯吉ニ對シ詐欺取財ノ犯罪アル者ト認定シタルハ治
 罪法第四百十條第十一項ニ因リ上告ノ原由アル者ト信ス如何ントナレハ未ダ裁判確定セサ
 ル前ニ在テハ其疑フヘキ事蹟アルモ無罪純白ヲ以テ待ツハ法律ノ原則ニシテ峯吉ニ對シ詐
 欺取財犯ト公衆ニ明言シタルハ同人ヲ傷ケタル越權之處分ナリトス或ハ說ヲ爲ス者アリテ
 曰峯吉ハ已ニ自首シタリ何ゾ犯罪ナキト云フヲ得ンヤ此說固ヨリ取ルニ足ラス如何トナレ
 ハ凡罪ノ有無ハ諸般ノ徵憑ニ因ル者ニシテ自首スレハ必ず有罪者ト連テス可ラサレハナリ
 且參考ノ爲メ事蹟ニ就テ論及センニ盛貞カ用材代價千三百圓ニテ買上タルコト決シ後チ千

八百圓ニ直上ケテ承諾シタリ又現ニ千八百圓ノ証書ヲ目撃シタル旨終始申立ルト雖モ果シテ然リトセハ言渡中峯吉チシテ証書ヲ變造シ金五百圓ヲ詐取セシメ云々ノ理由生ズ可キ苦ナシト如何ナレハ買主ニ於テ承諾シタル以上ハ正當ノ賣買ニシテ詐欺ニ非レハナリ又峯吉ニ於テ証書ヲ變造シ五百圓ヲ詐取セシ者トスレハ盛貞カ千八百圓ニテ買上ノコトヲ承諾シ又ハ該証書ヲ見ル可キ筈ナシ畢竟盛貞カ千八百圓ニテ買上ノコトヲ承諾シ又ハ該証書ヲ慥カニ見タリト陳述シテ動カサルハ峯吉カ詐取セシノ事實ヲ吐露セハ已レ共犯セシコトヲ發露セシコトヲ恐レ正當賣買ノ如ク彌縫セントスル者ニ非スシテ何ツヤ然ラサレハ事實ヲ吐露スヘキ筈ナリ又松本與七カ請取書ニアル日付ノ當時東京ニ在ラサルコトハ會根松兵衛ノ証言等ニテ自ラ明白ナリ此等ノ事實ヲ照査スレハ盛貞カ詐欺ニ出テタルコト太々著明ナリ証憑ノ取捨ハ裁判官ニ任ズト雖モ如斯審理ヲ盡サズシテ妄斷ナク下スハ治罪法第四百十六條ヲ濫用シ專恣ノ處分ナリト云フモ過言ニ非ルナリ以上ノ理由ニ因リ到底原裁判ハ破毀アテシコトヲ望ムト陳述シ被告代官人星亨ハ上告趣意書ノ期限經過シタルハ官ノ失措ニシテ官ノ失措ハ人民ニ對シハ上告官モ亦其一部分ノ權利ヲ失ヘル者ナレハ豫メ判決ヲ乞フト云フ所以ナリ又本案ニ對シ大審院檢事カ原上告ハ事實ノ點ニ涉ルチ以テ棄却アルヘシトノ意見ハ最も感服ナル所ナリ是レハ被告ハ答辨書ニ局ヲ結ヒタル所以ナリ然リ而シテ附帶上告ニ對シ論駁セシニ高橋峯吉チ有罪視シタルハ死者ヲ傷ケタル越權ノ處分ナリト云フト雖モ峰吉ハ自ラ証書ヲ變造シタリト出首シ其犯罪ハ甘受スル所ナリ若シ峰吉カ自首ハ他ノ誘導ニ出タルカ事實ニ適合セサルカ自ラ作意シタルカニ在レハ其効ナカルヘシト雖モ其三個ノ理由ナケ

レハ確然タル自首ノ効アル者トス故ニ原裁判所カ之ヲ傷ケタリト云フ可ラス假ニ一步ヲ讓リ峰吉ノ名譽ニ害アリトスルモ固ヨリ裁判官カ有心故造ヲ以テ渠レヲ毀傷セサル以上ハ越權トハ云フ可ラス或ハ之ヲ傷ケタリトスルモ原言渡ノ事實ヲ動スノ場合アルコトナシ況ヤ峯吉ハ現ニ自首シタル犯罪者ナルニ於テオヤ斯ク論シ來レハ附帶上告モ亦破摧シタルコト信スレハ大審院宜シク上告附帶上告共ニ棄却アルヘシトノ趣旨ヲ以テ答辨ノ趣意ヲ擴張辨護セリ依テ判決スルコト左ノ如シ

被告代官人ニ於テ檢察官ノ上告趣意書ヲ對手人ニ送達アリタルハ明治十五年十月十四日ニシテ其趣意書ヲ差出シタル日付ヨリ起算スレバ己ニ期限ヲ經過シ上告ノ成立サル旨答辯スル雖モ原裁判所檢察官ノ上告申立及ヒ其趣意書ヲ差出シタル日子ハ治罪法第四百十四條及ヒ第四百十七條第一項ニ則リ其手續ヲ行フタル次第ナレハ當然上告ノ成立タル者ニシテ假令一部ノ手續ニ失錯アルモ之カ爲メ訴權ヲ失フノ理由ナキ者トス又附帶上告ノ旨趣ハ原裁判所ニ於テ既ニ死亡シタル高橋峯吉ニ對シ犯罪視セリ是未タ裁判確定セサル前ニ在テハ無罪純白ヲ以テ被告人ヲ待ツヘキノ原則ニ背馳シタリト云フニ在リ然レトモ公訴事件ノ部内ニ於テ各自ノ所爲ヲ認定スルハ承審官ノ權内ニ在リト爲ス且原裁判所ノ判文ヲ見ルニ峯吉チシテ証書ヲ偽造シ云々ノ文字ハ其犯罪ヲ認視シタル者ニアラス即チ被告人肥後盛貞ノ所爲ヲ認定スルニ際シ遂ニ故高橋峯吉カ所爲ヲ審明シタルニ止リ其犯罪ヲ指摘シタル者ト全日ニシテ論テ可カラサルナリ抑本訴被告事件ノ基礎ハ高橋峯吉カ明治十四年十二月二十三日東京集治監ニ差出シタル金千八百圓賣上證書金額ノ文字ハ其初メ千三百圓ナリト判定セ

リ然ルニ峯吉ニ於テ之ヲ書直シ其額外ノ金五百圓ヲ詐取シタルニ在リ而シテ本訴上告ノ要
 領ハ被告ハ肥後盛貞カ此所爲ニ關與シタルト否トノ一點ニ外ナラス之ヲ約言スレハ肥後盛
 貞ニ於テ額外ノ金五百圓ヲ領取シタル者トスルカ或ハ又其金圓ヲ松本與七ニ附與シタル者
 トスルカ是外形ノ所爲ニ就テ最モ審明ヲ要スル所ナリ且此被告事件ニ對シ松本與七ハ供述
 ハ直接ナル証人ノ地位ニ在リ而テ高橋峯吉吉田好義ノ兩名ハ褻ニ築治監ニ首出シタル者ナ
 リ故ニ本訴ノ事實變更セサル以上ハ高橋峯吉外一名ノ自首ト松本與七ノ陳述トハ獨リ確實
 ナリト謂ハサルヘカラサルノミナラス現ニ東京輕罪裁判所豫審ノ終結亦已ニ確定セリ然ル
 ニ原裁判所ニ於テ松本與七カ直接ナル証人ノ地位ニアルヲ顧ミス又豫審終結ノ確定ニモ拘
 ハラス概テ高橋峯吉吉田好義等ノ陳述アルモ其言固ヨリ信ヲ措クニ足ラスト斷定シタルハ
 其豫審ト公判トハ其体裁ヲ異ニスト雖モ同一ノ事件ニシテ裁判上一ニ確實ト爲リニ以テ不確
 實ト爲ルカ如キ理由ハ決テ存セサルナリ而テ其之ヲ心証ニ採ルト採ラサルトハ承審官ノ判
 定ニ從任セリト雖モ本案ノ如キ自首者并ニ証人ノ性質ニ對シ反証ヲ發見シ若クハ摸稜不備
 ノ陳述ニ涉リタル場合ニ於テ其理由ヲ明示セシテ直チニ信用ヲ措クニ足ラスト爲シ一概
 ニ之ヲ屏除シタルハ擅横ノ判定ナリト云フ可シ即チ治罪法第四百十條第九項及ヒ第十一項
 ノ場合ニ相當スル上告ノ原由アル者トス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ東京輕罪裁判所ニ於テ肥後盛貞ニ言渡シ
 タル裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ千葉輕罪裁判所ニ於テ審判セシムル者也
 第六百九十六號

○判文(私ニ銃砲ヲ所有ノ件) 明治十五年十一月十六日上告
 明治十六年五月三十日申渡

長崎縣肥前國佐賀郡西田代町居
 住平民

外 尾

嘉 七

明治十五年五月

四十四歲五月

私ニ銃砲ヲ所有シタル被告事件ニ付明治十五年五月三日佐賀輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ
 所爲ニ對シ刑法第百六十條ニ依リ罰金二圓ニ處シ銃砲ハ下渡スト裁判言渡シテ爲シタリ檢
 事補黒川秀波ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル旨趣ハ本件被告事件ハ明治五年第二百八十二
 號布告銃砲取締規則ニ違犯シタル者ニシテ刑法第百六十條ヲ以テ論ス可キ者ニ非ス何トナ
 レハ其現品ハ古製ノケール銃ニシテ且其臺木ヲ裁刪シテ火繩打ノ如クニ改造シ固ヨリ陸
 海軍ノ用ニ供ス可キ銃砲ニ非サレハナリ故ニ刑法ニ問擬シタルハ不法ノミナラス其銃砲ヲ
 下渡シタルハ刑法第四十三條ニ違背シタル裁判ナリト謂フニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ事實ノ認定ハ裁判官
 ノ特任ニ在リト雖モ本件ノ如キ其實事ト刑體ハ一定不變動カス可ラサル物質ニシテ即チ被
 告カ店頭ニ露出シタル小銃ノ果シテ圖面ノ如クナラハ固ヨリ刑法ノ管理スヘキ者ニ非サル
 ヤ論ヲ俟ス然ルニ原裁判ハ該物質ノ形體用法ノ如何ヲ問ハズシテ軍銃ノ名稱ヲ下シ處斷シ
 タルハ越權ノ處分ナルニ因リ破毀シテ相當ノ言渡アラントテ望ムト陳述セリ仍テ判決スル
 可左ノ如シ

被告人カ私有シタル小銃ヲ以テ原裁判官ハ軍用ニ供スル銃砲ト認テ刑法第六十條ヲ適用シテ裁判言渡シテ爲スト雖モ原書類ヲ閱スルニ檢察官ノ調書ニテイ銃トアリ上告趣意書ニテヘールトアリ因テ其圖面ヲ調査スルニ實ニゲヘールヲ改造シタル物質ナルカ如シ果シテ然レハ刑法第五十七條ニ所謂陸海軍ヲ用ニ供スル銃砲ニハ非サルナリ然ルニ原裁判所カ其刑體施用ノ如何ヲ審理セスシテ輒シテ刑法第六十條ニ論斷シタルハ專横ノ處分ニシテ治罪法第四百十條第十二項ノ場合ニ當ル上告ノ原由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ福岡輕罪裁判所ニ移シ審判セシムル者也

第六百九十七號

○判文(毆打創傷ノ件) 明治十五年十一月十五日上告
 明治十六年五月三十日申渡

大分縣豊前國宇佐郡長洲村居住
 平民船乘渡世

樺畑新之十

明治十五年五月

明治十五年五月四日中津輕罪裁判所ニ於テ右被告樺畑新之十カ所爲ハ人ヲ毆傷シ及ヒ巡查ニ拘引セラル、途中抗拒シタル罪アル者トシ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ舊法ノ輕キニ從ヒ二罪俱發スルヲ以テ一ノ重キ毆傷拒毆官司差人條ニ依リ重禁錮八十日ニ處スト言渡シタリ

原裁判所檢察補馬渡悅族ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人カ二罪ノ内巡查ニ對シ暴行抗拒シタル罪ハ捕亡律罪人拒捕條ニ依リ處斷ス可キ者ナリ然ルニ拒毆官司差人律ニ擬斷シタルハ錯誤ノ裁判ナリト云ラニ在リ對手人樺畑新之十ハ上告趣意ニ對シ別ニ異存無之旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢察ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

被告人ノ所爲ニ對シ原裁判所カ新舊ノ法ヲ比照シ刑法第三百一條第三項同第四百十條同第三百二十九條及ヒ毆傷律毆傷條等ヲ適用シタルハ相當ナリト雖モ巡查ニ抗拒シタル罪ヲ舊法毆傷拒毆官司差人條ニ照シ重禁錮八十日ト言渡シ且舊法ニ從ヒ處斷スルニ新法ノ刑名ヲ用ヒタルハ俱ニ擬律錯誤ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルコト左ノ如シ

樺畑新之十

原裁判所カ舉示シタル事實ノ理由及ヒ証憑ニ依リ被告人カ割木ヲ以テ人ヲ毆傷シ及ヒ巡查ニ抗拒シテ負傷セシメタル犯罪ナリトス之ヲ法律ニ照スニ所犯新法施行以前ニアルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スレハ其人ヲ毆傷シタルノ罪ハ新法ニ於テハ刑法第三百一條第三項ニ從カヒ十一月以上一月以下ノ重禁錮ニ該リ舊法ニ於テハ毆傷律毆傷條瓦石槌棒ヲ以テ人ヲ毆傷ヲ成テ者ヲ以テ論シ懲役四十日ニ該ル又巡查ニ對シ抗拒シタル罪ハ新法ニ於テハ刑法第三百二十九條同第四百十條同第三百一條第三項ニ照依シ重キニ從ヒ刑法第三百二十九條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ該リ舊法ニ

於テハ捕亡律罪人拒捕條追捕ヲ拒ル者ヲ以テ論シ本罪毆傷罪ニ二等ヲ加ヘ懲役六十日ニ該ル數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條及ヒ名例律三罪俱發以重論條ニ照シ巡查ニ對シ犯シタル罪ヲ重トシ刑法第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告第六條ニ從ヒ舊法ノ輕キニ依リ懲役六十日ニ處スルモノ也

第六百九十八號

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十二月二日上告
明治十六年五月三十日申渡

愛媛縣伊豫國温泉郡松前町二丁目平民

雇稼

池田直次郎

明治十五年七月

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月四日松山輕罪裁判所會議局ハ豫審終結言渡ニ對シ檢事補藤本重威カ故障ヲ爲シタルヲ採ラス豫審終結ヲ認可セシテ不法ナルトシ尙又上告セリ其要領ハ被告直次郎カ松山始審裁判所小使勤務中裁判所ノ雜書類ヲ竊取シタル事實ハ其目的トナル處數十百枚ノ紙ヲ竊取スルニアリテ文書ヲ毀棄スルニアラス唯ニ不正ノ利益ヲ収ムル爲メニセシ所爲ニ過キサレハ刑法第二百三條ニ問擬スヘキモノニアラス單ニ竊盜罪ニ問擬スヘキモノナルニ原裁判所會議局ハ之ヲ二罪トシ豫審終結ヲ認可セシハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手人池田直次郎ニ於テハ檢察官上告ノ如ク現ニ竊取シタル反古ハ澁紙ニ張込ミタルモノ

ナレハ刑法第二百三條第二項ノ性質トハ異ナルモノニテ原判決ハ不當ナリト答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ刑法第二百三條官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦全シトアリテ其盜取ヲ云ハス毀棄ヲ主トシタル文詞ニテ官ノ事業ヲ妨害スルカ又ハ自己他人ノ惡事ヲ掩蔽セントスル目的ニ出テタル所爲ニ適當スヘキ法律コト直次郎カ被告事實ノ如キ單ニ竊取ノ意ニ止リテ他ニ目的アルニアラサレハ本條ノ支配スヘキモノニアラサルナリ然ルチ原會議局ハ之ヲ毀棄官文書及ヒ竊盜ノ二罪ナリト判定シ重罪裁判所ニ移ストノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ擬律錯誤ナリト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原判決ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

池田直次郎

原判決言渡ニ掲ケタル事實ノ理由及ヒ証憑トニ據リ竊盜ノ罪ヲ犯シタルハ明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル輕罪ナリトス

因テ池田直次郎カ被告事件ハ松山輕罪裁判所ニ移ス者也

第六百九十九號

○判文(囚徒逃走ノ件) 明治十五年十一月廿四日上告
明治十六年五月三十日申渡

三重縣伊勢國鈴鹿郡下ノ庄村平

民農業未決囚

新開 春 吉

明治十五年八月
二十四年七月

東京府日本橋區駿河町平民小間

物商當今懲役囚

村上

幸太郎

囚徒逃走被告事件ニ付明治十五年七月十八日安濃津輕罪裁判所カ刑法第四百四十四條同第百

四十二條同第百四十九條同第百十二條ニ依リ各重禁錮六月ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢

事補横山高成ハ上告セリ其要領ハ新開春吉ハ持兇器強盜村上幸太郎ハ身分詐稱竊盜等ノ各

被告事件アリテ豫審中ニ係ル即チ未決ノ囚人ナレハ今其局ヲ結ハス延引シテ原犯ノ罪ト併

セ所斷スヘキモノナルニ裁判官ハ原犯罪ノ判決ニ先チ囚徒逃走ノ罪ヲ斷シタルハ刑法第百

四十四條ノ明文ニ抵觸スル不法ノ裁判ナリト云フコアリ

對手ハ新開春吉村上幸太郎ハ之ニ答辨セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案公訴ノ如キハ被告各自ニ本罪アリテ豫審中ニ係ルモノナレハ宜ク其終結ヲ待チ併セテ

求判スルキモノナルニ檢察官ハ豫審終結ヲ待タズ特リ囚徒逃走ノ罪ノニ求判セシハ求判ノ

順序ヲ紊亂セシ不法ノ手續ナリト云ハサルヲ得ズ然ラハ則チ裁判官ハ訴ヘアルニ因リ裁判

ナ與ヘタルモノニテ毫モ失當ニアラス然リト雖モ裁判官ニ於テハ斯ノ如キ公訴手續ノ正當

ナラサルヲ顧ミテ刑法第四百四十四條未決囚徒云々但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發

ノ例ニ照シテ處斷スト特例ヲ示シタルニ輒ク裁判ヲ與ヘタルハ手續上法律ニ背キタルモノ

ニテ越權ナリト云ハサルヲ得サルナリ

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百三十條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ取消ス者也

第七百號

◎判文(賣藥犯則ノ件) 明治十六年五月八日上告

明治十六年五月三十日申渡 大坂府北區旅籠町七番地平民

小 山 忠 兵 衛

右忠兵衛カ被告事件ニ付明治十六年三月二十六日大坂輕罪裁判所於テ被告ハ明治十三年三

月以來繼續シテ府下東區南久太郎町二丁目小山忠兵衛カ免許ヲ受テ發賣スルヒセソ湯藥ヲ

價造發賣セシ者ト認定シ明治十年第七號布告賣藥規則第二十四條及ヒ明治十四年第七十二

號布告第三條ニ照シ罰金八十圓ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル判本印書類ハ刑法第四十三條ニ

依リ沒收スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告忠兵衛ハ裁判確定ノ後再審ヲ訴テ爲シタル要旨

本件ノヒセソ湯藥ハ第一號乃至第七號証ノ如ク明治十三年三月大坂府南久太郎町二丁目ホ

番地小山忠右衛門ヨリ公然讓受ケ大坂府廳內務省及ヒ戶長役場等ノ許可ヲ得其後引續キ發